

## 企画・プロデュース(1.1.1) A.企業戦略

### スキル評価指標

以下について、事業部門／知的財産部門／研究開発部門の連携の下で計画を立案／実行を統括するスキル(実績、経験もしくは能力)を有する。

#### ①成長戦略ビジョン

1. 自社(グループ会社を含む)の成長戦略(例:新規事業への参入、安定事業からの安定的な利益確保、注力事業への重点投資等)の事業ドメインにおける技術開発競争・特許動向・関連する将来予測の調査・分析(例:情報収集のための調査計画立案、競合他社や異業種企業とのベンチマーク実施計画立案、機密情報管理と情報収集を両立させた実行部門への指示等を含む)／知的財産経営の視点からの成長戦略ビジョンの立案／意思決定への参画。
2. 中長期に渡る自社の知的財産優位性を確立できる事業・技術ドメインの分析、知的財産優位性の確立・継続のための具体的な施策の立案／意思決定への参画。
3. 自社(グループ会社を含む)の成長戦略に従って、必要となる外部環境(例:規格・標準化、国内外の関連法制度等)へ関与するための具体的な実施計画の立案／実行の統括。

#### ②知的財産ポートフォリオ設計

1. 成長戦略ビジョンで定義された事業・技術ドメインに関する、知的財産ポートフォリオの投資管理のための基本戦略・具体的な施策の立案。
2. 成長戦略ビジョンで定義された事業・技術ドメインでの知的財産力の評価基準(例:特許ポートフォリオの強さ等)／知的財産ポートフォリオ投資効率の評価基準(例:知的財産製品化度、新製品売上に対する全製品売上比率等)の立案。
3. 上記の評価指標に従った知的財産力・知的財産ポートフォリオ投資効率についての継続的評価。

#### ③組織設計

1. 成長戦略ビジョンで定義された事業・技術ドメインに関しての知的財産力強化、共通技術基盤構築、ブランド戦略、知的財産経営のための全社組織(例:CTO会議、全社会議、タスクフォース等)の組織設計計画(例:組織ミッション、運用体制、方法等)の立案／実行の統括。
2. 上記全社組織に対する知的財産経営の視点からの意思決定材料・戦略選択肢の提示／意思決定への参画。

#### ④人事・インセンティブ制度設計

人事制度(例:人材採用計画、人材育成制度、人事評価制度)・インセンティブ制度(例:職務発明制度、報奨金制度、フェロー制度)の設計、定量的評価基準の立案／実行の統括。

#### ⑤リスクマネジメント

1. 自社のコア事業・技術ドメインでの事業推進に関連する知的財産経営の視点から想定されるリスク(例:特許訴訟リスク、特許トロール、模倣品対策による事業機会喪失リスク、知的財産情報セキュリティリスク、事業継続リスク等)の分析に基づいたリスクマネジメント施策・手法の立案／実行の統括。
2. 自社のコア事業・技術ドメインでの事業推進に関連するコンプライアンス課題(例:独禁法等の知的財産に関連する法規)に対する知的財産経営の視点からの分析に基づいたコンプライアンス施策・手法の立案／実行の統括。

#### ⑥情報戦略

知的財産経営の視点からのIR／PR／市場ステークホルダー(例:顧客、パートナー等)向け告知等(例:知的資産・経営報告書)の情報戦略・具体的実行施策の立案／実行の統括。

#### ⑦製品開発基盤

1. 自社(グループ会社を含む)の製品開発基盤の整備、全社シナジー効果増大のための施策(例:複数の製品の設計プロセスの共通化)に関連した知的財産経営の視点からの具体的計画(例:製品開発基盤技術に関する知的財産ポートフォリオ構築・実行の統括方法、リスク分析等)の立案／実行の統括。
2. 上記の基盤整備・施策に関連する全社組織(例:CTO会議、タスクフォース等)に対する、知的財産経営の視点からの意思決定支援材料・戦略選択肢の提示／意思決定への参画。

#### ⑧生産技術基盤

1. 自社(グループ会社を含む)の生産技術開発基盤の整備、全社シナジー効果増大のための施策(例:複数の製品の生産ライン／部品の共通化)に関連した、知的財産経営の視点からの具体的計画(例:グローバルSCM構築の際の知的財産契約スキーム立案、実行の統括方法、リスク分析等)の立案／実行の統括。
2. 上記の基盤整備・施策に関連する全社組織(例:CTO会議、タスクフォース等)に対する、知的財産経営の視点からの意思決定支援材料・戦略選択肢の提示／意思決定への参画。

#### ⑨ブランド

1. 自社の全社的なブランド戦略(例:ブランドのダイリューション、ポリューションへの対応)の立案に関連した知的財産経営の視点からの戦略の立案／実行の統括。
2. 上記のブランド戦略に関して、関連部局と連携するための全社組織の設計／実行の統括。

## 企画・プロデュース(1. 1. 1) B.事業戦略

### スキル評価指標

以下について、事業部門／知的財産部門／研究開発部門の連携の下で計画を立案／実行を統括するスキル(実績、経験もしくは能力)を有する。

#### ①事業アライアンス

1. 事業アライアンス戦略の計画・遂行における知的財産経営の視点でのアライアンスの事業価値評価、リスク分析評価(アライアンス企業の知的財産力・知的財産資産価値評価、アライアンス企業の知的財産に関連するリスク分析、アライアンスに関連するコンプライアンス課題分析を含む)。
2. 具体的事業アライアンスの知的財産契約スキームの立案／交渉。
3. 事業アライアンス契約期間中の知的財産関連の権利・義務行使に関連した経営上の課題の解決。

#### ②知的財産ポートフォリオ設計

1. 成長戦略ビジョンで定義された、事業・技術ドメインに関する知的財産ポートフォリオの投資管理のための基本戦略・具体的施策の立案。
2. 成長戦略ビジョンで定義された、事業・技術ドメインでの知的財産力の評価基準(例:特許ポートフォリオの強さ等)、知的財産ポートフォリオ投資効率の評価基準(例:知的財産製品化度、新製品売上に対する全製品売上比率等)の立案。
3. 上記の評価指標に従った知的財産力／知的財産ポートフォリオ投資効率の継続的評価。

#### ③技術ライセンス

1. 技術ライセンス戦略(例:自社ライセンスを活用した市場独占/寡占戦略および事業の自由度確保、ライセンス供与戦略、ライセンスイン戦略、クロスライセンス戦略、ノウハウライセンス戦略)の計画・遂行における、技術ライセンス相手企業の知的財産力・知的財産資産価値評価、アライアンス企業の知的財産に関連したリスク分析、技術ライセンスに関連したコンプライアンス課題の分析。
2. 具体的な技術ライセンスの知的財産契約スキームの立案／交渉。
3. 技術ライセンスを活用した戦略に関する実行の統括。
4. 技術ライセンス契約期間中の知的財産関連の権利・義務行使に関連した経営上の課題の解決。

#### ④パテントプール

1. パテントプールの知的財産契約スキーム設計、スキーム&シナリオ選択肢の立案、パテントプールスキームへの参画における知的財産リスク／コンプライアンス課題の分析。
2. 具体的なパテントプールスキーム参画の際における権利・義務行使に関連した経営上の課題の解決。
3. パテントプールスキーム契約の解約・解除に伴う知的財産関連の権利・義務行使に関連した経営上の課題の解決。

#### ⑤企業合併・買収

1. 企業合併・買収の計画・遂行における知的財産経営の視点での合併・買収先の事業価値評価／リスク分析評価(合併・買収企業の知的財産力・知的財産資産価値評価、合併・買収先企業の知的財産に関連するリスク分析、合併・買収に関連するコンプライアンス課題分析を含む)。
2. 具体的な合併・買収に関連する知的財産契約スキームの立案／交渉。
3. 合併・買収後の知的財産関連の権利・義務行使に関連した経営上の課題の解決。
4. 企業分割に関連する知的財産契約スキームの立案／交渉。

#### ⑥JV・スピノフ

1. JV・スピノフ企業の設立の計画・遂行における知的財産契約スキームの立案／交渉。
2. 設立後のJV・スピノフ企業との知的財産関連の権利・義務行使に関連した経営上の課題の解決。
3. JV・スピノフ企業の解消に関連した知的財産契約スキーム立案／交渉。

#### ⑦事業撤退・売却

自社の個別事業撤退・売却の計画・遂行における残存知的財産活用の戦略・施策／売却後の知的財産リスク・ライアビリティ分析・回避策の立案／実行の統括。

## 企画・プロデュース(1. 1. 1) C.生産戦略

### スキル評価指標

以下について、事業部門／知的財産部門／研究開発部門の連携の下で計画を立案／実行を統括するスキル(実績, 経験もしくは能力)を有する。

#### ①SCM

1. SCM戦略の計画段階での対象国・地域での知的財産リスク分析および知的財産関連のコンプライアンス課題分析, 分析結果に基づく戦略・施策の立案。
2. SCM戦略の実行段階における、知的財産経営の視点から実行の統括。
3. SCM戦略の変更の際における、知的財産経営の視点から戦略変更の実行の統括。

#### ②調達

SCM戦略の下で外部部材・部品メーカーより調達することに関連した、自社営業秘密保護施策・社内運用規程施策の立案／実行の統括。

知財スキル標準ver.1.0

## 企画・プロデュース(1. 1. 1) D.販売戦略

### スキル評価指標

以下について、事業部門／知的財産部門／研究開発部門の連携の下で計画を立案／実行を統括するスキル(実績, 経験もしくは能力)を有する。

#### ①ブランド

知的財産経営の視点を含めての個別製品のブランド戦略に関する戦略の立案／実行の統括。

#### ②リスクマネジメント

1. 個別製品の市場投入の際における、知的財産経営の視点から想定されるリスク(例:特許訴訟リスク、模倣品対策による事業機会喪失リスク、知的財産情報セキュリティリスク、その他事業継続リスク)の分析／実行の統括。
2. 個別製品のコンプライアンス課題(例:独禁法, その他知的財産に関連する法規)の知的財産経営の視点からの分析, コンプライアンス施策の立案／実行の統括。

知財スキル標準ver.1.0

## 企画・プロデュース(1. 1. 1) E.知的財産戦略

### スキル評価指標

以下について、知的財産部門／事業部門／研究開発部門の連携の下で計画を立案／実行を統括するスキル(実績、経験もしくは能力)を有する。

#### ①知的財産経営

1. 知的財産経営に資する特許戦略(創造戦略, 出願戦略, 活用戦略等を含む), デザイン戦略(出願戦略を含む), ブランド戦略(出願戦略を含む)の計画の立案／実行の統括。
2. 知的財産経営に資する企業戦略立案のための調査／選択肢の提示／計画の立案／意思決定への参画, 企業戦略に必要な知的財産業務の実行の統括(具体的な内容は「企画・プロデュース(1. 1. 1) A.企業戦略」の項目を参照)。
3. 知的財産経営に資する事業戦略立案のための調査／選択肢の提示／計画の立案／意思決定への参画, 事業戦略に必要な知的財産業務の実行の統括(具体的な内容は「企画・プロデュース(1. 1. 1) B.事業戦略」の項目を参照)。
4. 知的財産経営に資する生産戦略立案のための調査／選択肢の提示／計画の立案／意思決定への参画, 生産戦略に必要な知的財産業務の実行の統括(具体的な内容は「企画・プロデュース(1. 1. 1) C.生産戦略」の項目を参照)。
5. 知的財産経営に資する販売戦略立案のための調査／選択肢の提示／計画の立案／意思決定への参画, 販売戦略に必要な知的財産業務の実行の統括(具体的な内容は「企画・プロデュース(1. 1. 1) D.販売戦略」の項目を参照)。
6. 知的財産経営に資する研究開発戦略立案のための調査／選択肢の提示／計画の立案／意思決定への参画, 研究開発戦略に必要な知的財産業務の実行の統括(具体的な内容は「企画・プロデュース(1. 1. 1) F.研究開発戦略」の項目を参照)。
7. 知的財産経営に資するコンテンツ開発戦略立案のための調査／選択肢の提示／計画の立案／意思決定への参画, コンテンツ開発に必要な知的財産業務の実行の統括(具体的な内容は「企画・プロデュース(1. 1. 1) G.コンテンツ開発戦略」の項目を参照)。
8. 知的財産経営に資する標準化戦略立案のための調査／選択肢の提示／計画の立案／意思決定への参画, 標準化戦略に必要な知的財産業務の実行の統括(具体的な内容は「企画・プロデュース(1. 1. 1) H.標準化戦略」の項目を参照)。

#### ②知的財産ポートフォリオ構築

1. コア事業・技術テーマにおける特許出願戦略／ブラックボックス戦略の立案／実行の統括。
2. グローバル特許戦略の立案／実行の統括。
3. 出願国(地域を含む)毎の出願・管理に関する戦略の立案／実行の統括。
4. 知的資産評価基準の設定・基準に基づいた知的財産ポートフォリオ資産評価。
5. 知的財産ポートフォリオ構築のための投資計画立案／投資効率評価基準設定／無形資産価値評価(例: 関連会社との譲渡・譲受・ロイヤリティ契約の際の評価・税務)。

#### ③知的財産活用

知的財産活用戦略(例: 事業推進のための独占戦略・クロスライセンス戦略, 休眠特許の棚卸しと活用等)の立案／実行の統括。

#### ④エンフォースメント

1. 知的財産訴訟・模倣品対策に関連する調査(例: 訴訟対象の国(地域を含む)毎の知的財産関連法規、訴訟判例等)についての計画の立案／実行の統括。
2. 訴訟対象となっている国(地域を含む)毎の知的財産訴訟戦略／模倣品対応戦略の立案／実行の統括。
3. 具体的な訴訟ケース(模倣品対策も含む)に対する対応業務の実行の統括。

## 企画・プロデュース(1. 1. 1) F.研究開発戦略

### スキル評価指標

以下について、研究開発部門／知的財産部門／事業部門の連携の下で計画を立案／実行を統括するスキル(実績、経験もしくは能力)を有する。

#### ①製品開発

1. 製品開発成果に関する特許出願戦略／ブラックボックス戦略に基づく知的財産ポートフォリオ構築。
2. 複数事業部門横断の製品開発における知的財産ポートフォリオ戦略の設計。
3. 開発された製品の市場投入段階における知的財産経営の視点からのリスク分析／コンプライアンスの実行の統括。

#### ②中期研究開発

中期レンジ(中期経営計画期間レンジ)で事業・技術ドメインでの技術間競争に関する俯瞰分析を実施した上での事業・技術ドメインで自社が優位性を発揮するための研究開発戦略／知的財産戦略の立案／実行の統括。

#### ③長期研究開発

長期レンジ(中期経営計画より長い期間レンジ)で事業・技術ドメインでの技術間競争に関する俯瞰分析を実施した上での事業・技術ドメインで自社が優位性を発揮するための研究開発戦略／知的財産戦略の立案／実行の統括。

#### ④開発アライアンス

知的財産経営の視点での自社の研究開発の補完機能としての外部企業／大学／研究所／その他組織との技術開発アライアンス(例:研究・開発委託, 共同研究, 産学連携)戦略の企画・調査の際における候補先の選定・知的財産力の評価／知的財産契約スキームの立案。

#### ⑤評価・開発管理

製品開発／中期研究開発／長期研究開発に対する、知的財産力(例:コア事業・技術ドメインでの知的財産ポートフォリオ構築)の評価基準の立案, 研究開発投資効率の評価／実行の統括。

知財スキル標準ver.1.0

## 企画・プロデュース(1. 1. 1) G.コンテンツ開発戦略

### スキル評価指標

以下について、事業部門／知的財産部門の連携の下で計画を立案／実行を統括するスキル(実績、経験もしくは能力)を有する。

#### ①コンテンツ企画

1. コンテンツ開発計画に伴うプロモーション・販売計画の立案(コンテンツの2次利用や派生品展開を含む)／実行の統括。
2. 上記の計画に従った実施体制構築・資金調達のための権利処理(契約スキーム, 交渉, Due Diligence, 制作委員会, 知的財産信託, エージェント契約等を含む)。

#### ②コンテンツ活用

コンテンツ活用戦略(例:音源の貸し出し, キャラクターの利用許諾)の立案／実行の統括。

#### ③エンフォースメント

1. 権利侵害に関する調査(例:対象の国・地域毎の関連法規、訴訟判例等)の計画／実行の統括。
2. 権利侵害に関する対象国・対象地域毎の対応戦略(例:警告/訴訟戦略等)の立案／実行の統括(例:具体的な訴訟ケースを含む対応業務)。

#### ④評価・開発管理

コンテンツ開発に対する知的財産力の評価基準の立案, 開発投資効率の評価／実行の統括。

知財スキル標準ver.1.0

## 企画・プロデュース(1. 1. 1) H.標準化戦略

### スキル評価指標

以下について、事業部門／知的財産部門／研究開発部門の連携の下で計画を立案／実行を統括するスキル(実績, 経験もしくは能力)を有する。

#### ①知的財産ポートフォリオ設計

1. 内部環境(例:自社の企業戦略/事業戦略/研究開発戦略等)と外部環境(例:市場における技術開発競争, 特許動向, 市場予測等)の双方についての調査・分析。
2. 上記の調査・分析に基づいた標準化戦略に取り組むべき技術・製品ドメインの知的財産経営の視点からの選定, 関連する事業・技術ドメインでの知的財産力強化施策(例:関連技術の研究開発戦略と知的財産ポートフォリオの設計, 関連製品のブランド戦略)の計画立案／実行の統括。
3. 組織設計(例:標準化タスクフォース等の組織ミッション, 運用体制, 方法の定義等)／実行の統括(例:組織への参加の働きかけ, コーディネーション)。

#### ②技術ポジション強化

1. 技術・規格の標準化戦略(例:クロスライセンス, パテントプール, 標準化コンソーシアム組織化等)の分析に基づいた実行計画の立案／実行の統括。
2. 知的財産経営の視点からのコンプライアンス課題・事業リスクについての分析に基づいた対策の立案／実行の統括。
3. 上記計画に関する情報戦略(例:技術標準化団体・顧客・パートナー等に向けた告知等)の具体的実行施策の立案／実行の統括。

#### ③製品ポジション強化

1. 各種規格(例:関連環境基準)の標準化戦略(例:クロスライセンス, パテントプール, 標準化コンソーシアム組織化等)の分析に基づいた実行計画の立案／実行の統括。
2. 知的財産経営の視点から分析したコンプライアンス課題・事業リスクについての分析に基づいた対策の立案／実行の統括。
3. 上記計画に関する情報戦略／ブランド戦略(例:顧客・パートナー等に向けた告知等)の具体的実行施策の立案／実行の統括。

知財スキル標準ver.1.0

## 情報(2.1.1) A.情報開示

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の企業戦略に沿って、広報、経営その他社内(例:事業部門)への知的財産関連情報(例:自社の知的財産戦略・方針)の発信に関する情報収集/企画/実施/評価/報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の企業戦略に沿って、広報、経営その他社内(例:事業部門)への知的財産に関する発信情報(例:自社の知的財産戦略・方針)の現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 自社の企業戦略に沿って、「知的資産・経営報告書」またはこれに類するものの情報収集/企画/実施/評価/報告書作成(部分的なものを含む)を成功裡に行った。</li> <li>4. 自社の企業戦略に沿って、「知的資産・経営報告書」またはこれに類するものの現状分析/改善を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報開示関連業務に必要な国内外の法律の改正情報・判例の事項の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報開示に関する実務(例:広報、「知的資産・経営報告書」、IR、知的財産資産価値評価手法)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 情報開示関連業務に必要な技術(例:担当事業に関する最新技術の動向)の初歩的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:諸外国の知的財産関連情報)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準 ver.1.0

## 情報(2.1.1) A.情報開示

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の企業戦略に沿って、広報、経営その他社内(例:事業部門)への知的財産関連情報(例:自社の知的財産戦略・方針)の発信に関する情報収集/企画/実施/評価/報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の企業戦略に沿って、広報、経営その他社内(例:事業部門)への知的財産に関する発信情報(例:自社の知的財産戦略・方針)の現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 自社の企業戦略に沿って、「知的資産・経営報告書」またはこれに類するものの情報収集/企画/実施/評価/報告書作成(部分的なものを含む)を成功裡に行った。</li> <li>4. 自社の企業戦略に沿って、「知的資産・経営報告書」またはこれに類するものの現状分析/改善を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報開示関連業務に必要な国内外の法律の改正情報・判例の事項の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報開示に関する実務(例:広報、「知的資産・経営報告書」、IR、知的財産資産価値評価手法)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 情報開示関連業務に必要な技術(例:担当事業に関する最新技術の動向)の基本的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:諸外国の知的財産関連情報)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる(例:社外への発信情報の原稿を作成できる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準 ver.1.0

## 情報(2.1.1) A.情報開示

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標	
レベル3	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <p>1. 自社の企業戦略に沿って、広報、経営その他社内(例:事業部門)への知的財産関連情報(例:自社の知的財産戦略・方針)の発信に関する情報収集／企画／実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。</p> <p>2. 自社の企業戦略に沿って、広報、経営その他社内(例:事業部門)への知的財産に関する発信情報(例:自社の知的財産戦略・方針)の現状分析／改善を成功裡に行った。</p> <p>3. 自社の企業戦略に沿って、「知的資産・経営報告書」またはこれに類するものの情報収集／企画／実施／評価／報告書作成(部分的なものを含む)を成功裡に行った。</p> <p>4. 自社の企業戦略に沿って、「知的資産・経営報告書」またはこれに類するものの現状分析／改善を成功裡に行った。</p> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 効果が実際に確認された(例:自社全体の知的財産に関する意識を高めた)。<b>[必須]</b></p> <p>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</p> <p>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</p> <p>4. 社内講師を担当した。</p> <p>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</p> <p>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</p> <p>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b>                      1. 情報開示関連業務に必要な国内外の法律の改正情報・判例の事項の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>③実務</b>                      1. 情報開示に関する実務(例:広報、「知的資産・経営報告書」、IR、知的財産資産価値評価手法)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>④技術</b>                      情報開示関連業務に必要な技術(例:担当事業に関する最新技術の動向)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b>                      外国語(例:英語)の情報(例:諸外国の知的財産関連情報)を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる(例:社外への発信情報の原稿を作成できる)。</p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者と連携し、協働できる。</p> <p>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 情報(2.1.1) A.情報開示

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標	
レベル4	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <p>1. 自社の企業戦略に沿って、広報、経営その他社内(例:事業部門)への知的財産関連情報(例:自社の知的財産戦略・方針)の発信に関する情報収集／企画／実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。</p> <p>2. 自社の企業戦略に沿って、広報、経営その他社内(例:事業部門)への知的財産に関する発信情報(例:自社の知的財産戦略・方針)の現状分析／改善を成功裡に行った。</p> <p>3. 自社の企業戦略に沿って、「知的資産・経営報告書」またはこれに類するものの情報収集／企画／実施／評価／報告書作成(部分的なものを含む)を成功裡に行った。</p> <p>4. 自社の企業戦略に沿って、「知的資産・経営報告書」またはこれに類するものの現状分析／改善を成功裡に行った。</p> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の効果が実際に確認された(例:自社全体の知的財産に関する意識を高めた)。<b>[必須]</b></p> <p>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</p> <p>3. 担当事業分野全体の規模で行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</p> <p>4. 社内講師を担当した。</p> <p>5. 社内委員会を主導した。</p> <p>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</p> <p>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p><b>②法律</b>                      1. 情報開示関連業務に必要な国内外の法律の改正情報・判例の事項の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>③実務</b>                      1. 情報開示に関する実務(例:広報、「知的資産・経営報告書」、IR、知的財産資産価値評価手法)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>④技術</b>                      情報開示関連業務に必要な技術(例:担当事業に関する最新技術の動向)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b>                      外国語(例:英語)の情報(例:諸外国の知的財産関連情報)を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる(例:社外への発信情報の原稿を作成できる)。</p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者と連携し、協働できる。</p> <p>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 情報(2.1.1) A.情報開示

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <p>1. 自社の企業戦略に沿って、広報、経営その他社内(例:事業部門)への知的財産関連情報(例:自社の知的財産戦略・方針)の発信に関する情報収集／企画／実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。</p> <p>2. 自社の企業戦略に沿って、広報、経営その他社内(例:事業部門)への知的財産に関する発信情報(例:自社の知的財産戦略・方針)の現状分析／改善を成功裡に行った。</p> <p>3. 自社の企業戦略に沿って、「知的資産・経営報告書」またはこれに類するものの情報収集／企画／実施／評価／報告書作成(部分的なものを含む)を成功裡に行った。</p> <p>4. 自社の企業戦略に沿って、「知的資産・経営報告書」またはこれに類するものの現状分析／改善を成功裡に行った。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:自社全体の知的財産に関する意識を高めた)。<b>[必須]</b></p> <p>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</p> <p>3. 全社的規模で行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 社内講師を担当した。</p> <p>4. 社内委員会を主導した。</p> <p>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</p> <p>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <p>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>②法律</b></p> <p>1. 情報開示関連業務に必要な国内外の法律の改正情報・判例の事項の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>③実務</b></p> <p>1. 情報開示に関する実務(例:広報、「知的資産・経営報告書」、IR、知的財産資産価値評価手法)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>④技術</b> 情報開示関連業務に必要な技術(例:担当事業に関する最新技術の動向)の専門的又は広範かつ統合的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:諸外国の知的財産関連情報)を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる(例:社外への発信情報の原稿を作成できる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <p>1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者と連携し、協働できる。</p> <p>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
	<p>レベル</p> <p>5</p>	<p>知財スキル標準ver.1.0</p>

## 情報(2.1.1) B.情報収集・分析

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	以下の条件の実績と経験を有する。 <b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応	以下の条件の能力を有する。 <b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。
	<b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上) 1. 知的財産戦略に関連する社内外(例:技術部門)からの情報収集方針の企画/実施(例:ポートフォリオ分析, 特許マップを用いた企業・事業・製品・サービスの市場の動向と知的財産の関係分析)/評価/報告書作成(例:特許出願の基本方針, 目標)を成功裡に行った。 2. 知的財産戦略に関連する社内外(例:技術部門)からの情報収集の現状分析/改善を成功裡に行った。 3. 知的財産戦略に関する情報収集/企画/実施/評価/報告書作成を成功裡に行った。 4. 知的財産戦略の現状分析/改善を成功裡に行った。 5. 上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。	<b>②法律</b> 1. 情報収集・分析関連業務に必要な国内外の法律の改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。
	<b>③重要性</b>	<b>③実務</b> 1. 情報収集・分析に関する実務(例:知的財産戦略理論, 各国の知的財産国家施策の動向, 技術経営, QFD(技術要素展開)等のマーケットリサーチ技術, ポートフォリオ分析, 特許マップ, 自社のマーケット情報, 他国への進出状況, 製品計画情報)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。
	<b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。 1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。	<b>④技術</b> 情報収集・分析関連業務に必要な技術(例:担当事業に関する最新技術の動向)の初歩的な事項を理解することができる。
	<b>⑤その他</b>	<b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:諸外国の知的財産関連情報)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。 <b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者と連携し、協働できる。 3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。 <b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。

知財スキル標準ver.1.0

## 情報(2.1.1) B.情報収集・分析

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	以下の条件の実績と経験を有する。 <b>①責任性</b> 担当者として対応	以下の条件の能力を有する。 <b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。
	<b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上) 1. 知的財産戦略に関連する社内外(例:技術部門)からの情報収集方針の企画/実施(例:ポートフォリオ分析, 特許マップを用いた企業・事業・製品・サービスの市場の動向と知的財産の関係分析)/評価/報告書作成(例:特許出願の基本方針, 目標)を成功裡に行った。 2. 知的財産戦略に関連する社内外(例:技術部門)からの情報収集の現状分析/改善を成功裡に行った。 3. 知的財産戦略に関する情報収集/企画/実施/評価/報告書作成を成功裡に行った。 4. 知的財産戦略の現状分析/改善を成功裡に行った。 5. 上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。	<b>②法律</b> 1. 情報収集・分析関連業務に必要な国内外の法律の改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。
	<b>③重要性</b>	<b>③実務</b> 1. 情報収集・分析に関する実務(例:知的財産戦略理論, 各国の知的財産国家施策の動向, 技術経営, QFD(技術要素展開)等のマーケットリサーチ技術, ポートフォリオ分析, 特許マップ, 自社のマーケット情報, 他国への進出状況, 製品計画情報)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。
	<b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。 1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。	<b>④技術</b> 情報収集・分析関連業務に必要な技術(例:担当事業に関する最新技術の動向)の基本的な事項を理解することができる。 <b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:諸外国の知的財産関連情報)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。 <b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者と連携し、協働できる。 3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。
	<b>⑤その他</b>	<b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。

知財スキル標準ver.1.0

## 情報(2.1.1) B.情報収集・分析

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標	
レベル3	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的財産戦略に関連する社内外(例:技術部門)からの情報収集方針の企画／実施(例:ポートフォリオ分析, 特許マップを用いた企業・事業・製品・サービスの市場の動向と知的財産の関係分析)／評価／報告書作成(例:特許出願の基本方針, 目標)を成功裡に行った。</li> <li>2. 知的財産戦略に関連する社内外(例:技術部門)からの情報収集の現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 知的財産戦略に関する情報収集／企画／実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>4. 知的財産戦略の現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>5. 上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:戦略の企画案が実際に採用され、実行された)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集・分析関連業務に必要な国内外の法律の改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集・分析に関する実務(例:知的財産戦略理論, 各国の知的財産国家施策の動向, 技術経営, QFD(技術要素展開)等のマーケットリサーチ技術, ポートフォリオ分析, 特許マップ, 自社のマーケット情報, 他国への進出状況, 製品計画情報)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 情報収集・分析関連業務に必要な技術(例:担当事業に関する最新技術の動向)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:諸外国の知的財産関連情報)を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準 ver.1.0

## 情報(2.1.1) B.情報収集・分析

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標	
レベル4	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的財産戦略に関連する社内外(例:技術部門)からの情報収集方針の企画／実施(例:ポートフォリオ分析, 特許マップを用いた企業・事業・製品・サービスの市場の動向と知的財産の関係分析)／評価／報告書作成(例:特許出願の基本方針, 目標)を成功裡に行った。</li> <li>2. 知的財産戦略に関連する社内外(例:技術部門)からの情報収集の現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 知的財産戦略に関する情報収集／企画／実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>4. 知的財産戦略の現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>5. 上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:戦略の企画案が実際に採用され、実行された)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 担当事業分野全体の規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集・分析関連業務に必要な国内外の法律の改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集・分析に関する実務(例:知的財産戦略理論, 各国の知的財産国家施策の動向, 技術経営, QFD(技術要素展開)等のマーケットリサーチ技術, ポートフォリオ分析, 特許マップ, 自社のマーケット情報, 他国への進出状況, 製品計画情報)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 情報収集・分析関連業務に必要な技術(例:担当事業に関する最新技術の動向)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:諸外国の知的財産関連情報)を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準 ver.1.0

## 情報(2.1.1) B.情報収集・分析

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <p>1. 知的財産戦略に関連する社内外(例:技術部門)からの情報収集方針の企画／実施(例:ポートフォリオ分析, 特許マップを用いた企業・事業・製品・サービスの市場の動向と知的財産の関係分析)／評価／報告書作成(例:特許出願の基本方針, 目標)を成功裡に行った。</p> <p>2. 知的財産戦略に関連する社内外(例:技術部門)からの情報収集の現状分析／改善を成功裡に行った。</p> <p>3. 知的財産戦略に関する情報収集／企画／実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。</p> <p>4. 知的財産戦略の現状分析／改善を成功裡に行った。</p> <p>5. 上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:戦略の企画案が実際に採用され、実行された)。<b>[必須]</b></p> <p>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</p> <p>3. 全社的規模で行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 社内講師を担当した。</p> <p>4. 社内委員会を主導した。</p> <p>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</p> <p>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <p>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>②法律</b></p> <p>1. 情報収集・分析関連業務に必要な国内外の法律の改正情報・判例の高度に専門的な事項(例:専門書／専門雑誌／学会論文レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>③実務</b></p> <p>1. 情報収集・分析に関する実務(例:知的財産戦略理論, 各国の知的財産国家施策の動向, 技術経営, QFD(技術要素展開)等のマーケットリサーチ技術, ポートフォリオ分析, 特許マップ, 自社のマーケット情報, 他国への進出状況, 製品計画情報)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>④技術</b> 情報収集・分析関連業務に必要な技術(例:担当事業に関する最新技術の動向)の専門的又は広範かつ統合的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:諸外国の知的財産関連情報)を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <p>1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者と連携し、協働できる。</p> <p>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		<p>知財スキル標準 ver.1.0</p>

## 情報(2.1.1) C.システム

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <p>1. 自社の知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、知的財産に関連する各種データベースまたは知財業務システム(出願支援、事務管理等)についてシステムの情報収集/企画(選定を含む)/実施(導入・保守運用を含む。構築の場合は部分的なものを含む)/評価/報告書作成を成功裡に行った。</p> <p>2. 知的財産に関連する各種データベースまたは知財業務システム(出願支援、事務管理等)についてシステムの現状分析/改善(例:法改正、自社戦略の転換等の前提条件の変化への対応)を成功裡に行った。</p> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <p>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</p> <p>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <p>1. システム関連業務の管理に必要な法律(不正競争防止法における営業秘密に関する規定、産業財産権法における手続きに関する規定、諸外国における手続きに関する規定)の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>③実務</b></p> <p>1. システムに関する実務(例:IT(特にデータベース)、インターネット上のリソース、業務用アプリケーション、出願支援・事務管理等)の知財業務システム、自社知財部門の業務管理方法、システム選定の際の2次情報・3次情報のでき方の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b> システム関連業務に必要な技術(例:IT、特にデータベース)の初歩的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <p>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:ユーザーへのシステム利用方法の説明)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 情報(2.1.1) C.システム

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <p>1. 自社の知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、知的財産に関連する各種データベースまたは知財業務システム(出願支援、事務管理等)についてシステムの情報収集/企画(選定を含む)/実施(導入・保守運用を含む。構築の場合は部分的なものを含む)/評価/報告書作成を成功裡に行った。</p> <p>2. 知的財産に関連する各種データベースまたは知財業務システム(出願支援、事務管理等)についてシステムの現状分析/改善(例:法改正、自社戦略の転換等の前提条件の変化への対応)を成功裡に行った。</p> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</p> <p>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</p> <p>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</p> <p>4. 社内講師を担当した。</p> <p>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</p> <p>2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <p>1. システム関連業務の管理に必要な法律(不正競争防止法における営業秘密に関する規定、産業財産権法における手続きに関する規定、諸外国における手続きに関する規定)の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>③実務</b></p> <p>1. システムに関する実務(例:IT(特にデータベース)、インターネット上のリソース、業務用アプリケーション、出願支援・事務管理等)の知財業務システム、自社知財部門の業務管理方法、システム選定の際の2次情報・3次情報のでき方の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>④技術</b> システム関連業務に必要な技術(例:IT、特にデータベース)の基本的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <p>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:ユーザーへのシステム利用方法の説明)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 情報(2.1.1) C.システム

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル3	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <p>1. 自社の知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、知的財産に関連する各種データベースまたは知財業務システム(出願支援、事務管理等)についてシステムの情報収集／企画(選定を含む)／実施(導入・保守運用を含む。構築の場合は部分的なものを含む)／評価／報告書作成を成功裡に行った。</p> <p>2. 知的財産に関連する各種データベースまたは知財業務システム(出願支援、事務管理等)についてシステムの現状分析／改善(例:法改正、自社戦略の転換等の前提条件の変化への対応)を成功裡に行った。</p> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 効果が実際に確認された(例:小規模なシステムエラー等の発生に対して最短では正して復帰させた。システムを長期間、安定稼働させた)。<b>[必須]</b></p> <p>2. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</p> <p>4. 社内講師を担当した。</p> <p>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</p> <p>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</p> <p>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b>                      1. システム関連業務の管理に必要な法律(不正競争防止法における営業秘密に関する規定、産業財産権法における手続きに関する規定、諸外国における手続きに関する規定)の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>③実務</b>                      1. システムに関する実務(例:IT(特にデータベース)、インターネット上のリソース、業務用アプリケーション、出願支援・事務管理等の知財業務システム、自社知財部門の業務管理方法、システム選定の際の2次情報・3次情報のでき方)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>④技術</b>                      システム関連業務に必要な技術(例:IT、特にデータベース)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b>                      外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:ユーザーへのシステム利用方法の説明)。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 情報(2.1.1) C.システム

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル4	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <p>1. 自社の知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、知的財産に関連する各種データベースまたは知財業務システム(出願支援、事務管理等)についてシステムの情報収集／企画(選定を含む)／実施(導入・保守運用を含む。構築の場合は部分的なものを含む)／評価／報告書作成を成功裡に行った。</p> <p>2. 知的財産に関連する各種データベースまたは知財業務システム(出願支援、事務管理等)についてシステムの現状分析／改善(例:法改正、自社戦略の転換等の前提条件の変化への対応)を成功裡に行った。</p> <p><b>③重要性</b>                      以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 効果が実際に確認された(例:小規模なシステムエラー等の発生に対して最短では正して復帰させた。システムを長期間、安定稼働させた)。<b>[必須]</b></p> <p>2. 担当事業分野全体の規模で行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</p> <p>4. 社内講師を担当した。</p> <p>5. 社内委員会を主導した。</p> <p>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</p> <p>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p><b>②法律</b>                      1. システム関連業務の管理に必要な法律(不正競争防止法における営業秘密に関する規定、産業財産権法における手続きに関する規定、諸外国における手続きに関する規定)の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>③実務</b>                      1. システムに関する実務(例:IT(特にデータベース)、インターネット上のリソース、業務用アプリケーション、出願支援・事務管理等の知財業務システム、自社知財部門の業務管理方法、システム選定の際の2次情報・3次情報のでき方)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>④技術</b>                      情報収集・分析関連業務に必要な技術(例:担当事業に関する最新技術の動向)の専門的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p><b>⑤語学</b>                      外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:ユーザーへのシステム利用方法の説明)。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 情報(2.1.1) C.システム

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <p>1. 自社の知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、知的財産に関連する各種データベースまたは知財業務システム(出願支援、事務管理等)についてシステムの情報収集／企画(選定を含む)／実施(導入・保守運用を含む。構築の場合は部分的なものを含む)／評価／報告書作成を成功裡に行った。</p> <p>2. 知的財産に関連する各種データベースまたは知財業務システム(出願支援、事務管理等)についてシステムの現状分析／改善(例:法改正、自社戦略の転換等の前提条件の変化への対応)を成功裡に行った。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:小規模なシステムエラー等の発生に対して最短で是正して復帰させた。システムを長期間、安定稼働させた)。<b>[必須]</b></p> <p>2. 全社的規模で行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 社内講師を担当した。</p> <p>4. 社内委員会を主導した。</p> <p>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</p> <p>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <p>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>②法律</b></p> <p>1. システム関連業務の管理に必要な法律(不正競争防止法における営業秘密に関する規定、産業財産権法における手続きに関する規定、諸外国における手続きに関する規定)の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌／学会論文レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>③実務</b></p> <p>1. システムに関する実務(例:IT(特にデータベース)、インターネット上のリソース、業務用アプリケーション、出願支援・事務管理等の知財業務システム、自社知財部門の業務管理方法、システム選定の際の2次情報・3次情報のでき方)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>④技術</b> システム関連業務に必要な技術(例:IT、特にデータベース)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <p>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:ユーザーへのシステム利用方法の説明)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 人材(2.1.2) A.教育

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、知的財産担当者の育成に関する情報収集(例:知財スキル標準、社外研修情報、検定・資格、e-Learning製品)/企画(例:知財スキル標準の導入、社内研修と社外研修の組み合わせ案、国内外の留学制度の創設/適切な講師の選定等)/実施/分析/報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、知的財産担当者の育成に関する現状分析(例:目標とする人材像の明確化と現状の人材像のギャップの定期的な確認)/改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、技術者やクリエイターに対する知的財産教育の企画/実施/評価/報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>4. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、技術者やクリエイターに対する知的財産教育の現状分析/改善を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人材教育関連業務に必要な知的財産関連法律・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人材教育に関する実務(例:知財スキル標準、人事考課制度、人材マネジメント、検定・資格、e-Learning製品、知的財産関連研修の企画、社内研修、社外研修)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 教育関連業務に必要な技術(例:知財e-learning技術、インストラクショナルデザイン)の初歩的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 人材(2.1.2) A.教育

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、知的財産担当者の育成に関する情報収集(例:知財スキル標準、社外研修情報、検定・資格、e-Learning製品)/企画(例:知財スキル標準の導入、社内研修と社外研修の組み合わせ案、国内外の留学制度の創設/適切な講師の選定等)/実施/分析/報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、知的財産担当者の育成に関する現状分析(例:目標とする人材像の明確化と現状の人材像のギャップの定期的な確認)/改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、技術者やクリエイターに対する知的財産教育の企画/実施/評価/報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>4. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、技術者やクリエイターに対する知的財産教育の現状分析/改善を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人材教育関連業務に必要な知的財産関連法律・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人材教育に関する実務(例:知財スキル標準、人事考課制度、人材マネジメント、検定・資格、e-Learning製品、知的財産関連研修の企画、社内研修、社外研修)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 教育関連業務に必要な技術(例:知財e-learning技術、インストラクショナルデザイン)の基本的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 人材(2.1.2)A.教育

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベ ル 4	以下の条件の実績と経験を有する。 <b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応	以下の条件の能力を有する。(⑤は任意) <b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。 2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。
	<b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上) 1. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、知的財産担当者の育成に関する情報収集(例:知財スキル標準, 社外研修情報, 検定・資格, e-Learning製品)／企画(例:知財スキル標準の導入, 社内研修と社外研修の組み合わせ案, 国内外の留学制度の創設／適切な講師の選定等)／実施／分析／報告書作成を成功裡に行った。 2. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、知的財産担当者の育成に関する現状分析(例:目標とする人材像の明確化と現状の人材像のギャップの定期的な確認)／改善を成功裡に行った。 3. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、技術者やクリエイターに対する知的財産教育の企画／実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。 4. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、技術者やクリエイターに対する知的財産教育の現状分析／改善を成功裡に行った。	<b>②法律</b> 1. 人材教育関連業務に必要な知的財産関連法律・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。
	<b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 効果が実際に確認された(例:対象者の多数のスキルレベルが向上した。発明提案件数が増加した)。〔必須〕 2. 経営層に対して知的財産教育を行った。 3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。	<b>③実務</b> 1. 人材教育に関する実務(例:知財スキル標準, 人事考課制度, 人材マネジメント, 検定・資格, e-Learning製品, 知的財産関連研修の企画, 社内研修, 社外研修)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。
	<b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。 6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 7. 社外委員会にメンバーとして参加した。 8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。	<b>④技術</b> 教育関連業務に必要な技術(例:知財e-learning技術, インストラクショナルデザイン)の専門的な事項を理解することができる。
	<b>⑤その他</b>	<b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。 <b>⑥対人</b> 1. 関係者から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者と連携し、協働できる。 3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。 4. 関係者(例:経営層, 技術部門)を納得させることができる(例:人材育成の必要性について)。 <b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。

知財スキル標準ver.1.0

## 人材(2.1.2)A.教育

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベ ル 4	以下の条件の実績と経験を有する。 <b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応	以下の条件の能力を有する。(⑤は任意) <b>①事業</b> 1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。 2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。 3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。
	<b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上) 1. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、知的財産担当者の育成に関する情報収集(例:知財スキル標準, 社外研修情報, 検定・資格, e-Learning製品)／企画(例:知財スキル標準の導入, 社内研修と社外研修の組み合わせ案, 国内外の留学制度の創設／適切な講師の選定等)／実施／分析／報告書作成を成功裡に行った。 2. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、知的財産担当者の育成に関する現状分析(例:目標とする人材像の明確化と現状の人材像のギャップの定期的な確認)／改善を成功裡に行った。 3. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、技術者やクリエイターに対する知的財産教育の企画／実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。 4. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、技術者やクリエイターに対する知的財産教育の現状分析／改善を成功裡に行った。	<b>②法律</b> 1. 人材教育関連業務に必要な知的財産関連法律・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。
	<b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 複数の効果が実際に確認された(例:対象者の多数のスキルレベルが向上した。発明提案件数が増加した)。〔必須〕 2. 経営層に対して知的財産教育を行った。 3. 担当事業分野全体(例:当該分野の知的財産担当者・研究者・技術者全員)の規模で行った。	<b>③実務</b> 1. 人材教育に関する実務(例:知財スキル標準, 人事考課制度, 人材マネジメント, 検定・資格, e-Learning製品, 知的財産関連研修の企画, 社内研修, 社外研修)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。 2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。
	<b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕 2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。 3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会を主導した。 6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 7. 社外委員会に会社代表として参加した。 8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。	<b>④技術</b> 教育関連業務に必要な技術(例:知財e-learning技術, インストラクショナルデザイン)の専門的な事項を理解することができる。 <b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。 <b>⑥対人</b> 1. 関係者から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者と連携し、協働できる。 3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。 4. 関係者(例:経営層, 技術部門)を納得させることができる(例:人材育成の必要性について)。
	<b>⑤その他</b>	<b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。

知財スキル標準ver.1.0

## 人材(2.1.2)A.教育

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、知的財産担当者の育成に関する情報収集(例:知財スキル標準, 社外研修情報, 検定・資格, e-Learning製品)／企画(例:知財スキル標準の導入, 社内研修と社外研修の組み合わせ案, 国内外の留学制度の創設／適切な講師の選定等)／実施／分析／報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、知的財産担当者の育成に関する現状分析(例:目標とする人材像の明確化と現状の人材像のギャップの定期的な確認)／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、技術者やクリエイターに対する知的財産教育の企画／実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>4. 自社の企業戦略・知的財産戦略・人材育成戦略に沿って、技術者やクリエイターに対する知的財産教育の現状分析／改善を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:対象者の多数のスキルレベルが向上した。発明提案件数が増加した)。(必須)</li> <li>2. 経営層に対して知的財産教育を行った。</li> <li>3. 全社的規模(例:知的財産担当者全員対象, 研究者・技術者全員対象)で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。(必須)</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人材教育関連業務に必要な知的財産関連法律・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人材教育に関する実務(例:知財スキル標準, 人事考課制度, 人材マネジメント, 検定・資格, e-Learning製品, 知的財産関連研修の企画, 社内研修, 社外研修)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 教育関連業務に必要な技術(例:知財e-learning技術, インストラクショナルデザイン)の専門的又は広範かつ統合的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>4. 関係者(例:経営層, 技術部門)を納得させることができる(例:人材育成の必要性について)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 人材(2.1.2) B.インセンティブ

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>企業戦略に沿って、会社の発明者・クリエイターへのインセンティブ制度(例:職務発明制度、報奨金制度、フェロー制度)に関する情報収集/企画/実施/評価/報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>会社の発明者・クリエイターへのインセンティブ制度(例:職務発明制度、報奨金制度、フェロー制度)の現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>会社の発明者・クリエイターとのインセンティブ制度を巡る係争について、判例や過去の類例を踏まえ、関係者と調整して解決した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>インセンティブ制度(例:職務発明制度)関連業務に必要な法律・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>インセンティブ制度に関する実務(例:職務発明制度、報奨金制度、フェロー制度、人事考課制度)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 人材(2.1.2) B.インセンティブ

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>企業戦略に沿って、会社の発明者・クリエイターへのインセンティブ制度(例:職務発明制度、報奨金制度、フェロー制度)に関する情報収集/企画/実施/評価/報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>会社の発明者・クリエイターへのインセンティブ制度(例:職務発明制度、報奨金制度、フェロー制度)の現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>会社の発明者・クリエイターとのインセンティブ制度を巡る係争について、判例や過去の類例を踏まえ、関係者と調整して解決した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>インセンティブ制度(例:職務発明制度)関連業務に必要な法律・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>インセンティブ制度に関する実務(例:職務発明制度、報奨金制度、フェロー制度、人事考課制度)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 人材(2.1.2) B.インセンティブ

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル3	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを自律的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>企業戦略に沿って、会社の発明者・クリエイターへのインセンティブ制度(例:職務発明制度、報奨金制度、フェロー制度)に関する情報収集／企画／実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>会社の発明者・クリエイターへのインセンティブ制度(例:職務発明制度、報奨金制度、フェロー制度)の現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>会社の発明者・クリエイターとのインセンティブ制度を巡る係争について、判例や過去の類例を踏まえ、関係者と調整して解決した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果が実際に確認された(例:発明提案件数が増加した)。<b>[必須]</b></li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。                      2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b>                      1. インセンティブ制度(例:職務発明制度)関連業務に必要な法律・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。                      2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>③実務</b>                      1. インセンティブ制度に関する実務(例:職務発明制度、報奨金制度、フェロー制度、人事考課制度)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。                      2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者から円滑に情報収集ができる。                      2. 関係者と連携し、協働できる。                      3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。                      4. 関係者(例:技術者)を納得させることができる(例:対価の額について)。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 人材(2.1.2) B.インセンティブ

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル4	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>企業戦略に沿って、会社の発明者・クリエイターへのインセンティブ制度(例:職務発明制度、報奨金制度、フェロー制度)に関する情報収集／企画／実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>会社の発明者・クリエイターへのインセンティブ制度(例:職務発明制度、報奨金制度、フェロー制度)の現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>会社の発明者・クリエイターとのインセンティブ制度を巡る係争について、判例や過去の類例を踏まえ、関係者と調整して解決した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の効果が実際に確認された(例:発明提案件数が増加した)。<b>[必須]</b></li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>担当事業分野全体の規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。                      2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。                      3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p><b>②法律</b>                      1. インセンティブ制度(例:職務発明制度)関連業務に必要な法律・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。                      2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>③実務</b>                      1. インセンティブ制度に関する実務(例:職務発明制度、報奨金制度、フェロー制度、人事考課制度)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。                      2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者から円滑に情報収集ができる。                      2. 関係者と連携し、協働できる。                      3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。                      4. 関係者(例:技術者)を納得させることができる(例:対価の額について)。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 人材(2.1.2) B.インセンティブ

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業戦略に沿って、会社の発明者・クリエイターへのインセンティブ制度(例:職務発明制度、報奨金制度、フェロー制度)に関する情報収集／企画／実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>2. 会社の発明者・クリエイターへのインセンティブ制度(例:職務発明制度、報奨金制度、フェロー制度)の現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 会社の発明者・クリエイターとのインセンティブ制度を巡る係争について、判例や過去の類例を踏まえ、関係者と調整して解決した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:発明提案件数が増加した)。(必須)</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 全社的規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。(必須)</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インセンティブ制度(例:職務発明制度)関連業務に必要な法律・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インセンティブ制度に関する実務(例:職務発明制度、報奨金制度、フェロー制度、人事考課制度)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>4. 関係者(例:技術者)を納得させることができる(例:対価の額について)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 法務(2.1.3) A.営業秘密

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の企業戦略・知的財産戦略・生産戦略に沿って、営業秘密管理に関する情報収集、営業秘密管理指針の企画/実施(運用)/分析/指針作成を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の企業戦略・知的財産戦略・生産戦略に沿って、営業秘密管理指針を評価/改善した。</li> <li>3. 営業秘密管理指針に基づき、管理を具体化するための仕組み構築を成功裡に行った。</li> <li>4. 関係者からの営業秘密の管理に関する質問に対し、回答や助言を適切に行った。</li> <li>5. 営業秘密管理に関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 営業秘密関連業務に必要な法律(例:不正競争防止法)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 営業秘密に関する実務(例:経済産業省の営業秘密管理指針、自社の営業秘密管理体制)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者と連携し、協働できる(例:管理の具体化を徹底できる)。 3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 法務(2.1.3) A.営業秘密

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の企業戦略・知的財産戦略・生産戦略に沿って、営業秘密管理に関する情報収集、営業秘密管理指針の企画/実施(運用)/分析/指針作成を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の企業戦略・知的財産戦略・生産戦略に沿って、営業秘密管理指針を評価/改善した。</li> <li>3. 営業秘密管理指針に基づき、管理を具体化するための仕組み構築を成功裡に行った。</li> <li>4. 関係者からの営業秘密の管理に関する質問に対し、回答や助言を適切に行った。</li> <li>5. 営業秘密管理に関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 営業秘密関連業務に必要な法律(例:不正競争防止法)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 営業秘密に関する実務(例:経済産業省の営業秘密管理指針、自社の営業秘密管理体制)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者と連携し、協働できる(例:管理の具体化を徹底できる)。 3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 法務(2.1.3)A.営業秘密

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の企業戦略・知的財産戦略・生産戦略に沿って、営業秘密管理に関する情報収集、営業秘密管理指針の企画／実施(運用)／分析／指針作成を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の企業戦略・知的財産戦略・生産戦略に沿って、営業秘密管理指針を評価／改善した。</li> <li>3. 営業秘密管理指針に基づき、管理を具体化するための仕組み構築を成功裡に行った。</li> <li>4. 関係者からの営業秘密の管理に関する質問に対し、回答や助言を適切に行った。</li> <li>5. 営業秘密管理に関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:作成した指針が実際に採用され、実行された)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 営業秘密関連業務に必要な法律(例:不正競争防止法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 営業秘密に関する実務(例:経済産業省の営業秘密管理指針、自社の営業秘密管理体制)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者と連携し、協働できる(例:管理の具体化を徹底できる)。</li> <li>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準 ver.1.0

## 法務(2.1.3)A.営業秘密

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の企業戦略・知的財産戦略・生産戦略に沿って、営業秘密管理に関する情報収集、営業秘密管理指針の企画／実施(運用)／分析／指針作成を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の企業戦略・知的財産戦略・生産戦略に沿って、営業秘密管理指針を評価／改善した。</li> <li>3. 営業秘密管理指針に基づき、管理を具体化するための仕組み構築を成功裡に行った。</li> <li>4. 関係者からの営業秘密の管理に関する質問に対し、回答や助言を適切に行った。</li> <li>5. 営業秘密管理に関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:作成した指針が実際に採用され、実行された)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 担当事業分野全体の規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 営業秘密関連業務に必要な法律(例:不正競争防止法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 営業秘密に関する実務(例:経済産業省の営業秘密管理指針、自社の営業秘密管理体制)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者と連携し、協働できる(例:管理の具体化を徹底できる)。</li> <li>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準 ver.1.0

## 法務(2.1.3)A.営業秘密

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の企業戦略・知的財産戦略・生産戦略に沿って、営業秘密管理に関する情報収集、営業秘密管理指針の企画／実施(運用)／分析／指針作成を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の企業戦略・知的財産戦略・生産戦略に沿って、営業秘密管理指針を評価／改善した。</li> <li>3. 営業秘密管理指針に基づき、管理を具体化するための仕組み構築を成功裡に行った。</li> <li>4. 関係者からの営業秘密の管理に関する質問に対し、回答や助言を適切に行った。</li> <li>5. 営業秘密管理に関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:作成した指針が実際に採用され、実行された)。<small>[必須]</small></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 担当事業分野全体の規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<small>[必須]</small></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 営業秘密関連業務に必要な法律(例:不正競争防止法)・法改正情報・判例の高度に専門的な事項(例:専門書／専門雑誌／学会論文レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 営業秘密に関する実務(例:経済産業省の営業秘密管理指針、自社の営業秘密管理体制)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者と連携し、協働できる(例:管理の具体化を徹底できる)。</li> <li>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 法務(2.1.3)B.規程

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>知的財産戦略に沿って、知的財産管理に関する規程(例:職務発明規程、ライセンス管理規程、権利管理規程、契約管理規程など)の情報収集/規程作成/実施/評価を成功裡に行った。</li> <li>知的財産戦略に沿って、知的財産管理に関する規程(例:職務発明規程、ライセンス管理規程、権利管理規程、契約管理規程など)に関して現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>知的財産管理に関する規程(例:職務発明規程、ライセンス管理規程、権利管理規程、契約管理規程など)に基づき、規程を具体化するための仕組み構築を成功裡に行った。</li> <li>関係者からの規程に関する質問に対し、適切な回答や助言を行った。</li> <li>規程に関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>法務規程関連業務に必要な法律(例:知的財産法、民法、独占禁止法)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>規程に関する実務(例:職務発明規程、ライセンス管理規定、権利管理規程、契約管理規程、服務規程、就業規則)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者と連携し、協働できる(例:管理の具体化を徹底できる)。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 法務(2.1.3)B.規程

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>知的財産戦略に沿って、知的財産管理に関する規程(例:職務発明規程、ライセンス管理規程、権利管理規程、契約管理規程など)の情報収集/規程作成/実施/評価を成功裡に行った。</li> <li>知的財産戦略に沿って、知的財産管理に関する規程(例:職務発明規程、ライセンス管理規程、権利管理規程、契約管理規程など)に関して現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>知的財産管理に関する規程(例:職務発明規程、ライセンス管理規程、権利管理規程、契約管理規程など)に基づき、規程を具体化するための仕組み構築を成功裡に行った。</li> <li>関係者からの規程に関する質問に対し、適切な回答や助言を行った。</li> <li>規程に関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</li> <li>担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>法務規程関連業務に必要な法律(例:知的財産法、民法、独占禁止法)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>規程に関する実務(例:職務発明規程、ライセンス管理規定、権利管理規程、契約管理規程、服務規程、就業規則)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者と連携し、協働できる(例:管理の具体化を徹底できる)。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 法務(2.1.3)B.規程

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル3	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>知的財産戦略に沿って、知的財産管理に関する規程(例:職務発明規程、ライセンス管理規程、権利管理規程、契約管理規程など)の情報収集／規程作成／実施／評価を成功裡に行った。</li> <li>知的財産戦略に沿って、知的財産管理に関する規程(例:職務発明規程、ライセンス管理規程、権利管理規程、契約管理規程など)に関して現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>知的財産管理に関する規程(例:職務発明規程、ライセンス管理規程、権利管理規程、契約管理規程など)に基づき、規程を具体化するための仕組み構築を成功裡に行った。</li> <li>関係者からの規程に関する質問に対し、適切な回答や助言を行った。</li> <li>規程に関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果が実際に確認された(例:作成した規程が実際に採用され、実行された)。<b>[必須]</b></li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>法務規程関連業務に必要な法律(例:知的財産法、民法、独占禁止法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>規程に関する実務(例:職務発明規程、ライセンス管理規定、権利管理規程、契約管理規程、服務規程、就業規則)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者と連携し、協働できる(例:管理の具体化を徹底できる)。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 法務(2.1.3)B.規程

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル4	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>知的財産戦略に沿って、知的財産管理に関する規程(例:職務発明規程、ライセンス管理規程、権利管理規程、契約管理規程など)の情報収集／規程作成／実施／評価を成功裡に行った。</li> <li>知的財産戦略に沿って、知的財産管理に関する規程(例:職務発明規程、ライセンス管理規程、権利管理規程、契約管理規程など)に関して現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>知的財産管理に関する規程(例:職務発明規程、ライセンス管理規程、権利管理規程、契約管理規程など)に基づき、規程を具体化するための仕組み構築を成功裡に行った。</li> <li>関係者からの規程に関する質問に対し、適切な回答や助言を行った。</li> <li>規程に関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の効果が実際に確認された(例:作成した規程が実際に採用され、実行された)。<b>[必須]</b></li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>担当事業分野全体の規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>法務規程関連業務に必要な法律(例:知的財産法、民法、独占禁止法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>規程に関する実務(例:職務発明規程、ライセンス管理規定、権利管理規程、契約管理規程、服務規程、就業規則)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者と連携し、協働できる(例:管理の具体化を徹底できる)。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 法務(2.1.3)B.規程

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>知的財産戦略に沿って、知的財産管理に関する規程(例:職務発明規程、ライセンス管理規程、権利管理規程、契約管理規程など)の情報収集／規程作成／実施／評価を成功裡に行った。</li> <li>知的財産戦略に沿って、知的財産管理に関する規程(例:職務発明規程、ライセンス管理規程、権利管理規程、契約管理規程など)に関して現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>知的財産管理に関する規程(例:職務発明規程、ライセンス管理規程、権利管理規程、契約管理規程など)に基づき、規程を具体化するための仕組み構築を成功裡に行った。</li> <li>関係者からの規程に関する質問に対し、適切な回答や助言を行った。</li> <li>規程に関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:作成した規程が実際に採用され、実行された)。(必須)</li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>全社的規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。(必須)</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>法務規程関連業務に必要な法律(例:知的財産法、民法、独占禁止法)・法改正情報・判例の高度に専門的な事項(例:専門書／専門雑誌／学会論文レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>規程に関する実務(例:職務発明規程、ライセンス管理規定、権利管理規程、契約管理規程、職務規程、就業規則)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者と連携し、協働できる(例:管理の具体化を徹底できる)。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 法務(2.1.3)C.法的審査

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の知的財産戦略・事業戦略・研究開発戦略に沿って、知的財産関連の契約書(例:秘密保持契約、共同開発契約、ライセンス契約等)について条件的に有利な原案を作成して提示/交渉を成功裡に行った。</li> <li>2. 知的財産関連の契約書(例:秘密保持契約、共同開発契約、ライセンス契約等)について先方の原案に対して自社の知的財産戦略・事業戦略に有利な修正案を作成して提示/交渉を成功裡に行った。</li> <li>3. 関係者からの知的財産関連の法律問題(例:締結されている知的財産関連契約書の解釈・運用)について適切な回答や助言を行った。</li> <li>4. 知的財産関連の契約書の雛型/チェックリストの作成/改善を適切に行った。</li> <li>5. 法的審査に関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 法的審査関連業務に必要な法律(例:知的財産法、独占禁止法、民法、刑法、民事訴訟法)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 法的審査に関する実務(例:秘密保持契約/共同開発契約/ライセンス契約等の知的財産関連の契約、関係者機関への届出、検査体制)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:英文ドラフト)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 法務(2.1.3)C.法的審査

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の知的財産戦略・事業戦略・研究開発戦略に沿って、知的財産関連の契約書(例:秘密保持契約、共同開発契約、ライセンス契約等)について条件的に有利な原案を作成して提示/交渉を成功裡に行った。</li> <li>2. 知的財産関連の契約書(例:秘密保持契約、共同開発契約、ライセンス契約等)について先方の原案に対して自社の知的財産戦略・事業戦略に有利な修正案を作成して提示/交渉を成功裡に行った。</li> <li>3. 関係者からの知的財産関連の法律問題(例:締結されている知的財産関連契約書の解釈・運用)について適切な回答や助言を行った。</li> <li>4. 知的財産関連の契約書の雛型/チェックリストの作成/改善を適切に行った。</li> <li>5. 法的審査に関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 法的審査関連業務に必要な法律(例:知的財産法、独占禁止法、民法、刑法、民事訴訟法)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 法的審査に関する実務(例:秘密保持契約/共同開発契約/ライセンス契約等の知的財産関連の契約、関係者機関への届出、検査体制)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:英文ドラフト)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 法務(2.1.3)C.法的審査

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル3	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の知的財産戦略・事業戦略・研究開発戦略に沿って、知的財産関連の契約書(例:秘密保持契約、共同開発契約、ライセンス契約等)について条件的に有利な原案を作成して提示／交渉を成功裡に行った。</li> <li>2. 知的財産関連の契約書(例:秘密保持契約、共同開発契約、ライセンス契約等)について先方の原案に対して自社の知的財産戦略・事業戦略に有利な修正案を作成して提示／交渉を成功裡に行った。</li> <li>3. 関係者からの知的財産関連の法律問題(例:締結されている知的財産関連契約書の解釈・運用)について適切な回答や助言を行った。</li> <li>4. 知的財産関連の契約書の雛型／チェックリストの作成／改善を適切に行った。</li> <li>5. 法的審査に関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:独占禁止法に違反する疑いのある違法性の高い案件を未然に発見し、トラブルを防いだ。多数企業が集まるコンソーシアム活動において、当該コンソーシアムの活動に関する法的問題点について自社の意見を発信した)。<b>【必須】</b></li> <li>2. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)全体に大きな影響を与えた。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法的審査関連業務に必要な法律(例:知的財産法、独占禁止法、民法、刑法、民事訴訟法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法的審査に関する実務(例:秘密保持契約／共同開発契約／ライセンス契約等の知的財産関連の契約、関係者機関への届出、検査体制)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語の情報(例:英文ドラフト)を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者を納得させることができる(例:契約の相手方に契約の修正について納得させる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>
	レベル4	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の知的財産戦略・事業戦略・研究開発戦略に沿って、知的財産関連の契約書(例:秘密保持契約、共同開発契約、ライセンス契約等)について条件的に有利な原案を作成して提示／交渉を成功裡に行った。</li> <li>2. 知的財産関連の契約書(例:秘密保持契約、共同開発契約、ライセンス契約等)について先方の原案に対して自社の知的財産戦略・事業戦略に有利な修正案を作成して提示／交渉を成功裡に行った。</li> <li>3. 関係者からの知的財産関連の法律問題(例:締結されている知的財産関連契約書の解釈・運用)について適切な回答や助言を行った。</li> <li>4. 知的財産関連の契約書の雛型／チェックリストの作成／改善を適切に行った。</li> <li>5. 法的審査に関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:独占禁止法に違反する疑いのある違法性の高い案件を未然に発見し、トラブルを防いだ。多数企業が集まるコンソーシアム活動において、当該コンソーシアムの活動に関する法的問題点について自社の意見を発信した)。<b>【必須】</b></li> <li>2. 担当事業分野全体に大きな影響を与えた。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>【必須】</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>

知財スキル標準ver.1.0

## 法務(2.1.3)C.法的審査

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル4	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の知的財産戦略・事業戦略・研究開発戦略に沿って、知的財産関連の契約書(例:秘密保持契約、共同開発契約、ライセンス契約等)について条件的に有利な原案を作成して提示／交渉を成功裡に行った。</li> <li>2. 知的財産関連の契約書(例:秘密保持契約、共同開発契約、ライセンス契約等)について先方の原案に対して自社の知的財産戦略・事業戦略に有利な修正案を作成して提示／交渉を成功裡に行った。</li> <li>3. 関係者からの知的財産関連の法律問題(例:締結されている知的財産関連契約書の解釈・運用)について適切な回答や助言を行った。</li> <li>4. 知的財産関連の契約書の雛型／チェックリストの作成／改善を適切に行った。</li> <li>5. 法的審査に関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:独占禁止法に違反する疑いのある違法性の高い案件を未然に発見し、トラブルを防いだ。多数企業が集まるコンソーシアム活動において、当該コンソーシアムの活動に関する法的問題点について自社の意見を発信した)。<b>【必須】</b></li> <li>2. 担当事業分野全体に大きな影響を与えた。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>【必須】</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法的審査関連業務に必要な法律(例:知的財産法、独占禁止法、民法、刑法、民事訴訟法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法的審査に関する実務(例:秘密保持契約／共同開発契約／ライセンス契約等の知的財産関連の契約、関係者機関への届出、検査体制)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語の情報(例:英文ドラフト)を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者を納得させることができる(例:契約の相手方に契約の修正について納得させる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 法務(2.1.3)C.法的審査

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の知的財産戦略・事業戦略・研究開発戦略に沿って、知的財産関連の契約書(例:秘密保持契約、共同開発契約、ライセンス契約等)について条件的に有利な原案を作成して提示／交渉を成功裡に行った。</li> <li>2. 知的財産関連の契約書(例:秘密保持契約、共同開発契約、ライセンス契約等)について先方の原案に対して自社の知的財産戦略・事業戦略に有利な修正案を作成して提示／交渉を成功裡に行った。</li> <li>3. 関係者からの知的財産関連の法律問題(例:締結されている知的財産関連契約書の解釈・運用)について適切な回答や助言を行った。</li> <li>4. 知的財産関連の契約書の雛型／チェックリストの作成／改善を適切に行った。</li> <li>5. 法的審査に関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:独占禁止法に違反する疑いのある違法性の高い案件を未然に発見し、トラブルを防いだ。多数企業が集まるコンソーシアム活動において、当該コンソーシアムの活動に関する法的問題点について自社の意見を発信した)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 事業に大きな影響を与えた(例:M&amp;Aに伴う知的財産譲渡契約を締結した)。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法的審査関連業務に必要な法律(例:知的財産法、独占禁止法、民法、刑法、民事訴訟法)・法改正情報・判例の高度に専門的な事項(例:専門書／専門雑誌／学会論文レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法的審査に関する実務(例:秘密保持契約／共同開発契約／ライセンス契約等の知的財産関連の契約、関係者機関への届出、検査体制)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語の情報(例:英文ドラフト)を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:社内関連部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者を納得させることができる(例:契約の相手方に契約の修正について納得させる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
	<p>レベル</p> <p>5</p>	<p>以下財務スキル標準ver.1.0</p>

以下財務スキル標準ver.1.0



## 法務(2.1.3)D.法令情報収集・分析

業績評価指標		業務遂行能力評価指標	
レベル3	以下の条件の実績と経験を有する。	以下の条件の能力を有する。	
	<b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応	<b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。 2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。	
	<b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上) 1. 知的財産関連法(例:産業財産権法、著作権法、不正競争防止法、独占禁止法、民法、刑法、民事訴訟法等)について、法改正や判例に関する情報収集／分析(例:自社が対応すべき優先課題を抽出)／報告書作成を成功裡に行った。 2. 知的財産関連法(例:産業財産権法、著作権法、不正競争防止法、独占禁止法、民法、刑法、民事訴訟法等)の情報収集に関する現状分析／改善を成功裡に行った。 3. 知的財産関連の法令・判例に関する関係者からの質問に対し、適切な回答や助言を行った。 4. 上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。	<b>②法律</b> 1. 法令情報収集・分析関連業務に必要な法律(例:産業財産権法、著作権法、不正競争防止法、独占禁止法、民法、刑法、民事訴訟法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。	
	<b>③重要性</b> 以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。 1. 効果が実際に確認された(例:作成した法改正対応マニュアルが実際に採用され、実行された)。 <b>[必須]</b> 2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。 3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。	<b>③実務</b> 1. 法令情報収集・分析に関する実務(例:知的財産関連法の法改正・判例情報、知財協への参加、関連省庁の動向監視)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。	
	<b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。 6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 7. 社外委員会にメンバーとして参加した。 8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。	<b>④技術</b>	
<b>⑤その他</b>	<b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。		
		<b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者と連携し、協働できる。	
		<b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。	

知財スキル標準ver.1.0

## 法務(2.1.3)D.法令情報収集・分析

業績評価指標		業務遂行能力評価指標	
レベル4	以下の条件の実績と経験を有する。	以下の条件の能力を有する。	
	<b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応	<b>①事業</b> 1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。 2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。 3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。	
	<b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上) 1. 知的財産関連法(例:産業財産権法、著作権法、不正競争防止法、独占禁止法、民法、刑法、民事訴訟法等)について、法改正や判例に関する情報収集／分析(例:自社が対応すべき優先課題を抽出)／報告書作成を成功裡に行った。 2. 知的財産関連法(例:産業財産権法、著作権法、不正競争防止法、独占禁止法、民法、刑法、民事訴訟法等)の情報収集に関する現状分析／改善を成功裡に行った。 3. 知的財産関連の法令・判例に関する関係者からの質問に対し、適切な回答や助言を行った。 4. 上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。	<b>②法律</b> 1. 法令情報収集・分析関連業務に必要な法律(例:知的財産法、独占禁止法、民法、刑法、民事訴訟法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。 2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。	
	<b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 複数の効果が実際に確認された(例:作成した法改正対応マニュアルが実際に採用され、実行された)。 <b>[必須]</b> 2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。 3. 担当事業分野全体の規模で行った。	<b>③実務</b> 1. 法令情報収集・分析に関する実務(例:知的財産関連法の法改正・判例情報、知財協への参加、関連省庁の動向監視)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。 2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。	
	<b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。 <b>[必須]</b> 2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。 3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会を主導した。 6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 7. 社外委員会に会社代表として参加した。 8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。	<b>④技術</b>	
<b>⑤その他</b>	<b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を伝えることができる。		
		<b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者と連携し、協働できる。	
		<b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。	

知財スキル標準ver.1.0

## 法務(2.1.3)D.法令情報収集・分析

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <p>1. 知的財産関連法(例:産業財産権法, 著作権法, 不正競争防止法, 独占禁止法, 民法, 刑法, 民事訴訟法等)について、法改正や判例に関する情報収集／分析(例:自社が対応すべき優先課題を抽出)／報告書作成を成功裡に行った。</p> <p>2. 知的財産関連法(例:産業財産権法, 著作権法, 不正競争防止法, 独占禁止法, 民法, 刑法, 民事訴訟法等)の情報収集に関する現状分析／改善を成功裡に行った。</p> <p>3. 知的財産関連の法令・判例に関する関係者からの質問に対し、適切な回答や助言を行った。</p> <p>4. 上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:作成した規程が実際に採用され、実行された)。(必須)</p> <p>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</p> <p>3. 全社的規模で行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕</p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 社内講師を担当した。</p> <p>4. 社内委員会を主導した。</p> <p>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</p> <p>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <p>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>②法律</b></p> <p>1. 法令情報収集・分析関連業務に必要な法律(例:知的財産法, 独占禁止法, 民法, 刑法, 民事訴訟法)・法改正情報・判例の高度に専門的な事項(例:専門書／専門雑誌／学会論文レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>③実務</b></p> <p>1. 法令情報収集・分析に関する実務(例:知的財産関連法の法改正・判例情報, 知財協への参加, 関連省庁の動向監視)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>④技術</b> システム関連業務に必要な技術(例:IT, 特にデータベース)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <p>1. 関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者と連携し、協働できる。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
	<p>レベル</p> <p>5</p>	<p>知財スキル標準ver.1.0</p>

## リスクマネジメント(2. 1. 4) A.係争対応

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社特許(著作物)を調査し、有力な無効(証拠)資料の収集/抽出/報告を行った。</li> <li>他社(他者)からの差止請求/損害賠償請求を前提とする警告(仮処分を含む)を受けて、自社製品(サービス)と権利の対応関係について、判定/回答を行い、解決に導いた。</li> <li>外国企業から警告(訴訟提起を含む)を受けて、自社製品(サービス)と権利の対応関係について、判定/回答を行い、解決に導いた。</li> <li>自社と契約/提携関係にある会社(者)への差止請求/損害賠償請求を前提とする警告(仮処分も含む)の支援(例:証拠提供、証人出廷)/助言等を行い、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>係争対応関連業務に必要な法律・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>係争対応に関する実務(例:侵害判定、権利および権利者の存在確認、設計変更の検討、無効審判、ADR)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している(例:相手方の主張の特許的意義を理解し、特許権者の主張を覆すためのロジックを組み立て、あるいは被疑侵害者に対する侵害論拠の主張をすることができる)。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 係争対応関連業務に必要な技術(例:自社製品及び関連する他社製品の技術)の初歩的な事項を理解することができる(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立て、自社製品の技術に関する主張をすることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:発明者)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) A.係争対応

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社特許(著作物)を調査し、有力な無効(証拠)資料の収集/抽出/報告を行った。</li> <li>他社(他者)からの差止請求/損害賠償請求を前提とする警告(仮処分を含む)を受けて、自社製品(サービス)と権利の対応関係について、判定/回答を行い、解決に導いた。</li> <li>外国企業から警告(訴訟提起を含む)を受けて、自社製品(サービス)と権利の対応関係について、判定/回答を行い、解決に導いた。</li> <li>自社と契約/提携関係にある会社(者)への差止請求/損害賠償請求を前提とする警告(仮処分も含む)の支援(例:証拠提供、証人出廷)/助言等を行い、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</li> <li>担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>係争対応関連業務に必要な法律・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>係争対応に関する実務(例:侵害判定、権利および権利者の存在確認、設計変更の検討、無効審判、ADR)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している(例:相手方の主張の特許的意義を理解し、特許権者の主張を覆すためのロジックを組み立て、あるいは被疑侵害者に対する侵害論拠の主張をすることができる)。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 係争対応関連業務に必要な技術(例:自社製品及び関連する他社製品の技術)の基本的な事項を理解することができる(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立て、自社製品の技術に関する主張をすることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:発明者)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) A.係争対応

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他社特許(著作物)を調査し、有力な無効(証拠)資料の収集／抽出／報告を行った。</li> <li>2. 他社(他者)からの差止請求／損害賠償請求を前提とする警告(仮処分を含む)を受けて、自社製品(サービス)と権利の対応関係について、判定／回答を行い、解決に導いた。</li> <li>3. 外国企業から警告(訴訟提起を含む)を受けて、自社製品(サービス)と権利の対応関係について、判定／回答を行い、解決に導いた。</li> <li>4. 自社と契約／提携関係にある会社(者)への差止請求／損害賠償請求を前提とする警告(仮処分を含む)の支援(例:証拠提供、証人出廷)／助言等を行い、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:当該製品の年間売上のうち権利対象部分に相当する一定額(例:3%)を低減させた。自社側の主張を認めさせた。相手特許の無効を相手方に認めさせた。〔必須〕)</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 係争対応関連業務に必要な法律・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 係争対応に関する実務(例:侵害判定、権利および権利者の存在確認、設計変更の検討、無効審判、ADR)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している(例:相手方の主張の特許的意義を理解し、特許権者の主張を覆すためのロジックを組み立て、あるいは被疑侵害者に対する侵害論拠の主張をすることができる)。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 係争対応関連業務に必要な技術(例:自社製品及び関連する他社製品の技術)の専門的な事項を理解することができる(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立て、自社製品の技術に関する主張をすることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:発明者)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:交渉の相手方)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) A.係争対応

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他社特許(著作物)を調査し、有力な無効(証拠)資料の収集／抽出／報告を行った。</li> <li>2. 他社(他者)からの差止請求／損害賠償請求を前提とする警告(仮処分を含む)を受けて、自社製品(サービス)と権利の対応関係について、判定／回答を行い、解決に導いた。</li> <li>3. 外国企業から警告(訴訟提起を含む)を受けて、自社製品(サービス)と権利の対応関係について、判定／回答を行い、解決に導いた。</li> <li>4. 自社と契約／提携関係にある会社(者)への差止請求／損害賠償請求を前提とする警告(仮処分を含む)の支援(例:証拠提供、証人出廷)／助言等を行い、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:当該製品の年間売上のうち権利対象部分に相当する一定額(例:3%)を低減させた。自社側の主張を認めさせた。相手特許の無効を相手方に認めさせた。〔必須〕)</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 係争対応関連業務に必要な法律・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 係争対応に関する実務(例:侵害判定、権利および権利者の存在確認、設計変更の検討、無効審判、ADR)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる(例:相手方の主張の特許的意義を理解し、特許権者の主張を覆すためのロジックを組み立て、あるいは被疑侵害者に対する侵害論拠の主張をすることができる)。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 係争対応関連業務に必要な技術(例:自社製品及び関連する他社製品の技術)の専門的な事項を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立て、自社製品の技術に関する主張をすることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:発明者)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:交渉の相手方)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) A.係争対応

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社特許(著作物)を調査し、有力な無効(証拠)資料の収集／抽出／報告を行った。</li> <li>他社(他者)からの差止請求／損害賠償請求を前提とする警告(仮処分を含む)を受けて、自社製品(サービス)と権利の対応関係について、判定／回答を行い、解決に導いた。</li> <li>外国企業から警告(訴訟提起を含む)を受けて、自社製品(サービス)と権利の対応関係について、判定／回答を行い、解決に導いた。</li> <li>自社と契約／提携関係にある会社(者)への差止請求／損害賠償請求を前提とする警告(仮処分を含む)の支援(例:証拠提供、証人出廷)／助言等を行い、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:当該製品の年間売上のうち権利対象部分に相当する一定額(例:3%)を低減させた。自社側の主張を認めさせた。相手特許の無効を相手方に認めさせた。)[必須]</li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>係争対応関連業務に必要な法律・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くはないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>係争対応に関する実務(例:侵害判定、権利および権利者の存在確認、設計変更の検討、無効審判、ADR)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くはないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例:相手方の主張の特許的意義を理解し、特許権者の主張を覆すためのロジックを組み立て、あるいは被疑侵害者に対する侵害論拠の主張をすることができる)。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 係争対応関連業務に必要な技術(例:自社製品及び関連する他社製品の技術)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立て、自社製品の技術に関する主張をすることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:発明者)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:交渉の相手方)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) B.他社権利監視

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視に関する情報収集/企画/方針作成/評価を成功裡に行った。</li> <li>他社権利監視に関する現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>自社製品に属する技術分野の Patent マップを利用した他社権利監視の実施/評価/報告書の作成を成功裡に行った。</li> <li>Patent クリアランスに関する情報収集/企画/方針作成/評価を成功裡に行った。</li> <li>Patent クリアランスに関する現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>自社製品に属する技術分野の Patent マップを利用した Patent クリアランスの実施/評価/報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視業務に必要な法律(例:特許法における新規性・進歩性に関する規定)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視に関する実務(例:新規性・進歩性に関する審査基準、他社権利監視のための各種データベース、IPC、Fターム、F1等の専門用語)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 他社権利監視関連業務に必要な技術(例:自社製品及び関連する他社製品の技術、Patent マップ技術)の初歩的な事項を理解している。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象条件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明(例:技術の説明)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者と連携し、協働できる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準 ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) B.他社権利監視

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視に関する情報収集/企画/方針作成/評価を成功裡に行った。</li> <li>他社権利監視に関する現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>自社製品に属する技術分野の Patent マップを利用した他社権利監視の実施/評価/報告書の作成を成功裡に行った。</li> <li>Patent クリアランスに関する情報収集/企画/方針作成/評価を成功裡に行った。</li> <li>Patent クリアランスに関する現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>自社製品に属する技術分野の Patent マップを利用した Patent クリアランスの実施/評価/報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</li> <li>担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視業務に必要な法律(例:特許法における新規性・進歩性に関する規定)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視に関する実務(例:新規性・進歩性に関する審査基準、他社権利監視のための各種データベース、IPC、Fターム、F1等の専門用語)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 他社権利監視関連業務に必要な技術(例:自社製品及び関連する他社製品の技術、Patent マップ技術)の基本的な事項を理解している。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象条件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明(例:技術の説明)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者と連携し、協働できる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準 ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) B.他社権利監視

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標	
レベル3	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視に関する情報収集／企画／方針作成／評価を成功裡に行った。</li> <li>他社権利監視に関する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>自社製品に属する技術分野の Patent マップを利用した他社権利監視の実施／評価／報告書の作成を成功裡に行った。</li> <li>Patent クリアランスに関する情報収集／企画／方針作成／評価を成功裡に行った。</li> <li>Patent クリアランスに関する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>自社製品に属する技術分野の Patent マップを利用した Patent クリアランスの実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果が実際に確認された(例:製品に搭載された新技術／改良技術についてSDIIによる監視設定を行い、検討すべき競合他社の特許／公開発明を発見し、それを機に開発部門が設計した。競合他社の製品の定期的なウォッチングにより、自社製品に無い新技術／改良技術にあたる当該他社特許／公開発明を発見し、それを機に開発部門が設計した。権利監視の結果が情報提供／無効資料調査等の行動のきっかけとなった、Patent マップに基づいて特許戦略が策定された。〔必須〕</li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視業務に必要な法律(例:特許法における新規性・進歩性に関する規定)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視に関する実務(例:新規性・進歩性に関する審査基準、他社権利監視のための各種データベース、IPC、Fターム、FI等の専門用語)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自立的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 他社権利監視関連業務に必要な技術(例:自社製品及び関連する他社製品の技術、Patent マップ技術)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明(例:技術の説明)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者と連携し、協働できる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
	レベル4	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視に関する情報収集／企画／方針作成／評価を成功裡に行った。</li> <li>他社権利監視に関する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>自社製品に属する技術分野の Patent マップを利用した他社権利監視の実施／評価／報告書の作成を成功裡に行った。</li> <li>Patent クリアランスに関する情報収集／企画／方針作成／評価を成功裡に行った。</li> <li>Patent クリアランスに関する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>自社製品に属する技術分野の Patent マップを利用した Patent クリアランスの実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果が実際に確認された(例:製品に搭載された新技術／改良技術についてSDIIによる監視設定を行い、検討すべき競合他社の特許／公開発明を発見し、それを機に開発部門が設計した。競合他社の製品の定期的なウォッチングにより、自社製品に無い新技術／改良技術にあたる当該他社特許／公開発明を発見し、それを機に開発部門が設計した。権利監視の結果が情報提供／無効資料調査等の行動のきっかけとなった、Patent マップに基づいて特許戦略が策定された。〔必須〕</li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視業務に必要な法律(例:特許法における新規性・進歩性に関する規定)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視に関する実務(例:新規性・進歩性に関する審査基準、他社権利監視のための各種データベース、IPC、Fターム、FI等の専門用語)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 他社権利監視関連業務に必要な技術(例:自社製品及び関連する他社製品の技術、Patent マップ技術)の専門的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しく理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明(例:技術の説明)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者と連携し、協働できる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準 ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) B.他社権利監視

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル4	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視に関する情報収集／企画／方針作成／評価を成功裡に行った。</li> <li>他社権利監視に関する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>自社製品に属する技術分野の Patent マップを利用した他社権利監視の実施／評価／報告書の作成を成功裡に行った。</li> <li>Patent クリアランスに関する情報収集／企画／方針作成／評価を成功裡に行った。</li> <li>Patent クリアランスに関する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>自社製品に属する技術分野の Patent マップを利用した Patent クリアランスの実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果が実際に確認された(例:製品に搭載された新技術／改良技術についてSDIIによる監視設定を行い、検討すべき競合他社の特許／公開発明を発見し、それを機に開発部門が設計した。競合他社の製品の定期的なウォッチングにより、自社製品に無い新技術／改良技術にあたる当該他社特許／公開発明を発見し、それを機に開発部門が設計した。権利監視の結果が情報提供／無効資料調査等の行動のきっかけとなった、Patent マップに基づいて特許戦略が策定された。〔必須〕</li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視業務に必要な法律(例:特許法における新規性・進歩性に関する規定)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視に関する実務(例:新規性・進歩性に関する審査基準、他社権利監視のための各種データベース、IPC、Fターム、FI等の専門用語)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 他社権利監視関連業務に必要な技術(例:自社製品及び関連する他社製品の技術、Patent マップ技術)の専門的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しく理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明(例:技術の説明)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者と連携し、協働できる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準 ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) B.他社権利監視

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視に関する情報収集／企画／方針作成／評価を成功裡に行った。</li> <li>他社権利監視に関する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>自社製品に属する技術分野の Patent マップ を利用した他社権利監視の実施／評価／報告書の作成を成功裡に行った。</li> <li>Patent クリアランスに関する情報収集／企画／方針作成／評価を成功裡に行った。</li> <li>Patent クリアランスに関する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>自社製品に属する技術分野の Patent マップ を利用した Patent クリアランスの実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果が実際に確認された(例:製品に搭載された新技術／改良技術についてSDIIによる監視設定を行い、検討すべき競合他社の特許／公開発明を発見し、それを機に開発部門が設計した。競合他社の製品の定期的なウォッチングにより、自社製品に無い新技術／改良技術にあたる当該他社特許／公開発明を発見し、それを機に開発部門が設計した。権利監視の結果が情報提供／無効資料調査等の行動のきっかけとなった、Patent マップ に基づいて特許戦略が策定された)。[必須]</li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視業務に必要な法律(例:特許法における新規性・進歩性に関する規定)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利監視に関する実務(例:新規性・進歩性に関する審査基準、他社権利監視のための各種データベース、IPC、Fターム、FI等の専門用語)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 他社権利監視関連業務に必要な技術(例:自社製品及び関連する他社製品の技術、Patent マップ技術)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明(例:技術の説明)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者と連携し、協働できる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

レベル5

## リスクマネジメント(2. 1. 4) C.他社権利排除

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事業戦略・研究開発戦略・知的財産戦略に沿って、他社権利の排除を行うための有力な証拠資料の収集(例:ファイルヒストリー中の矛盾の発見、弁理士の鑑定書入手)を適切に行った。</li> <li>前記証拠資料に基づいて、情報提供を行うことの利害得失の分析/情報提供を成功裡に行った。</li> <li>前記証拠資料に基づいて、無効審判を行うことの利害得失の分析/無効審判請求を成功裡に行った。</li> <li>前記証拠資料に基づいて、交渉(例:無償の実施権の取得)を行うことの利害得失の分析/交渉(例:無償の実施権の取得)を成功裡に行った。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利排除業務に必要な法律(例:産業財産権法における情報提供、無効審判請求に関する規定)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利排除に関する実務(例:鑑定、先使用権、無償の実施権の取得、無効理由の確保)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 他社権利排除関連業務に必要な技術(例:自社製品及び関連する他社製品の技術)の初歩的な事項を理解している(例:他社特許の技術的意義を理解し、その特許性を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象条件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:発明者)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) C.他社権利排除

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事業戦略・研究開発戦略・知的財産戦略に沿って、他社権利の排除を行うための有力な証拠資料の収集(例:ファイルヒストリー中の矛盾の発見、弁理士の鑑定書入手)を適切に行った。</li> <li>前記証拠資料に基づいて、情報提供を行うことの利害得失の分析/情報提供を成功裡に行った。</li> <li>前記証拠資料に基づいて、無効審判を行うことの利害得失の分析/無効審判請求を成功裡に行った。</li> <li>前記証拠資料に基づいて、交渉(例:無償の実施権の取得)を行うことの利害得失の分析/交渉(例:無償の実施権の取得)を成功裡に行った。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</li> <li>担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利排除業務に必要な法律(例:産業財産権法における情報提供、無効審判請求に関する規定)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利排除に関する実務(例:鑑定、先使用権、無償の実施権の取得、無効理由の確保)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 他社権利排除関連業務に必要な技術(例:自社製品及び関連する他社製品の技術)の基本的な事項を理解している(例:他社特許の技術的意義を理解し、その特許性を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象条件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:発明者)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) C.他社権利排除

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル3	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事業戦略・研究開発戦略・知的財産戦略に沿って、他社権利の排除を行うための有力な証拠資料の収集(例:ファイルヒストリー中の矛盾の発見、弁理士の鑑定書入手)を適切に行った。</li> <li>前記証拠資料に基づいて、情報提供を行うことの利害得失の分析／情報提供を成功裡に行った。</li> <li>前記証拠資料に基づいて、無効審判を行うことの利害得失の分析／無効審判請求を成功裡に行った。</li> <li>前記証拠資料に基づいて、交渉(例:無償の実施権の取得)を行うことの利害得失の分析／交渉(例:無償の実施権の取得)を成功裡に行った。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果が実際に確認された(例:自社の主張を認めさせた。自社製品の非侵害を特許権者に納得させた。特許の無効を相手側に認めさせた。特許権の技術範囲を縮小させて自社製品から外れるようにした)。<b>[必須]</b></li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利排除業務に必要な法律(例:産業財産権法における情報提供、無効審判請求に関する規定)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利排除に関する実務(例:鑑定、先使用権、無償の実施権の取得、無効理由の確保)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 他社権利排除関連業務に必要な技術(例:自社製品及び関連する他社製品の技術)の専門的な事項を理解することができる(例:他社特許の技術的意義を理解し、その特許性を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:発明者)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:相手方)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) C.他社権利排除

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル4	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事業戦略・研究開発戦略・知的財産戦略に沿って、他社権利の排除を行うための有力な証拠資料の収集(例:ファイルヒストリー中の矛盾の発見、弁理士の鑑定書入手)を適切に行った。</li> <li>前記証拠資料に基づいて、情報提供を行うことの利害得失の分析／情報提供を成功裡に行った。</li> <li>前記証拠資料に基づいて、無効審判を行うことの利害得失の分析／無効審判請求を成功裡に行った。</li> <li>前記証拠資料に基づいて、交渉(例:無償の実施権の取得)を行うことの利害得失の分析／交渉(例:無償の実施権の取得)を成功裡に行った。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の効果が実際に確認された(例:自社の主張を認めさせた。自社製品の非侵害を特許権者に納得させた。特許の無効を相手側に認めさせた。特許権の技術範囲を縮小させて自社製品から外れるようにした)。<b>[必須]</b></li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>担当事業分野全体の規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利排除業務に必要な法律(例:産業財産権法における情報提供、無効審判請求に関する規定)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利排除に関する実務(例:鑑定、先使用権、無償の実施権の取得、無効理由の確保)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 他社権利排除関連業務に必要な技術(例:自社製品及び関連する他社製品の技術)の専門的な事項を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる(例:他社特許の技術的意義を理解し、その特許性を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:発明者)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:相手方)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) C.他社権利排除

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上) 1. 事業戦略・研究開発戦略・知的財産戦略に沿って、他社権利の排除を行うための有力な証拠資料の収集(例:ファイルヒストリー中の矛盾の発見、弁理士の鑑定書入手)を適切に行った。 2. 前記証拠資料に基づいて、情報提供を行うことの利害得失の分析／情報提供を成功裡に行った。 3. 前記証拠資料に基づいて、無効審判を行うことの利害得失の分析／無効審判請求を成功裡に行った。 4. 前記証拠資料に基づいて、交渉(例:無償の実施権の取得)を行うことの利害得失の分析／交渉(例:無償の実施権の取得)を成功裡に行った。 5. 上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:自社の主張を認めさせた。自社製品の非侵害を特許権者に納得させた。特許の無効を相手側に認めさせた。特許権の技術範囲を縮小させて自社製品から外れるようにした。〔必須〕) 2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。 3. 全社的規模で行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕 2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。 3. 社内講師を担当した。 4. 社内委員会を主導した。 5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 6. 社外委員会に主査的立場で参加した。 7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。 2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。 3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。 4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>②法律</b> 1. 他社権利排除業務に必要な法律(例:産業財産権法における情報提供、無効審判請求に関する規定)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。 2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 他社権利排除に関する実務(例:鑑定、先使用権、無償の実施権の取得、無効理由の確保)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。 2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>④技術</b> 他社権利排除関連業務に必要な技術(例:自社製品及び関連する他社製品の技術)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例:他社特許の技術的意義を理解し、その特許性を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:発明者)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。 5. 関係者(例:相手方)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
	<p>レベル</p> <p>5</p>	<p>知財スキル標準ver.1.0</p>

## リスクマネジメント(2. 1. 4) D.ブランド保全

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>企業戦略(ブランド戦略)・販売戦略に沿って、ブランド(ドメインネーム、屋号を含む)管理に関する情報収集/企画/方針作成/運用/評価を成功裡に行った。</li> <li>ブランド管理に関する現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略に基づき管理を具体化するための仕組み構築を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略に沿って、自社ブランドの利用(例:カタログ、ホームページ等)に際して、適正な表示を担保させた。</li> <li>ブランド戦略に沿って、社外における自社ブランドの不適正な使用(例:普通名称としての使用)に対して注意を発した。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> <li>ブランドに関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ブランド保全業務に必要な国内外の法律(例:商標法、独占禁止法等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ブランド保全に関する実務(例:ブランド概念、既存ブランドとそのプロセス、ブランド評価手法、現地のスラングや風習慣習(絶対に使ってはいけない言葉や態度の知識)、ブランド適正表示)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象条件が外国の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:現地代理人)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) D.ブランド保全

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>企業戦略(ブランド戦略)・販売戦略に沿って、ブランド(ドメインネーム、屋号を含む)管理に関する情報収集/企画/方針作成/運用/評価を成功裡に行った。</li> <li>ブランド管理に関する現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略に基づき管理を具体化するための仕組み構築を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略に沿って、自社ブランドの利用(例:カタログ、ホームページ等)に際して、適正な表示を担保させた。</li> <li>ブランド戦略に沿って、社外における自社ブランドの不適正な使用(例:普通名称としての使用)に対して注意を発した。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> <li>ブランドに関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</li> <li>担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ブランド保全業務に必要な国内外の法律(例:商標法、独占禁止法等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ブランド保全に関する実務(例:ブランド概念、既存ブランドとそのプロセス、ブランド評価手法、現地のスラングや風習慣習(絶対に使ってはいけない言葉や態度の知識)、ブランド適正表示)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象条件が外国の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:現地代理人)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) D.ブランド保全

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル3	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>企業戦略(ブランド戦略)・販売戦略に沿って、ブランド(ドメインネーム、屋号を含む)管理に関する情報収集／企画／方針作成／運用／評価を成功裡に行った。</li> <li>ブランド管理に関する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略に基づき管理を具体化するための仕組み構築を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略に沿って、自社ブランドの利用(例:カタログ、ホームページ等)に際して、適正な表示を担保させた。</li> <li>ブランド戦略に沿って、社外における自社ブランドの不適正な使用(例:普通名称としての使用)に対して注意を発した。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> <li>ブランドに関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果が実際に確認された(例:交渉によってブランドの不適正使用を止めさせた)。<small>[必須]</small></li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>事業に大きな影響を与えるブランドの不適正使用に対処した。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ブランド保全業務に必要な国内外の法律(例:商標法、独占禁止法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ブランド保全に関する実務(例:ブランド概念、既存ブランドとそのプロセス、ブランド評価手法、現地のスラングや風習慣習(絶対に使ってはいけない言葉や態度の知識)、ブランド適正表示)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国の場合において、外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:現地代理人)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる。</li> <li>関係者(例:相手方)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>
	レベル4	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>企業戦略(ブランド戦略)・販売戦略に沿って、ブランド(ドメインネーム、屋号を含む)管理に関する情報収集／企画／方針作成／運用／評価を成功裡に行った。</li> <li>ブランド管理に関する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略に基づき管理を具体化するための仕組み構築を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略に沿って、自社ブランドの利用(例:カタログ、ホームページ等)に際して、適正な表示を担保させた。</li> <li>ブランド戦略に沿って、社外における自社ブランドの不適正な使用(例:普通名称としての使用)に対して注意を発した。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> <li>ブランドに関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果が実際に確認された(例:交渉によってブランドの不適正使用を止めさせた)。<small>[必須]</small></li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>事業に大きな影響を与えるブランドの不適正使用に対処した。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<small>[必須]</small></li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>

知財スキル標準ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) D.ブランド保全

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル4	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>企業戦略(ブランド戦略)・販売戦略に沿って、ブランド(ドメインネーム、屋号を含む)管理に関する情報収集／企画／方針作成／運用／評価を成功裡に行った。</li> <li>ブランド管理に関する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略に基づき管理を具体化するための仕組み構築を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略に沿って、自社ブランドの利用(例:カタログ、ホームページ等)に際して、適正な表示を担保させた。</li> <li>ブランド戦略に沿って、社外における自社ブランドの不適正な使用(例:普通名称としての使用)に対して注意を発した。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> <li>ブランドに関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果が実際に確認された(例:交渉によってブランドの不適正使用を止めさせた)。<small>[必須]</small></li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>事業に大きな影響を与えるブランドの不適正使用に対処した。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<small>[必須]</small></li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ブランド保全業務に必要な国内外の法律(例:商標法、独占禁止法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ブランド保全に関する実務(例:ブランド概念、既存ブランドとそのプロセス、ブランド評価手法、現地のスラングや風習慣習(絶対に使ってはいけない言葉や態度の知識)、ブランド適正表示)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:現地代理人)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる。</li> <li>関係者(例:相手方)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## リスクマネジメント(2. 1. 4) D.ブランド保全

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業戦略(ブランド戦略)・販売戦略に沿って、ブランド(ドメインネーム、屋号を含む)管理に関する情報収集／企画／方針作成／運用／評価を成功裡に行った。</li> <li>2. ブランド管理に関する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. ブランド戦略に基づき管理を具体化するための仕組み構築を成功裡に行った。</li> <li>4. ブランド戦略に沿って、自社ブランドの利用(例:カタログ、ホームページ等)に際して、適正な表示を担保させた。</li> <li>5. ブランド戦略に沿って、社外における自社ブランドの不適正な使用(例:普通名称としての使用)に対して注意を発した。</li> <li>6. 上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> <li>7. ブランドに関するトラブルについて、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:交渉によってブランドの不適正使用を止めさせた)。<small>[必須]</small></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 事業に大きな影響を与えるブランドの不適正使用に対処した。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<small>[必須]</small></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブランド保全業務に必要な国内外の法律(例:商標法、独占禁止法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブランド保全に関する実務(例:ブランド概念、既存ブランドとそのプロセス、ブランド評価手法、現地のスラングや風習慣習(絶対に使ってはいけない言葉や態度の知識)、ブランド適正表示)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:社内外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:現地代理人)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる。</li> <li>5. 関係者(例:相手方)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 予算(2.1.5) A.策定

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上) 1. 会社の財務状況、過去の予算・実績等を勘案しつつ、知的財産戦略を実現する予算案(例:出願予算/補償金予算/ライセンスフィ/人材育成・補強予算等)の作成を成功裡に行った。 2. 中長期的なコスト低減を勘案しつつ、知的財産戦略を実現する予算案(例:出願予算/補償金予算/ライセンスフィ/人材育成・補強予算等)の作成を成功裡に行った。</p> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する 1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等(例:特に中長期戦略)の中での位置づけを理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 予算策定業務に必要な法律(例:知的財産法、会社法、税法等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 予算策定に関する実務(例:財務諸表、管理会計)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:経理部門)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:経理部門)の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:経理部門)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 予算(2.1.5) A.策定

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上) 1. 会社の財務状況、過去の予算・実績等を勘案しつつ、知的財産戦略を実現する予算案(例:出願予算/補償金予算/ライセンスフィ/人材育成・補強予算等)の作成を成功裡に行った。 2. 中長期的なコスト低減を勘案しつつ、知的財産戦略を実現する予算案(例:出願予算/補償金予算/ライセンスフィ/人材育成・補強予算等)の作成を成功裡に行った。</p> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。 1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等(例:特に中長期戦略)の中での位置づけを理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 予算策定業務に必要な法律(例:知的財産法、会社法、税法等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 予算策定に関する実務(例:財務諸表、管理会計)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:経理部門)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:経理部門)の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:経理部門)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

予算(2.1.5) A.策定

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <p>1. 会社の財務状況、過去の予算・実績等を勘案しつつ、知的財産戦略を実現する予算案(例:出願予算／補償金予算／ライセンスフィ／人材育成・補強予算等)の作成を成功裡に行った。</p> <p>2. 中長期的なコスト低減を勘案しつつ、知的財産戦略を実現する予算案(例:出願予算／補償金予算／ライセンスフィ／人材育成・補強予算等)の作成を成功裡に行った。</p> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 効果が実際に確認された(例:作成した予算案が実際に採用され、実行された)。〔必須〕</p> <p>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</p> <p>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)全体の規模で行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</p> <p>4. 社内講師を担当した。</p> <p>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</p> <p>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</p> <p>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等(例:特に中長期戦略)の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b>                      1. 予算策定業務に必要な法律(例:知的財産法、会社法、税法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>③実務</b>                      1. 予算策定に関する実務(例:財務諸表、管理会計)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者(例:経理部門)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者(例:経理部門)の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者(例:経理部門)と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p>5. 関係者(例:経理部門)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準 ver.1.0

予算(2.1.5) A.策定

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <p>1. 会社の財務状況、過去の予算・実績等を勘案しつつ、知的財産戦略を実現する予算案(例:出願予算／補償金予算／ライセンスフィ／人材育成・補強予算等)の作成を成功裡に行った。</p> <p>2. 中長期的なコスト低減を勘案しつつ、知的財産戦略を実現する予算案(例:出願予算／補償金予算／ライセンスフィ／人材育成・補強予算等)の作成を成功裡に行った。</p> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の効果が実際に確認された(例:作成した予算案が実際に採用され、実行された)。〔必須〕</p> <p>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</p> <p>3. 担当事業分野全体の規模で行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕</p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</p> <p>4. 社内講師を担当した。</p> <p>5. 社内委員会を主導した。</p> <p>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</p> <p>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等(例:特に中長期戦略)の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p><b>②法律</b>                      1. 予算策定業務に必要な法律(例:知的財産法、会社法、税法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>③実務</b>                      1. 予算策定に関する実務(例:財務諸表、管理会計)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者(例:経理部門)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者(例:経理部門)の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者(例:経理部門)と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p>5. 関係者(例:経理部門)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準 ver.1.0

## 予算(2.1.5) A.策定

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会社の財務状況、過去の予算・実績等を勘案しつつ、知的財産戦略を実現する予算案(例:出願予算／補償金予算／ライセンス費／人材育成・補強予算等)の作成を成功裡に行った。</li> <li>2. 中長期的なコスト低減を勘案しつつ、知的財産戦略を実現する予算案(例:出願予算／補償金予算／ライセンス費／人材育成・補強予算等)の作成を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:作成した予算案が実際に採用され、実行された)。(必須)</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 全社的規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。(必須)</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等(例:特に中長期戦略)の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予算策定業務に必要な法律(例:知的財産法、会社法、税法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予算策定に関する実務(例:財務諸表、管理会計)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:経理部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:経理部門)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:経理部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:経理部門)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

予算(2.1.5) B.管理

		業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レ ベ ル 1	以下の条件の実績と経験を有する。	以下の条件の能力を有する。	以下の条件の能力を有する。
	①責任性 補助者/メンバーとして対応	①事業 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。	①事業 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。
	②複雑性 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上) 1. 策定された予算の管理(例:出納の適切性の確認)について実施/評価/報告書作成を成功裡に行った。 2. 部門別、要素別に予算と実績の差異分析を行い、翌期の予算策定へのフィードバックを成功裡に行った。 3. ロイヤリティ監査に関する情報収集/監査実施/評価を成功裡に行った。 4. 事情変更に伴う予算変更適切に対応した。	②法律 1. 予算管理業務に必要な法律(例:知的財産法、税法等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。	②法律 1. 予算管理業務に必要な法律(例:知的財産法、税法等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。
	③重要性	③実務 1. 予算管理に関する実務(例:財務諸表、管理会計)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。	③実務 1. 予算管理に関する実務(例:財務諸表、管理会計)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。
	④社内外貢献 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。 1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。	④技術	④技術
⑤その他	⑤語学	⑤語学	
	⑥社内外貢献 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。 1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。	⑥対人 1. 関係者(例:部門内)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:部門内)の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:部門内)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。	⑥対人 1. 関係者(例:部門内)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:部門内)の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:部門内)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。
	⑦その他	⑦その他 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。	

知財スキル標準ver.1.0

予算(2.1.5) B.管理

		業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レ ベ ル 2	以下の条件の実績と経験を有する。	以下の条件の能力を有する。	以下の条件の能力を有する。
	①責任性 担当者として対応	①事業 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。	①事業 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。
	②複雑性 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上) 1. 策定された予算の管理(例:出納の適切性の確認)について実施/評価/報告書作成を成功裡に行った。 2. 部門別、要素別に予算と実績の差異分析を行い、翌期の予算策定へのフィードバックを成功裡に行った。 3. ロイヤリティ監査に関する情報収集/監査実施/評価を成功裡に行った。 4. 事情変更に伴う予算変更適切に対応した。	②法律 1. 予算管理業務に必要な法律(例:知的財産法、税法等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。	②法律 1. 予算管理業務に必要な法律(例:知的財産法、税法等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。
	③重要性	③実務 1. 予算管理に関する実務(例:財務諸表、管理会計)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。	③実務 1. 予算管理に関する実務(例:財務諸表、管理会計)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。
	④社内外貢献 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。 1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。	④技術	④技術
⑤その他	⑤語学	⑤語学	
	⑥社内外貢献 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。 1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。	⑥対人 1. 関係者(例:部門内)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:部門内)の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:部門内)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。	⑥対人 1. 関係者(例:部門内)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:部門内)の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:部門内)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。
	⑦その他	⑦その他 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。	

知財スキル標準ver.1.0

予算(2.1.5) B.管理

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      (部分的な)担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <p>1. 策定された予算の管理(例:出納の適切性の確認)について実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。                      2. 部門別、要素別に予算と実績の差異分析を行い、翌期の予算策定へのフィードバックを成功裡に行った。                      3. ロイヤリティ監査に関する情報収集／監査実施／評価を成功裡に行った。                      4. 事情変更に伴う予算変更適切に対応した。</p> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 効果が実際に確認された(例:問題点を発見し、翌期のコスト削減／ロイヤリティ収入増に結びついた)。<b>[必須]</b>                      2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。                      3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)全体の規模で行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。                      2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。                      3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。                      4. 社内講師を担当した。                      5. 社内委員会にメンバーとして参加した。                      6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。                      7. 社外委員会にメンバーとして参加した。                      8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。                      2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b>                      1. 予算管理業務に必要な法律(例:知的財産法、税法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。                      2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>③実務</b>                      1. 予算管理に関する実務(例:財務諸表、管理会計)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。                      2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者(例:部門内)から円滑に情報収集ができる。                      2. 関係者(例:部門内)の説明を正しく理解することができる。                      3. 関係者(例:部門内)と連携し、協働できる。                      4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。                      5. 関係者(例:部門内)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準 ver.1.0

予算(2.1.5) B.管理

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <p>1. 策定された予算の管理(例:出納の適切性の確認)について実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。                      2. 部門別、要素別に予算と実績の差異分析を行い、翌期の予算策定へのフィードバックを成功裡に行った。                      3. ロイヤリティ監査に関する情報収集／監査実施／評価を成功裡に行った。                      4. 事情変更に伴う予算変更適切に対応した。</p> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の効果が実際に確認された(例:問題点を発見し、翌期のコスト削減／ロイヤリティ収入増に結びついた)。<b>[必須]</b>                      2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。                      3. 担当事業分野全体の規模で行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b>                      2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。                      3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。                      4. 社内講師を担当した。                      5. 社内委員会を主導した。                      6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。                      7. 社外委員会に会社代表として参加した。                      8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。                      2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。                      3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p><b>②法律</b>                      1. 予算管理業務に必要な法律(例:知的財産法、税法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。                      2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>③実務</b>                      1. 予算管理に関する実務(例:財務諸表、管理会計)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。                      2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者(例:部門内)から円滑に情報収集ができる。                      2. 関係者(例:部門内)の説明を正しく理解することができる。                      3. 関係者(例:部門内)と連携し、協働できる。                      4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。                      5. 関係者(例:部門内)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準 ver.1.0

予算(2.1.5) B.管理

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>策定された予算の管理(例:出納の適切性の確認)について実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>部門別、要素別に予算と実績の差異分析を行い、翌期の予算策定へのフィードバックを成功裡に行った。</li> <li>ロイヤリティ監査に関する情報収集／監査実施／評価を成功裡に行った。</li> <li>事情変更に伴う予算変更適切に対応した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:問題点を発見し、翌期のコスト削減／ロイヤリティ収入増に結びついた)。<b>[必須]</b></li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>全社的規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>予算管理業務に必要な法律(例:知的財産法、税法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>予算管理に関する実務(例:財務諸表、管理会計)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:部門内)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:部門内)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:部門内)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:部門内)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

レベル

5

予算(2.1.5) C.資金調達

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の企業戦略に沿って、知的財産権の信託/証券化/担保化等による資金調達に関する情報収集(例:リスクとリターン分析)/企画を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の企業戦略に沿って、知的財産権の信託/証券化/担保化等について金融機関等と連携して資金調達を実施/評価/報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>3. 自社の企業戦略に沿って、知的財産権の信託/証券化/担保化等による資金調達の現状分析/改善を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資金調達業務に必要な法律(例:知的財産法、信託法、税法、商法の匿名組合に関する規定、ファンド法、LLP法、資産流動化法等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資金調達に関する実務(例:信託/証券化/担保化による資金調達スキーム、自社商品全般の法的権利関係、価値評価手法)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:金融機関)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:金融機関)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:金融機関)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

予算(2.1.5) C.資金調達

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社の企業戦略に沿って、知的財産権の信託/証券化/担保化等による資金調達に関する情報収集(例:リスクとリターン分析)/企画を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の企業戦略に沿って、知的財産権の信託/証券化/担保化等について金融機関等と連携して資金調達を実施/評価/報告書作成を成功裡に行った。</li> <li>3. 自社の企業戦略に沿って、知的財産権の信託/証券化/担保化等による資金調達の現状分析/改善を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</li> <li>2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資金調達業務に必要な法律(例:知的財産法、信託法、税法、商法の匿名組合に関する規定、ファンド法、LLP法、資産流動化法等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資金調達に関する実務(例:信託/証券化/担保化による資金調達スキーム、自社商品全般の法的権利関係、価値評価手法)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:金融機関)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:金融機関)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:金融機関)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

予算(2.1.5) C.資金調達

業績評価指標		業務遂行能力評価指標	
レベル3	以下の条件の実績と経験を有する。 <b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応	以下の条件の能力を有する。 <b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。 2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。	
	<b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度30%以上) 1. 自社の企業戦略に沿って、知的財産権の信託/証券化/担保化等による資金調達に関する情報収集(例:リスクとリターン分析)/企画を成功裡に行った。 2. 自社の企業戦略に沿って、知的財産権の信託/証券化/担保化等について金融機関等と連携して資金調達を実施/評価/報告書作成を成功裡に行った。 3. 自社の企業戦略に沿って、知的財産権の信託/証券化/担保化等による資金調達の現状分析/改善を成功裡に行った。	<b>②法律</b> 1. 資金調達業務に必要な法律(例:知的財産法、信託法、税法、商法の匿名組合に関する規定、ファンド法、LLP法、資産流動化法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書/専門雑誌レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。	
	<b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績/経験を有する。 1. 効果が実際に確認された(例:実際の資金調達額が資本金の一定額(例:5%)以上)。 [必須] 2. 成果が最終的には経営層/株主に参照されるに至った。 3. 主力製品/重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。	<b>③実務</b> 1. 資金調達に関する実務(例:信託/証券化/担保化による資金調達スキーム、自社商品全般の法的権利関係、価値評価手法)の専門的な事項(例:実務全体の60~70%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。	
	<b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績/経験を有する。 1. 後輩(例:レベル2~3)に対する育成指導/助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。 6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 7. 社外委員会にメンバーとして参加した。 8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。	<b>④技術</b>	
	<b>⑤その他</b>	<b>⑤語学</b>	

知財スキル標準ver.1.0

予算(2.1.5) C.資金調達

業績評価指標		業務遂行能力評価指標	
レベル4	以下の条件の実績と経験を有する。 <b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応	以下の条件の能力を有する。 <b>①事業</b> 1. 自己の所掌業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。 2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。 3. 所掌業務の経営/事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。	
	<b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度40%以上) 1. 自社の企業戦略に沿って、知的財産権の信託/証券化/担保化等による資金調達に関する情報収集(例:リスクとリターン分析)/企画を成功裡に行った。 2. 自社の企業戦略に沿って、知的財産権の信託/証券化/担保化等について金融機関等と連携して資金調達を実施/評価/報告書作成を成功裡に行った。 3. 自社の企業戦略に沿って、知的財産権の信託/証券化/担保化等による資金調達の現状分析/改善を成功裡に行った。	<b>②法律</b> 1. 資金調達業務に必要な法律(例:知的財産法、信託法、税法、商法の匿名組合に関する規定、ファンド法、LLP法、資産流動化法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書/専門雑誌レベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用/展開することができる。 2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。	
	<b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績/経験を有する。 1. 複数の効果が実際に確認された(例:実際の資金調達額が資本金の一定額(例:5%)以上)。 [必須] 2. 成果が最終的には経営層/株主に参照されるに至った。 3. 担当事業分野全体の規模で行った。	<b>③実務</b> 1. 資金調達に関する実務(例:信託/証券化/担保化による資金調達スキーム、自社商品全般の法的権利関係、価値評価手法)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用/展開することができる。 2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。	
	<b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績/経験を有する。 1. 後輩(例:レベル3~4)に対する育成指導/助言を行った。[必須] 2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会を主導した。 6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 7. 社外委員会に会社代表として参加した。 8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。	<b>④技術</b>	
	<b>⑤その他</b>	<b>⑤語学</b>	

知財スキル標準ver.1.0

## 予算(2.1.5) C.資金調達

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上) 1. 自社の企業戦略に沿って、知的財産権の信託／証券化／担保化等による資金調達に関する情報収集(例:リスクとリターン分析)／企画を成功裡に行った。 2. 自社の企業戦略に沿って、知的財産権の信託／証券化／担保化等について金融機関等と連携して資金調達を実施／評価／報告書作成を成功裡に行った。 3. 自社の企業戦略に沿って、知的財産権の信託／証券化／担保化等による資金調達の現状分析／改善を成功裡に行った。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:実際の資金調達額が資本金の一定額(例:5%)以上)。<b>[必須]</b> 2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。 3. 全社的規模で行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b> 2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。 3. 社内講師を担当した。 4. 社内委員会を主導した。 5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 6. 社外委員会に主査的立場で参加した。 7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。 2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。 3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。 4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>②法律</b> 1. 資金調達業務に必要な法律(例:知的財産法、信託法、税法、商法の匿名組合に関する規定、ファンド法、LLP法、資産流動化法等)・法改正情報・判例の高度に専門的な事項(例:専門書／専門雑誌／学会論文レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。 2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 資金調達に関する実務(例:信託／証券化／担保化による資金調達スキーム、自社商品全般の法的権利関係、価値評価手法)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。 2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:金融機関)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:金融機関)の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:金融機関)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。 5. 関係者(例:金融機関)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## アウトソーシング(2. 1. 6)A.調査会社

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上) 1. 知的財産戦略に沿って、調査会社にアウトソーシングする業務の仕分けを行い、戦略的アウトソーシング(例:複数の会社の使い分け)のための情報収集(例:経営方針、社長、得意分野、コンフリクトの有無、専門分野のサーチャ人材の豊富さ、調査経費・案件相場、年間処理件数、秘密情報管理体制、事務・期限管理体制、品質、評判)/企画/実施(例:NDAを締結した上での特許、意匠、商標、学術文献、パテントマップ等の調査)/評価(例:品質のチェック)を成功裡に行った。 2. 調査会社への戦略的アウトソーシングに対する現状分析/改善を成功裡に行った。 3. 調査コストの管理(例:最小限化、少なくとも月ベースでの確認)を成功裡に行った。 4. 納期日程・日程遅延の差異分析を行い、原因追究及び対策立案を行い、再発防止策を適切に講じた。 5. アウトソーシングに関するトラブル(例:例外的に高額な経費)について、関係者と調整し、解決に導いた。</p> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。 1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. アウトソーシング業務(調査会社)に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. アウトソーシングに関する実務(例:調査会社への戦略的アウトソーシング、進捗管理、コスト管理、品質管理)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 調査会社が外国の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:社外)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:アウトソース先)の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:アウトソース先)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## アウトソーシング(2. 1. 6)A.調査会社

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上) 1. 知的財産戦略に沿って、調査会社にアウトソーシングする業務の仕分けを行い、戦略的アウトソーシング(例:複数の会社の使い分け)のための情報収集(例:経営方針、社長、得意分野、コンフリクトの有無、専門分野のサーチャ人材の豊富さ、調査経費・案件相場、年間処理件数、秘密情報管理体制、事務・期限管理体制、品質、評判)/企画/実施(例:NDAを締結した上での特許、意匠、商標、学術文献、パテントマップ等の調査)/評価(例:品質のチェック)を成功裡に行った。 2. 調査会社への戦略的アウトソーシングに対する現状分析/改善を成功裡に行った。 3. 調査コストの管理(例:最小限化、少なくとも月ベースでの確認)を成功裡に行った。 4. 納期日程・日程遅延の差異分析を行い、原因追究及び対策立案を行い、再発防止策を適切に講じた。 5. アウトソーシングに関するトラブル(例:例外的に高額な経費)について、関係者と調整し、解決に導いた。</p> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。 1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. アウトソーシング業務(調査会社)に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. アウトソーシングに関する実務(例:調査会社への戦略的アウトソーシング、進捗管理、コスト管理、品質管理)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 調査会社が外国の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において最低限の範囲で(例:50%程度)自己の意思(例:依頼内容)を伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:社外)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:アウトソース先)の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:アウトソース先)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## アウトソーシング(2. 1. 6)A.調査会社

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      (部分的な)担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的財産戦略に沿って、調査会社にアウトソーシングする業務の仕分けを行い、戦略的アウトソーシング(例:複数の会社の使い分け)のための情報収集(例:経営方針、社長、得意分野、コンフリクトの有無、専門分野のサーチャ人材の豊富さ、調査経費・案件相場、年間処理件数、秘密情報管理体制、事務・期限管理体制、品質、評判)／企画／実施(例:NDAを締結した上での特許、意匠、商標、学術文献、パテントマップ等の調査)／評価(例:品質のチェック)を成功裡に行った。</li> <li>2. 調査会社への戦略的アウトソーシングに対する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 調査コストの管理(例:最小限化、少なくとも月ベースでの確認)を成功裡に行った。</li> <li>4. 納期日程・日程遅延の差異分析を行い、原因追及及び対策立案を行い、再発防止策を適切に講じた。</li> <li>5. アウトソーシングに関するトラブル(例:例外的に高額な経費)について、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:調査結果から他社権利排除に結びついた、調査結果から係争を和解に導いた)。[必須]</li> <li>2. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)全体の規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b>                      1. アウトソーシング業務(調査会社)に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>③実務</b>                      1. アウトソーシングに関する実務(例:調査会社への戦略的アウトソーシング、進捗管理、コスト管理、品質管理)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b>                      調査会社が外国の場合において、外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において概ね(例:60～70%程度)自己の意思(例:依頼内容)を伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者(例:社外)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者(例:アウトソース先)の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者(例:アウトソース先)と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p>5. 関係者(例:アウトソース先)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## アウトソーシング(2. 1. 6)A.調査会社

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      指導者兼担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的財産戦略に沿って、調査会社にアウトソーシングする業務の仕分けを行い、戦略的アウトソーシング(例:複数の会社の使い分け)のための情報収集(例:経営方針、社長、得意分野、コンフリクトの有無、専門分野のサーチャ人材の豊富さ、調査経費・案件相場、年間処理件数、秘密情報管理体制、事務・期限管理体制、品質、評判)／企画／実施(例:NDAを締結した上での特許、意匠、商標、学術文献、パテントマップ等の調査)／評価(例:品質のチェック)を成功裡に行った。</li> <li>2. 調査会社への戦略的アウトソーシングに対する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 調査コストの管理(例:最小限化、少なくとも月ベースでの確認)を成功裡に行った。</li> <li>4. 納期日程・日程遅延の差異分析を行い、原因追及及び対策立案を行い、再発防止策を適切に講じた。</li> <li>5. アウトソーシングに関するトラブル(例:例外的に高額な経費)について、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:調査結果から他社権利排除に結びついた、調査結果から係争を和解に導いた)。[必須]</li> <li>2. 担当事業分野全体の規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p><b>②法律</b>                      1. アウトソーシング業務(調査会社)に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>③実務</b>                      1. アウトソーシングに関する実務(例:調査会社への戦略的アウトソーシング、進捗管理、コスト管理、品質管理)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b>                      調査会社が外国の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において正しく(例:80%程度)自己の意思(例:依頼内容)を伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者(例:社外)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者(例:アウトソース先)の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者(例:アウトソース先)と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p>5. 関係者(例:アウトソース先)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## アウトソーシング(2. 1. 6)A.調査会社

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <p>1. 知的財産戦略に沿って、調査会社にアウトソーシングする業務の仕分けを行い、戦略的アウトソーシング(例:複数の会社の使い分け)のための情報収集(例:経営方針、社長、得意分野、コンフリクトの有無、専門分野のサーチャ人材の豊富さ、調査経費・案件相場、年間処理件数、秘密情報管理体制、事務・期限管理体制、品質、評判)／企画／実施(例:NDAを締結した上での特許、意匠、商標、学術文献、特許マップ等の調査)／評価(例:品質のチェック)を成功裡に行った。</p> <p>2. 調査会社への戦略的アウトソーシングに対する現状分析／改善を成功裡に行った。</p> <p>3. 調査コストの管理(例:最小限化、少なくとも月ベースでの確認)を成功裡に行った。</p> <p>4. 納期日程・日程遅延の差異分析を行い、原因追及及び対策立案を行い、再発防止策を適切に講じた。</p> <p>5. アウトソーシングに関するトラブル(例:例外的に高額な経費)について、関係者と調整し、解決に導いた。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:調査結果から他社権利排除に結びついた、調査結果から係争を和解に導いた)。<b>[必須]</b></p> <p>2. 全社的規模で行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 社内講師を担当した。</p> <p>4. 社内委員会を主導した。</p> <p>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</p> <p>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <p>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>②法律</b></p> <p>1. アウトソーシング業務(調査会社)に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>③実務</b></p> <p>1. アウトソーシングに関する実務(例:調査会社への戦略的アウトソーシング、進捗管理、コスト管理、品質管理)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 調査会社が外国の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において正しくかつ流暢に(例:90%程度)自己の意思(例:依頼内容)を伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <p>1. 関係者(例:社外)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者(例:アウトソース先)の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者(例:アウトソース先)と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p>5. 関係者(例:アウトソース先)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0



## アウトソーシング(2. 1. 6)B.特許事務所

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的財産戦略に沿って、特許事務所にアウトソーシングする業務の仕分けを行い、戦略的アウトソーシング(例:複数の事務所の使い分け)のための情報収集(例:事務所の経営方針、所長、得意分野、コンフリクトの有無、専門分野の人材の豊富さ、報酬・案件相場、年間処理件数、秘密情報管理体制、事務・期限管理体制、品質、評判)／企画／実施(例:出願、中間処理等の依頼)／評価(例:品質のチェック)を成功裡に行った。</li> <li>2. 特許事務所への戦略的アウトソーシングに対する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 事務所コストの管理(例:報酬の最小限化、少なくとも月ベースの確認)を成功裡に行った。</li> <li>4. 納期日程・日程遅延の差異分析を行い、原因追及及び対策立案を行い、再発防止策を適切に講じた。</li> <li>5. アウトソーシングに関するトラブル(例:例外的に高額な経費)について、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:戦略上重要な特許を当該事務所と連携して権利化に成功した、当該事務所経由の権利がライセンス収入に結びついた、当該事務所の鑑定書によって他社権利排除に結びつけた、当該事務所と連携して係争を和解に導いた。〔必須〕)</li> <li>2. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(④、⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アウトソーシング業務(特許事務所)に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アウトソーシングに関する実務(例:特許事務所への戦略的アウトソーシング、進捗管理、コスト管理、品質管理)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b> アウトソーシング業務に必要な技術の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 特許事務所が外国の場合において、外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において概ね(例:60～70%程度)自己の意思(例:依頼内容)を伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:社外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:特許事務所)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる。</li> <li>5. 関係者(例:特許事務所)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		知財スキル標準ver.1.0

## アウトソーシング(2. 1. 6)B.特許事務所

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的財産戦略に沿って、特許事務所にアウトソーシングする業務の仕分けを行い、戦略的アウトソーシング(例:複数の事務所の使い分け)のための情報収集(例:事務所の経営方針、所長、得意分野、コンフリクトの有無、専門分野の人材の豊富さ、報酬・案件相場、年間処理件数、秘密情報管理体制、事務・期限管理体制、品質、評判)／企画／実施(例:出願、中間処理等の依頼)／評価(例:品質のチェック)を成功裡に行った。</li> <li>2. 特許事務所への戦略的アウトソーシングに対する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 事務所コストの管理(例:報酬の最小限化、少なくとも月ベースの確認)を成功裡に行った。</li> <li>4. 納期日程・日程遅延の差異分析を行い、原因追及及び対策立案を行い、再発防止策を適切に講じた。</li> <li>5. アウトソーシングに関するトラブル(例:例外的に高額な経費)について、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:戦略上重要な特許を当該事務所と連携して権利化に成功した、当該事務所経由の権利がライセンス収入に結びついた、当該事務所の鑑定書によって他社権利排除に結びつけた、当該事務所と連携して係争を和解に導いた。〔必須〕)</li> <li>2. 担当事業分野全体の規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(④、⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アウトソーシング業務(特許事務所)に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アウトソーシングに関する実務(例:特許事務所への戦略的アウトソーシング、進捗管理、コスト管理、品質管理)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> アウトソーシング業務に必要な技術の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 特許事務所が外国の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において正しく(例:80%程度)自己の意思(例:依頼内容)を伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:社外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:特許事務所)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる。</li> <li>5. 関係者(例:特許事務所)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		知財スキル標準ver.1.0

## アウトソーシング(2. 1. 6)B.特許事務所

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <p>1. 知的財産戦略に沿って、特許事務所にアウトソーシングする業務の仕分けを行い、戦略的アウトソーシング(例:複数の事務所の使い分け)のための情報収集(例:事務所の経営方針、所長、得意分野、コンフリクトの有無、専門分野の人材の豊富さ、報酬・案件相場、年間処理件数、秘密情報管理体制、事務・期限管理体制、品質、評判)／企画／実施(例:出願、中間処理等の依頼)／評価(例:品質のチェック)を成功裡に行った。</p> <p>2. 特許事務所への戦略的アウトソーシングに対する現状分析／改善を成功裡に行った。</p> <p>3. 事務所コストの管理(例:報酬の最小限化、少なくとも月ベースの確認)を成功裡に行った。</p> <p>4. 納期日程・日程遅延の差異分析を行い、原因追究及び対策立案を行い、再発防止策を適切に講じた。</p> <p>5. アウトソーシングに関するトラブル(例:例外的に高額な経費)について、関係者と調整し、解決に導いた。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:戦略上重要な特許を当該事務所と連携して権利化に成功した、当該事務所経由の権利がライセンス収入に結びついた、当該事務所の鑑定書によって他社権利排除に結びつけた、当該事務所と連携して係争を和解に導いた)。<b>[必須]</b></p> <p>2. 全社的規模で行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 社内講師を担当した。</p> <p>4. 社内委員会を主導した。</p> <p>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</p> <p>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(④、⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <p>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>②法律</b></p> <p>1. アウトソーシング業務(特許事務所)に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>③実務</b></p> <p>1. アウトソーシングに関する実務(例:特許事務所への戦略的アウトソーシング、進捗管理、コスト管理、品質管理)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>④技術</b> アウトソーシング業務に必要な技術の専門的又は広範かつ統合的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 特許事務所が外国の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において正しくかつ流暢に(例:90%程度)自己の意思(例:依頼内容)を伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <p>1. 関係者(例:社外)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者(例:特許事務所)の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者(例:特許事務所)と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる。</p> <p>5. 関係者(例:特許事務所)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0



## アウトソーシング(2. 1. 6)C.法律事務所

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自律的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <p>1. 企業戦略・知的財産戦略に沿って、法律事務所にアウトソーシングする業務の仕分けを行い、戦略的アウトソーシングのための情報収集(例:事務所の経営方針、所長、得意分野、コンフリクトの有無、専門分野の人材の豊富さ、報酬・案件相場、年間処理件数、秘密情報管理体制、事務・期限管理体制、品質、評判)／企画／実施(例:法律相談、契約書の作成、訴訟遂行等の依頼)／評価(例:品質のチェック等)を成功裡に行った。</p> <p>2. 法律事務所への戦略的アウトソーシングに対する現状分析／改善を成功裡に行った。</p> <p>3. 事務所コストの管理(例:報酬の最小限化、少なくとも月ベースでの確認等)を成功裡に行った。</p> <p>4. 納期日程・日程遅延の差異分析を行い、原因追及及び対策立案を行い、再発防止策を適切に講じた。</p> <p>5. アウトソーシングに関するトラブル(例:例外的に高額の経費)について、関係者と調整し、解決に導いた。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 効果が実際に確認された(例:当該事務所経由で交渉した結果、ライセンス収入／有利な条件での和解／ロイヤリティ支払額の低減に結びついた)。〔必須〕</p> <p>2. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</p> <p>4. 社内講師を担当した。</p> <p>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</p> <p>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</p> <p>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. アウトソーシング業務(法律事務所)に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>③実務</b> 1. アウトソーシングに関する実務(例:法律事務所への戦略的アウトソーシング、進捗管理、コスト管理、品質管理)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 法律事務所が外国の場合において、外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において概ね(例:60～70%程度)自己の意思(例:依頼内容)を伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:社外)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者(例:法律事務所)の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者(例:法律事務所)と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる。</p> <p>5. 関係者(例:法律事務所)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		知財スキル標準ver.1.0

## アウトソーシング(2. 1. 6)C.法律事務所

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <p>1. 企業戦略・知的財産戦略に沿って、法律事務所にアウトソーシングする業務の仕分けを行い、戦略的アウトソーシングのための情報収集(例:事務所の経営方針、所長、得意分野、コンフリクトの有無、専門分野の人材の豊富さ、報酬・案件相場、年間処理件数、秘密情報管理体制、事務・期限管理体制、品質、評判)／企画／実施(例:法律相談、契約書の作成、訴訟遂行等の依頼)／評価(例:品質のチェック等)を成功裡に行った。</p> <p>2. 法律事務所への戦略的アウトソーシングに対する現状分析／改善を成功裡に行った。</p> <p>3. 事務所コストの管理(例:報酬の最小限化、少なくとも月ベースでの確認等)を成功裡に行った。</p> <p>4. 納期日程・日程遅延の差異分析を行い、原因追及及び対策立案を行い、再発防止策を適切に講じた。</p> <p>5. アウトソーシングに関するトラブル(例:例外的に高額の経費)について、関係者と調整し、解決に導いた。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の効果が実際に確認された(例:当該事務所経由で交渉した結果、ライセンス収入／有利な条件での和解／ロイヤリティ支払額の低減に結びついた)。〔必須〕</p> <p>2. 担当事業分野全体の規模で行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕</p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</p> <p>4. 社内講師を担当した。</p> <p>5. 社内委員会を主導した。</p> <p>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</p> <p>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p><b>②法律</b> 1. アウトソーシング業務(法律事務所)に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>③実務</b> 1. アウトソーシングに関する実務(例:法律事務所への戦略的アウトソーシング、進捗管理、コスト管理、品質管理)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 法律事務所が外国の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において正しく(例:80%程度)自己の意思(例:依頼内容)を伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:社外)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者(例:法律事務所)の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者(例:法律事務所)と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる。</p> <p>5. 関係者(例:法律事務所)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		知財スキル標準ver.1.0

## アウトソーシング(2. 1. 6)C.法律事務所

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>企業戦略・知的財産戦略に沿って、法律事務所へアウトソーシングする業務の仕分けを行い、戦略的アウトソーシングのための情報収集(例:事務所の経営方針、所長、得意分野、コンフリクトの有無、専門分野の人材の豊富さ、報酬・案件相場、年間処理件数、秘密情報管理体制、事務・期限管理体制、品質、評判)／企画／実施(例:法律相談、契約書の作成、訴訟遂行等の依頼)／評価(例:品質のチェック等)を成功裡に行った。</li> <li>法律事務所への戦略的アウトソーシングに対する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>事務所コストの管理(例:報酬の最小限化、少なくとも月ベースでの確認等)を成功裡に行った。</li> <li>納期日程・日程遅延の差異分析を行い、原因追及及び対策立案を行い、再発防止策を適切に講じた。</li> <li>アウトソーシングに関するトラブル(例:例外的に高額な経費)について、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:当該事務所経由で交渉した結果、ライセンス収入／有利な条件での和解／ロイヤリティ支払額の低減に結びついた)。<b>[必須]</b></li> <li>全社的規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>アウトソーシング業務(法律事務所に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>アウトソーシングに関する実務(例:法律事務所への戦略的アウトソーシング、進捗管理、コスト管理、品質管理)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 法律事務所が外国の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において正しくかつ流暢に(例:90%程度)自己の意思(例:依頼内容)を伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:社外)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:法律事務所)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:法律事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる。</li> <li>関係者(例:法律事務所)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## アウトソーシング(2. 1. 6)D.翻訳会社

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	
以下の条件の実績と経験を有する。 <b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応  <b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上) 1. 知的財産戦略に沿って、翻訳会社にアウトソーシングする業務の仕分けを行い、戦略的アウトソーシング(例:複数の会社の使い分け)のための情報収集(例:経営方針, 社長, 得意分野, コンフリクトの有無, 専門分野の人材の豊富さ, 費用・案件相場, 年間処理件数, 秘密情報管理体制, 事務・期限管理体制, 品質, 評判)／企画／実施(例:NDAを締結した上での明細書の翻訳依頼等)／評価(例:品質のチェック等)を成功裡に行った。 2. 翻訳会社へのアウトソーシングに対する現状分析/改善を成功裡に行った。 3. 翻訳コストの管理(例:費用の最小限化, 少なくとも月ベースでの確認)を成功裡に行った。 4. 納期日程・日程遅延の差異分析を行い、原因追究及び対策立案を行い、再発防止策を適切に講じた。 5. アウトソーシングに関するトラブル(例:例外的に高額な経費)について、関係者と調整し、解決に導いた。  <b>③重要性</b>  <b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。 1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。  <b>⑤その他</b>	以下の条件の能力を有する。(④は任意) <b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。  <b>②法律</b> 1. アウトソーシング業務(翻訳会社)に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。  <b>③実務</b> 1. アウトソーシングに関する実務(例:翻訳会社への戦略的アウトソーシング, 進捗管理, コスト管理, 品質管理)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ, 実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。  <b>④技術</b> アウトソーシング業務に必要な技術の初歩的な事項を理解することができる。  <b>⑤語学</b> 対象案件の外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。  <b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:社外)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:翻訳会社)の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:翻訳会社)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる。  <b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。

知財スキル標準ver.1.0

## アウトソーシング(2. 1. 6)D.翻訳会社

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	
以下の条件の実績と経験を有する。 <b>①責任性</b> 担当者として対応  <b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上) 1. 知的財産戦略に沿って、翻訳会社にアウトソーシングする業務の仕分けを行い、戦略的アウトソーシング(例:複数の会社の使い分け)のための情報収集(例:経営方針, 社長, 得意分野, コンフリクトの有無, 専門分野の人材の豊富さ, 費用・案件相場, 年間処理件数, 秘密情報管理体制, 事務・期限管理体制, 品質, 評判)／企画／実施(例:NDAを締結した上での明細書の翻訳依頼等)／評価(例:品質のチェック等)を成功裡に行った。 2. 翻訳会社へのアウトソーシングに対する現状分析/改善を成功裡に行った。 3. 翻訳コストの管理(例:費用の最小限化, 少なくとも月ベースでの確認)を成功裡に行った。 4. 納期日程・日程遅延の差異分析を行い、原因追究及び対策立案を行い、再発防止策を適切に講じた。 5. アウトソーシングに関するトラブル(例:例外的に高額な経費)について、関係者と調整し、解決に導いた。  <b>③重要性</b>  <b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。 1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。  <b>⑤その他</b>	以下の条件の能力を有する。(④は任意) <b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。  <b>②法律</b> 1. アウトソーシング業務(翻訳会社)に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。  <b>③実務</b> 1. アウトソーシングに関する実務(例:翻訳会社への戦略的アウトソーシング, 進捗管理, コスト管理, 品質管理)の基本的な事項(例:重要なもののみ, 実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。  <b>④技術</b> アウトソーシング業務に必要な技術の基本的な事項を理解することができる。  <b>⑤語学</b> 対象案件の外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において最低限の範囲で(例:50%程度)自己の意思(例:依頼内容)を伝達することができる。  <b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:社外)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:翻訳会社)の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:翻訳会社)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる。  <b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。

知財スキル標準ver.1.0

## アウトソーシング(2. 1. 6)D.翻訳会社

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      (部分的な)担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的財産戦略に沿って、翻訳会社にアウトソーシングする業務の仕分けを行い、戦略的アウトソーシング(例:複数の会社の使い分け)のための情報収集(例:経営方針、社長、得意分野、コンフリクトの有無、専門分野の人材の豊富さ、費用・案件相場、年間処理件数、秘密情報管理体制、事務・期限管理体制、品質、評判)／企画／実施(例:NDAを締結した上での明細書の翻訳依頼等)／評価(例:品質のチェック等)を成功裡に行った。</li> <li>2. 翻訳会社へのアウトソーシングに対する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 翻訳コストの管理(例:費用の最小限化、少なくとも月ベースでの確認)を成功裡に行った。</li> <li>4. 納期日程・日程遅延の差異分析を行い、原因追及及び対策立案を行い、再発防止策を適切に講じた。</li> <li>5. アウトソーシングに関するトラブル(例:例外的に高額な経費)について、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:戦略上重要な特許を当該事務所と連携して権利化に成功した、当該事務所経由の権利がライセンス収入に結びついた、当該事務所と連携して係争を和解に導いた)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(④は任意)</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。                      2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b>                      1. アウトソーシング業務(翻訳会社)に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。                      2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>③実務</b>                      1. アウトソーシングに関する実務(例:翻訳会社への戦略的アウトソーシング、進捗管理、コスト管理、品質管理)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。                      2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>④技術</b>                      アウトソーシング業務に必要な技術の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b>                      対象案件の外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において概ね(例:60～70%程度)自己の意思(例:依頼内容)を伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者(例:社外)から円滑に情報収集ができる。                      2. 関係者(例:翻訳会社)の説明を正しく理解することができる。                      3. 関係者(例:翻訳会社)と連携し、協働できる。                      4. 関係者に分かりやすく説明できる。                      5. 関係者(例:翻訳会社)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## アウトソーシング(2. 1. 6)D.翻訳会社

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      指導者兼担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的財産戦略に沿って、翻訳会社にアウトソーシングする業務の仕分けを行い、戦略的アウトソーシング(例:複数の会社の使い分け)のための情報収集(例:経営方針、社長、得意分野、コンフリクトの有無、専門分野の人材の豊富さ、費用・案件相場、年間処理件数、秘密情報管理体制、事務・期限管理体制、品質、評判)／企画／実施(例:NDAを締結した上での明細書の翻訳依頼等)／評価(例:品質のチェック等)を成功裡に行った。</li> <li>2. 翻訳会社へのアウトソーシングに対する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 翻訳コストの管理(例:費用の最小限化、少なくとも月ベースでの確認)を成功裡に行った。</li> <li>4. 納期日程・日程遅延の差異分析を行い、原因追及及び対策立案を行い、再発防止策を適切に講じた。</li> <li>5. アウトソーシングに関するトラブル(例:例外的に高額な経費)について、関係者と調整し、解決に導いた。</li> </ol> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:戦略上重要な特許を当該事務所と連携して権利化に成功した、当該事務所経由の権利がライセンス収入に結びついた、当該事務所と連携して係争を和解に導いた)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 担当事業分野全体の規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(④は任意)</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。                      2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。                      3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p><b>②法律</b>                      1. アウトソーシング業務(翻訳会社)に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。                      2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>③実務</b>                      1. アウトソーシングに関する実務(例:翻訳会社への戦略的アウトソーシング、進捗管理、コスト管理、品質管理)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。                      2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>④技術</b>                      アウトソーシング業務に必要な技術の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b>                      対象案件の外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において正しく(例:80%程度)自己の意思(例:依頼内容)を伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者(例:社外)から円滑に情報収集ができる。                      2. 関係者(例:翻訳会社)の説明を正しく理解することができる。                      3. 関係者(例:翻訳会社)と連携し、協働できる。                      4. 関係者に分かりやすく説明できる。                      5. 関係者(例:翻訳会社)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## アウトソーシング(2. 1. 6)D.翻訳会社

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <p>1. 知的財産戦略に沿って、翻訳会社にアウトソーシングする業務の仕分けを行い、戦略的アウトソーシング(例:複数の会社の使い分け)のための情報収集(例:経営方針、社長、得意分野、コンフリクトの有無、専門分野の人材の豊富さ、費用・案件相場、年間処理件数、秘密情報管理体制、事務・期限管理体制、品質、評判)／企画／実施(例:NDAを締結した上で明細書の翻訳依頼等)／評価(例:品質のチェック等)を成功裡に行った。</p> <p>2. 翻訳会社へのアウトソーシングに対する現状分析／改善を成功裡に行った。</p> <p>3. 翻訳コストの管理(例:費用の最小限化、少なくとも月ベースでの確認)を成功裡に行った。</p> <p>4. 納期日程・日程遅延の差異分析を行い、原因追究及び対策立案を行い、再発防止策を適切に講じた。</p> <p>5. アウトソーシングに関するトラブル(例:例外的に高額な経費)について、関係者と調整し、解決に導いた。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:戦略上重要な特許を当該事務所と連携して権利化に成功した。当該事務所経由の権利がライセンス収入に結びついた。当該事務所と連携して係争を和解に導いた)。[必須]</p> <p>2. 全社的規模で行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 社内講師を担当した。</p> <p>4. 社内委員会を主導した。</p> <p>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</p> <p>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(④は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <p>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>②法律</b></p> <p>1. アウトソーシング業務(翻訳会社)に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>③実務</b></p> <p>1. アウトソーシングに関する実務(例:翻訳会社への戦略的アウトソーシング、進捗管理、コスト管理、品質管理)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>④技術</b> アウトソーシング業務に必要な技術の専門的又は広範かつ統合的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件の外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において正しくかつ流暢に(例:90%程度)自己の意思(例:依頼内容)を伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <p>1. 関係者(例:社外)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者(例:翻訳会社)の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者(例:翻訳会社)と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる。</p> <p>5. 関係者(例:翻訳会社)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 調査(2. 2. 1) A.先行資料

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、公知例等の先行資料調査のために対象出願のクレーム、対象技術等の調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。</li> <li>2. 事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、無効資料調査のために対象特許のクレーム、対象製品、対象技術等の調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。</li> <li>3. 上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行資料調査業務に必要な法律(例:知的財産法, データベースの法的保護, 個人情報保護法等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行資料調査に関する実務(例:先行資料調査手法, 無効資料調査手法, 各国特許/文献データベース, 分析手法, IPC・Fターム・FI等の特許分類, 調査会社)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 先行資料調査関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端の技術, 化学分野をサーチ・抽出する場合は化学の化合物名・分類)の初歩的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:依頼者)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:依頼者)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:依頼者)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 調査(2. 2. 1) A.先行資料

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、公知例等の先行資料調査のために対象出願のクレーム、対象技術等の調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。</li> <li>2. 事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、無効資料調査のために対象特許のクレーム、対象製品、対象技術等の調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。</li> <li>3. 上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</li> <li>2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行資料調査業務に必要な法律(例:知的財産法, データベースの法的保護, 個人情報保護法等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行資料調査に関する実務(例:先行資料調査手法, 無効資料調査手法, 各国特許/文献データベース, 分析手法, IPC・Fターム・FI等の特許分類, 調査会社)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 先行資料調査関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端の技術, 化学分野をサーチ・抽出する場合は化学の化合物名・分類)の基本的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:依頼者)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:依頼者)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:依頼者)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0



## 調査(2.2.1) A.先行資料

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上) 1. 事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、公知例等の先行資料調査のために対象出願のクレーム、対象技術等の調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。 2. 事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、無効資料調査のために対象特許のクレーム、対象製品、対象技術等の調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。 3. 上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:調査結果から他社権利排除に結びついた、調査結果から係争を和解に導いた、検索結果を元にデータベースを構築した)。(必須) 2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。 3. 特定の開発テーマ(将来のものを含む)全体について行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。(必須) 2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。 3. 社内講師を担当した。 4. 社内委員会を主導した。 5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 6. 社外委員会に主査的立場で参加した。 7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。 2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。 3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。 4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>②法律</b> 1. 先行資料調査業務に必要な法律(例:知的財産法、データベースの法的保護、個人情報保護法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。 2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 先行資料調査に関する実務(例:先行資料調査手法、無効資料調査手法、各国特許／文献データベース、分析手法、IPC・Fターム・FI等の特許分類、調査会社)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b> 先行資料調査関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端の技術、化学分野をサーチ・抽出する場合は化学の化合物名・分類)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:依頼者)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:依頼者)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:依頼者)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。 5. 関係者(例:依頼者)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 調査(2.2.1) B.他社権利

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、特許クリアランスのために対象製品技術等の調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。</li> <li>事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、競合他社の新着公報(公開・公表・特許公報等)を監視を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他者権利調査業務に必要な法律(例:知的財産法、データベースの法的保護等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他者権利調査に関する実務(例:特許クリアランス、新着公報監視方法、データベース、調査手法、分析手法、特許分類、調査会社)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 他者権利調査関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端の技術)の初歩的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報(例:外国公報、外国語データベース)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:依頼者)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:依頼者)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:依頼者)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 調査(2.2.1) B.他社権利

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、特許クリアランスのために対象製品技術等の調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。</li> <li>事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、競合他社の新着公報(公開・公表・特許公報等)を監視を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</li> <li>担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他者権利調査業務に必要な法律(例:知的財産法、データベースの法的保護等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他者権利調査に関する実務(例:特許クリアランス、新着公報監視方法、データベース、調査手法、分析手法、特許分類、調査会社)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 他者権利調査関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端の技術)の基本的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報(例:外国公報、外国語データベース)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:依頼者)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:依頼者)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:依頼者)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 調査(2.2.1) B.他社権利

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、特許クリアランスのために対象製品技術等の調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。</li> <li>事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、競合他社の新着公報(公開・公表・特許公報等)を監視を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果が実際に確認された(例:競合他社の特許／公開発明を発見し、それを機に開発部門が設計した、あるいは特許部門での情報提供／無効資料調査等の行動のきっかけとなった。自社製品には無い新技術や改良技術を発見し、関係する当該他社特許／公開発明を発見し、それを機に開発部門が設計した、あるいは特許部門での情報提供／無効資料調査等の行動のきっかけとなった)。<b>[必須]</b></li> <li>成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</li> <li>主力製品／重要な特定の開発テーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他者権利調査業務に必要な法律(例:知的財産法、データベースの法的保護等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利調査に関する実務(例:特許クリアランス、新着公報監視方法、データベース、調査手法、分析手法、特許分類、調査会社)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 他社権利調査関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端の技術)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報(例:外国公報、外国語データベース)を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:依頼者)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:依頼者)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:依頼者)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:依頼者)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 調査(2.2.1) B.他社権利

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、特許クリアランスのために対象製品技術等の調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。</li> <li>事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、競合他社の新着公報(公開・公表・特許公報等)を監視を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の効果が実際に確認された(例:競合他社の特許／公開発明を発見し、それを機に開発部門が設計した、あるいは特許部門での情報提供／無効資料調査等の行動のきっかけとなった。自社製品には無い新技術や改良技術を発見し、関係する当該他社特許／公開発明を発見し、それを機に開発部門が設計した、あるいは特許部門での情報提供／無効資料調査等の行動のきっかけとなった)。<b>[必須]</b></li> <li>成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</li> <li>担当事業分野の特定の開発テーマ(将来のものを含む)全体について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他者権利調査業務に必要な法律(例:知的財産法、データベースの法的保護等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社権利調査に関する実務(例:特許クリアランス、新着公報監視方法、データベース、調査手法、分析手法、特許分類、調査会社)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 他社権利調査関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端の技術)の専門的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報(例:外国公報、外国語データベース)を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:依頼者)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:依頼者)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:依頼者)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:依頼者)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 調査(2.2.1) B.他社権利

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、特許クリアランスのために対象製品技術等の調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。</li> <li>事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、競合他社の新着公報(公開・公表・特許公報等)を監視を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>上記について、適切なアウトソースを選定し、活用して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:競合他社の特許／公開発明を発見し、それを機に開発部門が設計した、あるいは特許部門での情報提供／無効資料調査等の行動のきっかけとなった、自社製品には無い新技術や改良技術を発見し、関係する当該他社特許／公開発明を発見し、それを機に開発部門が設計した、あるいは特許部門での情報提供／無効資料調査等の行動のきっかけとなった)。(必須)</li> <li>成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</li> <li>特定の開発テーマ(将来のものを含む)全体について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。(必須)</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他者権利調査業務に必要な法律(例:知的財産法、データベースの法的保護等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他者権利調査に関する実務(例:特許クリアランス、新着公報監視方法、データベース、調査手法、分析手法、特許分類、調査会社)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 他者権利調査関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端の技術)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報(例:外国公報、外国語データベース)を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:依頼者)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:依頼者)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:依頼者)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:依頼者)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	



## 調査(2.2.1) C.パテントマップ

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <p>1. 事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、自社の特許情報を収集し作成内容及び範囲を適確に把握し、適切な作成ツールを利用して定量的・定性的に加工(例:製品に使われている技術を分類し、関連するIPC、Fターム、FI、独自分類記号等に分類し整理)し、期限内にパテントマップを作成した(反復性を要する)。</p> <p>2. 他社の特許情報を収集し、作成内容及び範囲を適確に把握し、適切な作成ツールを利用して定量的・定性的に加工(例:製品に使われている技術を分類し、関連するIPC、Fターム、FI、独自分類記号等に分類し整理)し、期限内にパテントマップを作成した(反復性を要する)。</p> <p>3. 上記について、適切なアウトソース(例:調査会社、社外システム)を活用して実行した。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 効果が実際に確認された(例:自社の主要な特許について作成したパテントマップが参考資料として戦略に生かされた、知財戦略に基づき作成した主たる競合企業のパテントマップから得た技術情報について技術部門等に伝えた)。<b>[必須]</b></p> <p>2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</p> <p>3. 主力製品／重要な特定の開発テーマ(将来のものを含む)について行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</p> <p>4. 社内講師を担当した。</p> <p>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</p> <p>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</p> <p>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <p>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <p>1. パテントマップ関連業務に必要な法律(例:知的財産法、データベースの法的保護、個人情報保護法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>③実務</b></p> <p>1. パテントマップに関する実務(例:ポートフォリオ分析ツール、パテントマップツール、IPC・Fターム・FI等の特許分類)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>④技術</b> パテントマップ関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の技術動向、具体的な技術内容)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報(例:外国公報、外国語データベース)を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる(例:自己の専門分野のプレゼンテーション)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <p>1. 関係者(例:依頼者)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者(例:依頼者)の説明(例:作成依頼の目的)を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者(例:依頼者)と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p>5. 関係者(例:依頼者)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 調査(2.2.1) C.パテントマップ

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <p>1. 事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、自社の特許情報を収集し作成内容及び範囲を適確に把握し、適切な作成ツールを利用して定量的・定性的に加工(例:製品に使われている技術を分類し、関連するIPC、Fターム、FI、独自分類記号等に分類し整理)し、期限内にパテントマップを作成した(反復性を要する)。</p> <p>2. 他社の特許情報を収集し、作成内容及び範囲を適確に把握し、適切な作成ツールを利用して定量的・定性的に加工(例:製品に使われている技術を分類し、関連するIPC、Fターム、FI、独自分類記号等に分類し整理)し、期限内にパテントマップを作成した(反復性を要する)。</p> <p>3. 上記について、適切なアウトソース(例:調査会社、社外システム)を活用して実行した。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の効果が実際に確認された(例:自社の主要な特許について作成したパテントマップが参考資料として戦略に生かされた、知財戦略に基づき作成した主たる競合企業のパテントマップから得た技術情報について技術部門等に伝えた)。<b>[必須]</b></p> <p>2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</p> <p>3. 担当事業分野の特定の開発テーマ(将来のものを含む)全体について行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</p> <p>4. 社内講師を担当した。</p> <p>5. 社内委員会を主導した。</p> <p>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</p> <p>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <p>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p><b>②法律</b></p> <p>1. パテントマップ関連業務に必要な法律(例:知的財産法、データベースの法的保護、個人情報保護法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>③実務</b></p> <p>1. パテントマップに関する実務(例:ポートフォリオ分析ツール、パテントマップツール、IPC・Fターム・FI等の特許分類)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>④技術</b> パテントマップ関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の技術動向、具体的な技術内容)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報(例:外国公報、外国語データベース)を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる(例:自己の専門分野のプレゼンテーション)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <p>1. 関係者(例:依頼者)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者(例:依頼者)の説明(例:作成依頼の目的)を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者(例:依頼者)と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p>5. 関係者(例:依頼者)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 調査(2.2.1) C.パテントマップ

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <p>1. 事業戦略・知的財産戦略・研究開発戦略に沿って、自社の特許情報を収集し作成内容及び範囲を適確に把握し、適切な作成ツールを利用して定量的・定性的に加工(例:製品に使われている技術を分類し、関連するIPC、Fターム、FI、独自分類記号等に分類し整理)し、期限内にパテントマップを作成した(反復性を要する)。</p> <p>2. 他社の特許情報を収集し、作成内容及び範囲を適確に把握し、適切な作成ツールを利用して定量的・定性的に加工(例:製品に使われている技術を分類し、関連するIPC、Fターム、FI、独自分類記号等に分類し整理)し、期限内にパテントマップを作成した(反復性を要する)。</p> <p>3. 上記について、適切なアウトソース(例:調査会社、社外システム)を活用して実行した。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:自社の主要な特許について作成したパテントマップが参考資料として戦略に生かされた。知財戦略に基づき作成した主たる競合企業のパテントマップから得た技術情報について技術部門等に伝えた)。<b>[必須]</b></p> <p>2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</p> <p>3. 特定の開発テーマ(将来のものを含む)全体について行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 社内講師を担当した。</p> <p>4. 社内委員会を主導した。</p> <p>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</p> <p>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <p>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>②法律</b></p> <p>1. パテントマップ関連業務に必要な法律(例:知的財産法、データベースの法的保護、個人情報保護法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>③実務</b></p> <p>1. パテントマップに関する実務(例:ポートフォリオ分析ツール、パテントマップツール、IPC・Fターム・FI等の特許分類)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>④技術</b> パテントマップ関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の技術動向、具体的な技術内容)の専門的又は広範かつ統合的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国特許の場合において、外国語(例:英語)の情報(例:外国公報、外国語データベース)を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる(例:自己の専門分野のプレゼンテーション)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <p>1. 関係者(例:依頼者)から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者(例:依頼者)の説明(例:作成依頼の目的)を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者(例:依頼者)と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p>5. 関係者(例:依頼者)を納得させることができる。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		<p>知財スキル標準ver.1.0</p>

## 知的創造(2. 2. 2) A.研究・開発

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究開発戦略・知的財産戦略に沿って、自己の担当する技術分野に関する先願特許(出願中のものを含む)の情報を収集/分析し、その侵害を回避する研究・開発の企画/実施(ラポノートの作成を含む)/評価を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の知的財産戦略(例:特許群の形成、標準化戦略)に従って高品質な特許の権利確保を積極的に推進した(例:複数のメンバが所属する研究開発プロジェクトのマネジメント、発表論文やプレゼン資料等の研究開発成果物の事前チェック)。</li> <li>3. 自己の研究・開発担当分野について発明発掘会議の企画/実施/評価を成功裡に行った。</li> <li>4. 特定の研究・開発テーマについて、標準化戦略の立案を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 研究・開発業務に必要な知的財産関連法律(例:特許法の新規性・進歩性・法定期限等、外国法と日本法との差異)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 研究・開発に関する実務(例:先願特許、特許法の新規性・進歩性に関する審査基準、創造技法、社内の発明評価基準、知財部・特許事務所の役割)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b> 研究・開発関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端技術・学術文献・学会動向、他社特許)の初歩的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:英語の特許文献)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:知的財産担当者)の説明を正しく理解することができる。 2. 関係者(例:知的財産担当者)と連携し、協働できる(例:発明の本質に導いてくための論理的な議論ができる)。 3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 知的創造(2. 2. 2) A.研究・開発

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究開発戦略・知的財産戦略に沿って、自己の担当する技術分野に関する先願特許(出願中のものを含む)の情報を収集/分析し、その侵害を回避する研究・開発の企画/実施(ラポノートの作成を含む)/評価を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の知的財産戦略(例:特許群の形成、標準化戦略)に従って高品質な特許の権利確保を積極的に推進した(例:複数のメンバが所属する研究開発プロジェクトのマネジメント、発表論文やプレゼン資料等の研究開発成果物の事前チェック)。</li> <li>3. 自己の研究・開発担当分野について発明発掘会議の企画/実施/評価を成功裡に行った。</li> <li>4. 特定の研究・開発テーマについて、標準化戦略の立案を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 研究・開発業務に必要な知的財産関連法律(例:特許法の新規性・進歩性・法定期限等、外国法と日本法との差異)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 研究・開発に関する実務(例:先願特許、特許法の新規性・進歩性に関する審査基準、創造技法、社内の発明評価基準、知財部・特許事務所の役割)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>④技術</b> 研究・開発関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端技術・学術文献・学会動向、他社特許)の基本的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:英語の特許文献)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:知的財産担当者)の説明を正しく理解することができる。 2. 関係者(例:知的財産担当者)と連携し、協働できる(例:発明の本質に導いてくための論理的な議論ができる)。 3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 知的創造(2.2.2) A.研究・開発

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究開発戦略・知的財産戦略に沿って、自己の担当する技術分野に関する先願特許(出願中のものを含む)の情報を収集／分析し、その侵害を回避する研究・開発の企画／実施(ラポノートの作成を含む)／評価を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の知的財産戦略(例:特許群の形成、標準化戦略)に従って高品質な特許の権利確保を積極的に推進した(例:複数のメンバが所属する研究開発プロジェクトのマネジメント、発表論文やプレゼン資料等の研究開発成果物の事前チェック)。</li> <li>3. 自己の研究・開発担当分野について発明発掘会議の企画／実施／評価を成功裡に行った。</li> <li>4. 特定の研究・開発テーマについて、標準化戦略の立案を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:知的財産部門と連携し、他社権利の侵害を回避する製品(サービス)を研究・開発した、発明発掘会議において戦略上重要な特許を抽出した、社内外の知的財産を応用して新規に研究・開発プロジェクトを立ち上げた)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品(サービス)／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究・開発業務に必要な知的財産関連法律(例:特許法の新規性・進歩性・法定期限等、外国法と日本法との差異)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究・開発に関する実務(例:先願特許、特許法の新規性・進歩性に関する審査基準、創造技法、社内の発明評価基準、知財部・特許事務所の役割)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 研究・開発関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端技術・学術文献・学会動向、他社特許)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:英語の特許文献)を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:知的財産担当者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>2. 関係者(例:知的財産担当者)と連携し、協働できる(例:発明の本質に導いてくための論理的な議論ができる)。</li> <li>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究開発戦略・知的財産戦略に沿って、自己の担当する技術分野に関する先願特許(出願中のものを含む)の情報を収集／分析し、その侵害を回避する研究・開発の企画／実施(ラポノートの作成を含む)／評価を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の知的財産戦略(例:特許群の形成、標準化戦略)に従って高品質な特許の権利確保を積極的に推進した(例:複数のメンバが所属する研究開発プロジェクトのマネジメント、発表論文やプレゼン資料等の研究開発成果物の事前チェック)。</li> <li>3. 自己の研究・開発担当分野について発明発掘会議の企画／実施／評価を成功裡に行った。</li> <li>4. 特定の研究・開発テーマについて、標準化戦略の立案を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:知的財産部門と連携し、他社権利の侵害を回避する製品(サービス)を研究・開発した、発明発掘会議において戦略上重要な特許を抽出した、社内外の知的財産を応用して新規に研究・開発プロジェクトを立ち上げた)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品(サービス)／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>

知財スキル標準ver.1.0

## 知的創造(2.2.2) A.研究・開発

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究開発戦略・知的財産戦略に沿って、自己の担当する技術分野に関する先願特許(出願中のものを含む)の情報を収集／分析し、その侵害を回避する研究・開発の企画／実施(ラポノートの作成を含む)／評価を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の知的財産戦略(例:特許群の形成、標準化戦略)に従って高品質な特許の権利確保を積極的に推進した(例:複数のメンバが所属する研究開発プロジェクトのマネジメント、発表論文やプレゼン資料等の研究開発成果物の事前チェック)。</li> <li>3. 自己の研究・開発担当分野について発明発掘会議の企画／実施／評価を成功裡に行った。</li> <li>4. 特定の研究・開発テーマについて、標準化戦略の立案を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:知的財産部門と連携し、他社権利の侵害を回避する製品(サービス)を研究・開発した、発明発掘会議において戦略上重要な特許を抽出した、社内外の知的財産を応用して新規に研究・開発プロジェクトを立ち上げた)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品(サービス)／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究・開発業務に必要な知的財産関連法律(例:特許法の新規性・進歩性・法定期限等、外国法と日本法との差異)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究・開発に関する実務(例:先願特許、特許法の新規性・進歩性に関する審査基準、創造技法、社内の発明評価基準、知財部・特許事務所の役割)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 研究・開発関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端技術・学術文献・学会動向、他社特許)の専門的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:英語の特許文献)を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:知的財産担当者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>2. 関係者(例:知的財産担当者)と連携し、協働できる(例:発明の本質に導いてくための論理的な議論ができる)。</li> <li>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究開発戦略・知的財産戦略に沿って、自己の担当する技術分野に関する先願特許(出願中のものを含む)の情報を収集／分析し、その侵害を回避する研究・開発の企画／実施(ラポノートの作成を含む)／評価を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の知的財産戦略(例:特許群の形成、標準化戦略)に従って高品質な特許の権利確保を積極的に推進した(例:複数のメンバが所属する研究開発プロジェクトのマネジメント、発表論文やプレゼン資料等の研究開発成果物の事前チェック)。</li> <li>3. 自己の研究・開発担当分野について発明発掘会議の企画／実施／評価を成功裡に行った。</li> <li>4. 特定の研究・開発テーマについて、標準化戦略の立案を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:知的財産部門と連携し、他社権利の侵害を回避する製品(サービス)を研究・開発した、発明発掘会議において戦略上重要な特許を抽出した、社内外の知的財産を応用して新規に研究・開発プロジェクトを立ち上げた)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品(サービス)／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>

知財スキル標準ver.1.0

## 知的創造(2. 2. 2) A.研究・開発

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究開発戦略・知的財産戦略に沿って、自己の担当する技術分野に関する先願特許(出願中のものを含む)の情報を収集／分析し、その侵害を回避する研究・開発の企画／実施(ラポノートの作成を含む)／評価を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の知的財産戦略(例:特許群の形成、標準化戦略)に従って高品質な特許の権利確保を積極的に推進した(例:複数のメンバが所属する研究開発プロジェクトのマネジメント、発表論文やプレゼン資料等の研究開発成果物の事前チェック)。</li> <li>3. 自己の研究・開発担当分野について発明発掘会議の企画／実施／評価を成功裡に行った。</li> <li>4. 特定の研究・開発テーマについて、標準化戦略の立案を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:知的財産部門と連携し、他社権利の侵害を回避する製品(サービス)を研究・開発した、発明発掘会議において戦略上重要な特許を抽出した、社内外の知的財産を応用して新規に研究・開発プロジェクトを立ち上げた)。 [必須]</li> <li>2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品(サービス)／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究・開発業務に必要な知的財産関連法律(例:特許法の新規性・進歩性・法定期限等、外国法と日本法との差異)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究・開発に関する実務(例:先願特許、特許法の新規性・進歩性に関する審査基準、創造技法、社内の発明評価基準、知財部・特許事務所の役割)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 研究・開発関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端技術・学術文献・学会動向、他社特許)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:英語の特許文献)を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:知的財産担当者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>2. 関係者(例:知的財産担当者)と連携し、協働できる(例:発明の本質に導いてくための論理的な議論ができる)。</li> <li>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		<p>知財スキル標準ver.1.0</p>

## 知的創造(2. 2. 2) B.デザイン開発

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上) 1. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、自己の担当するデザイン分野に関する先願意匠権に関する情報を収集/分析し、その侵害を回避するデザイン開発の企画/実施/評価を成功裡に行った。 2. 自社の意匠出願戦略(例:部分意匠出願戦略、関連意匠出願戦略)に従って高品質な意匠の権利確保を積極的に推進した。</p> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。 1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. デザイン開発業務に必要な知的財産関連法律(例:意匠法等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. デザイン開発に関する実務(例:先願意匠、部分意匠・関連意匠、審査基準)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:知的財産担当者)の説明を正しく理解することができる。 2. 関係者(例:知的財産担当者)と連携し、協働できる。 3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 知的創造(2. 2. 2) B.デザイン開発

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上) 1. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、自己の担当するデザイン分野に関する先願意匠権に関する情報を収集/分析し、その侵害を回避するデザイン開発の企画/実施/評価を成功裡に行った。 2. 自社の意匠出願戦略(例:部分意匠出願戦略、関連意匠出願戦略)に従って高品質な意匠の権利確保を積極的に推進した。</p> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。 1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. デザイン開発業務に必要な知的財産関連法律(例:意匠法等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. デザイン開発に関する実務(例:先願意匠、部分意匠・関連意匠、審査基準)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:知的財産担当者)の説明を正しく理解することができる。 2. 関係者(例:知的財産担当者)と連携し、協働できる。 3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 知的創造(2. 2. 2) B.デザイン開発

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <p>1. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、自己の担当するデザイン分野に関する先願意匠権に関する情報を収集／分析し、その侵害を回避するデザイン開発の企画／実施／評価を成功裡に行った。</p> <p>2. 自社の意匠出願戦略(例：部分意匠出願戦略、関連意匠出願戦略)に従って高品質な意匠の権利確保を積極的に推進した。</p> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 効果が実際に確認された(例：知的財産部門と連携し、他社権利の侵害を回避するデザインを開発した)。「必須」</p> <p>2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</p> <p>3. 主力製品(サービス)／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例：レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</p> <p>4. 社内講師を担当した。</p> <p>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</p> <p>6. 社外講習会(例：大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</p> <p>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <p>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <p>1. デザイン開発業務に必要な知的財産関連法律(例：意匠法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例：専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>③実務</b></p> <p>1. デザイン開発に関する実務(例：先願意匠、部分意匠・関連意匠、審査基準)の専門的な事項(例：実務全体の60～70%程度)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <p>1. 関係者(例：知的財産担当者)の説明を正しく理解することができる。</p> <p>2. 関係者(例：知的財産担当者)と連携し、協働できる。</p> <p>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例：専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		<p>3</p>

## 知的創造(2. 2. 2) B.デザイン開発

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <p>1. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、自己の担当するデザイン分野に関する先願意匠権に関する情報を収集／分析し、その侵害を回避するデザイン開発の企画／実施／評価を成功裡に行った。</p> <p>2. 自社の意匠出願戦略(例：部分意匠出願戦略、関連意匠出願戦略)に従って高品質な意匠の権利確保を積極的に推進した。</p> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の効果が実際に確認された(例：知的財産部門と連携し、他社権利の侵害を回避するデザインを開発した)。「必須」</p> <p>2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</p> <p>3. 主力製品(サービス)／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例：レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。「必須」</p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</p> <p>4. 社内講師を担当した。</p> <p>5. 社内委員会を主導した。</p> <p>6. 社外講習会(例：大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</p> <p>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <p>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p><b>②法律</b></p> <p>1. デザイン開発業務に必要な知的財産関連法律(例：意匠法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例：専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>③実務</b></p> <p>1. デザイン開発に関する実務(例：先願意匠、部分意匠・関連意匠、審査基準)の専門的な事項(例：実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <p>1. 関係者(例：知的財産担当者)の説明を正しく理解することができる。</p> <p>2. 関係者(例：知的財産担当者)と連携し、協働できる。</p> <p>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例：専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		<p>4</p>

## 知的創造(2. 2. 2) B.デザイン開発

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、自己の担当するデザイン分野に関する先願意匠権に関する情報を収集／分析し、その侵害を回避するデザイン開発の企画／実施／評価を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の意匠出願戦略(例：部分意匠出願戦略、関連意匠出願戦略)に従って高品質な意匠の権利確保を積極的に推進した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例：知的財産部門と連携し、他社権利の侵害を回避するデザインを開発した)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品(サービス)／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例：レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例：大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デザイン開発業務に必要な知的財産関連法律(例：意匠法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例：専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例：専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デザイン開発に関する実務(例：先願意匠、部分意匠、関連意匠、審査基準)の高度に専門的な事項(例：実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例：専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例：知的財産担当者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>2. 関係者(例：知的財産担当者)と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例：専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 知的創造(2. 2. 2) C.コンテンツ開発

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>知的財産戦略・コンテンツ開発戦略に沿って、自己の制作担当分野に関する他者の権利(例:著作権、肖像権、プライバシー権、パブリシティ権、特許権等)の侵害を回避するコンテンツ開発の企画/実施/評価を成功裡に行った。</li> <li>自社の知的財産戦略・コンテンツ開発戦略に従って高品質なコンテンツ開発を積極的に推進した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. コンテンツ開発業務に必要な知的財産関連法律(例:著作権法等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. コンテンツ開発に関する実務の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b> コンテンツ開発関連業務に必要な技術(例:デジタル著作権管理技術)の初歩的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:コンテンツ)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:プロデューサー/弁護士/公認会計士)の説明を正しく理解することができる。 2. 関係者(例:プロデューサー/弁護士/公認会計士)と連携し、協働できる。 3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 知的創造(2. 2. 2) C.コンテンツ開発

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>知的財産戦略・コンテンツ開発戦略に沿って、自己の制作担当分野に関する他者の権利(例:著作権、肖像権、プライバシー権、パブリシティ権、特許権等)の侵害を回避するコンテンツ開発の企画/実施/評価を成功裡に行った。</li> <li>自社の知的財産戦略・コンテンツ開発戦略に従って高品質なコンテンツ開発を積極的に推進した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. コンテンツ開発業務に必要な知的財産関連法律(例:著作権法等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. コンテンツ開発に関する実務の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>④技術</b> コンテンツ開発関連業務に必要な技術(例:デジタル著作権管理技術)の基本的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:コンテンツ)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:プロデューサー/弁護士/公認会計士)の説明を正しく理解することができる。 2. 関係者(例:プロデューサー/弁護士/公認会計士)と連携し、協働できる。 3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 知的創造(2. 2. 2) C.コンテンツ開発

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <p>1. 知的財産戦略・コンテンツ開発戦略に沿って、自己の制作担当分野に関する他者の権利(例:著作権、肖像権、プライバシー権、パブリシティ権、特許権等)の侵害を回避するコンテンツ開発の企画／実施／評価を成功裡に行った。                      2. 自社の知的財産戦略・コンテンツ開発戦略に従って高品質なコンテンツ開発を積極的に推進した。</p> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 効果が実際に確認された。〔必須〕                      2. 成果が最終的には株主に参照されるに至った。                      3. 主力コンテンツ／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。                      2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。                      3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。                      4. 社内講師を担当した。                      5. 社内委員会にメンバーとして参加した。                      6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。                      7. 社外委員会にメンバーとして参加した。                      8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。                      2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b>                      1. コンテンツ開発業務に必要な知的財産関連法律(例:著作権法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。                      2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>③実務</b>                      1. コンテンツ開発に関する実務の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。                      2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>④技術</b>                      コンテンツ開発関連業務に必要な技術(例:デジタル著作権管理技術)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b>                      外国語(例:英語)の情報(例:コンテンツ)を概ね(例:60～70%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者(例:プロデューサー／弁護士／公認会計士)の説明を正しく理解することができる。                      2. 関係者(例:プロデューサー／弁護士／公認会計士)と連携し、協働できる。                      3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 知的創造(2. 2. 2) C.コンテンツ開発

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <p>1. 知的財産戦略・コンテンツ開発戦略に沿って、自己の制作担当分野に関する他者の権利(例:著作権、肖像権、プライバシー権、パブリシティ権、特許権等)の侵害を回避するコンテンツ開発の企画／実施／評価を成功裡に行った。                      2. 自社の知的財産戦略・コンテンツ開発戦略に従って高品質なコンテンツ開発を積極的に推進した。</p> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の効果が実際に確認された。〔必須〕                      2. 成果が最終的には株主に参照されるに至った。                      3. 主力コンテンツ／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕                      2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。                      3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。                      4. 社内講師を担当した。                      5. 社内委員会を主導した。                      6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。                      7. 社外委員会に会社代表として参加した。                      8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。                      2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。                      3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p><b>②法律</b>                      1. コンテンツ開発業務に必要な知的財産関連法律(例:著作権法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。                      2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>③実務</b>                      1. コンテンツ開発に関する実務の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類のないケースにも応用／展開することができる。                      2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>④技術</b>                      コンテンツ開発関連業務に必要な技術(例:デジタル著作権管理技術)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b>                      外国語(例:英語)の情報(例:コンテンツ)を正しく(例:80%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者(例:プロデューサー／弁護士／公認会計士)の説明を正しく理解することができる。                      2. 関係者(例:プロデューサー／弁護士／公認会計士)と連携し、協働できる。                      3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 知的創造(2. 2. 2) C.コンテンツ開発

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <p>1. 知的財産戦略・コンテンツ開発戦略に沿って、自己の制作担当分野に関する他者の権利(例:著作権、肖像権、プライバシー権、パブリシティ権、特許権等)の侵害を回避するコンテンツ開発の企画／実施／評価を成功裡に行った。</p> <p>2. 自社の知的財産戦略・コンテンツ開発戦略に従って高品質なコンテンツ開発を積極的に推進した。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された。〔必須〕</p> <p>2. 成果が最終的には株主に参照されるに至った。</p> <p>3. 主力コンテンツ／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕</p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 社内講師を担当した。</p> <p>4. 社内委員会を主導した。</p> <p>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</p> <p>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <p>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>②法律</b></p> <p>1. コンテンツ開発業務に必要な知的財産関連法律(例:著作権法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>③実務</b></p> <p>1. コンテンツ開発に関する実務の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</p> <p><b>④技術</b> コンテンツ開発関連業務に必要な技術(例:デジタル著作権管理技術)の専門的又は広範かつ統合的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:コンテンツ)を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <p>1. 関係者(例:プロデューサー／弁護士／公認会計士)の説明を正しく理解することができる。</p> <p>2. 関係者(例:プロデューサー／弁護士／公認会計士)と連携し、協働できる。</p> <p>3. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 創造支援(2. 2. 3) A.ブランド創出支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ネーミング手順を示す関連部門向けガイドラインの企画/作成を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って関連部門(例:ネーミングを行う部門等)に密着し、商標の選定の適切な実施/評価を行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略の現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>関連部門(例:ネーミングを行う部門等)に対して適切な先行商標情報を提供し、商標選定活動を後方から支援した。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って、商標出願するか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。</li> <li>先行資料調査のために対象となるネーミングの調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、期限内に結果報告を行った(反復性を要する)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. ブランド創出支援業務に必要な知的財産関連法律(例:国内外の商標法、不正競争防止法等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. ブランド創出支援に関する実務(例:商標データベース、審査基準、ネーミング手法)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる(例:ネーミングに含まれる外国語の適切性等)。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:ネーミングを行う部門)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:ネーミングを行う部門)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:ネーミングを行う部門)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>
	レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ネーミング手順を示す関連部門向けガイドラインの企画/作成を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って関連部門(例:ネーミングを行う部門等)に密着し、商標の選定の適切な実施/評価を行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略の現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>関連部門(例:ネーミングを行う部門等)に対して適切な先行商標情報を提供し、商標選定活動を後方から支援した。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って、商標出願するか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。</li> <li>先行資料調査のために対象となるネーミングの調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、期限内に結果報告を行った(反復性を要する)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>

知財スキル標準ver.1.0

## 創造支援(2. 2. 3) A.ブランド創出支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ネーミング手順を示す関連部門向けガイドラインの企画/作成を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って関連部門(例:ネーミングを行う部門等)に密着し、商標の選定の適切な実施/評価を行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略の現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>関連部門(例:ネーミングを行う部門等)に対して適切な先行商標情報を提供し、商標選定活動を後方から支援した。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って、商標出願するか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。</li> <li>先行資料調査のために対象となるネーミングの調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、期限内に結果報告を行った(反復性を要する)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. ブランド創出支援業務に必要な知的財産関連法律(例:国内外の商標法、不正競争防止法等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. ブランド創出支援に関する実務(例:商標データベース、審査基準、ネーミング手法)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる(例:ネーミングに含まれる外国語の適切性等)。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:ネーミングを行う部門)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:ネーミングを行う部門)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:ネーミングを行う部門)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>
	レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ネーミング手順を示す関連部門向けガイドラインの企画/作成を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って関連部門(例:ネーミングを行う部門等)に密着し、商標の選定の適切な実施/評価を行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略の現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>関連部門(例:ネーミングを行う部門等)に対して適切な先行商標情報を提供し、商標選定活動を後方から支援した。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って、商標出願するか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。</li> <li>先行資料調査のために対象となるネーミングの調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、期限内に結果報告を行った(反復性を要する)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>

知財スキル標準ver.1.0

## 創造支援(2. 2. 3) A.ブランド創出支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル3	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ネーミング手順を示す関連部門向けガイドラインの企画／作成を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って関連部門(例:ネーミングを行う部門等)に密着し、商標の選定の適切な実施／評価を行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略の現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>関連部門(例:ネーミングを行う部門等)に対して適切な先行商標情報を提供し、商標選定活動を後方から支援した。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って、商標出願するか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。</li> <li>先行資料調査のために対象となるネーミングの調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、期限内に結果報告を行った(反復性を要する)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果が実際に確認された(例:先行商標を発見し、それを機にネーミングを変更した)。 [必須]</li> <li>成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</li> <li>主力製品(サービス)／特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ブランド創出支援業務に必要な知的財産関連法律(例:国内外の商標法、不正競争防止法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ブランド創出支援に関する実務(例:商標データベース、審査基準、ネーミング手法)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を概ね(例:60～70%程度)理解することができる(例:ネーミングに含まれる外国語の適切性等)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:ネーミングを行う部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:ネーミングを行う部門)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:ネーミングを行う部門)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:ネーミングを行う部門)を納得させることができる。</li> <li>関係者(例:ネーミングを行う部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 創造支援(2. 2. 3) A.ブランド創出支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル4	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ネーミング手順を示す関連部門向けガイドラインの企画／作成を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って関連部門(例:ネーミングを行う部門等)に密着し、商標の選定の適切な実施／評価を行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略の現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>関連部門(例:ネーミングを行う部門等)に対して適切な先行商標情報を提供し、商標選定活動を後方から支援した。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って、商標出願するか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。</li> <li>先行資料調査のために対象となるネーミングの調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、期限内に結果報告を行った(反復性を要する)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の効果が実際に確認された(例:先行商標を発見し、それを機にネーミングを変更した)。 [必須]</li> <li>成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</li> <li>主力製品(サービス)／特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ブランド創出支援業務に必要な知的財産関連法律(例:国内外の商標法、不正競争防止法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ブランド創出支援に関する実務(例:商標データベース、審査基準、ネーミング手法)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を正しく(例:80%程度)理解することができる(例:ネーミングに含まれる外国語の適切性等)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:ネーミングを行う部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:ネーミングを行う部門)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:ネーミングを行う部門)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:ネーミングを行う部門)を納得させることができる。</li> <li>関係者(例:ネーミングを行う部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 創造支援(2. 2. 3) A.ブランド創出支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ネーミング手順を示す関連部門向けガイドラインの企画／作成を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って関連部門(例:ネーミングを行う部門等)に密着し、商標の選定の適切な実施／評価を行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略の現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>関連部門(例:ネーミングを行う部門等)に対して適切な先行商標情報を提供し、商標選定活動を後方から支援した。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って、商標出願するか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。</li> <li>先行資料調査のために対象となるネーミングの調査内容及び範囲を適確に把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、期限内に結果報告を行った(反復性を要する)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:先行商標を発見し、それを機にネーミングを変更した)。<b>[必須]</b></li> <li>成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</li> <li>主力製品(サービス)／特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ブランド創出支援業務に必要な知的財産関連法律(例:国内外の商標法、不正競争防止法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ブランド創出支援に関する実務(例:商標データベース、審査基準、ネーミング手法)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解することができる(例:ネーミングに含まれる外国語の適切性等)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:ネーミングを行う部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:ネーミングを行う部門)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:ネーミングを行う部門)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:ネーミングを行う部門)を納得させることができる。</li> <li>関係者(例:ネーミングを行う部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
	<p>レベル</p> <p>5</p>	

## 創造支援(2. 2. 3) B.発明支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特定の研究・開発テーマについて、特許出願戦略(例:特定分野における特許群の形成方針、ノウハウ保護戦略)の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 特許出願戦略に従って、技術部門に密着して必要な発明の発掘(創出を含む)の企画/実施(発明者の確定作業も含む)/評価を成功裡に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 特許出願戦略に従って、事業が複雑な発明発掘(創出を含む)/抽出会議(例:コア技術の明確化と周辺技術の顕在化)を行った。</li> <li>4. 特許出願戦略に対する現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>5. 研究・開発部門に対して特定の研究テーマに沿った適切な先行技術情報を提供し、研究・開発活動を後方から支援した。</li> <li>6. 特許出願戦略に従って、発明を営業秘密として管理するか否か/出願するか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発明支援業務に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法、独占禁止法)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発明支援に関する実務(例:審査基準、営業秘密、ポートフォリオ、創造技法)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している(例:他社明細書の造語による上位概念クレームも理解できる)。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 発明支援関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端技術・学術文献・学会動向、他社特許)の初歩的な事項を理解することができる(例:担当分野においては発明者と対等に議論ができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語の情報(外国語データベースを含む)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:発明部門)から円滑に情報収集ができる(例:発明者の意図を引き出せる)。</li> <li>2. 関係者(例:発明部門)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:発明部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 創造支援(2. 2. 3) B.発明支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特定の研究・開発テーマについて、特許出願戦略(例:特定分野における特許群の形成方針、ノウハウ保護戦略)の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 特許出願戦略に従って、技術部門に密着して必要な発明の発掘(創出を含む)の企画/実施(発明者の確定作業も含む)/評価を成功裡に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 特許出願戦略に従って、事業が複雑な発明発掘(創出を含む)/抽出会議(例:コア技術の明確化と周辺技術の顕在化)を行った。</li> <li>4. 特許出願戦略に対する現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>5. 研究・開発部門に対して特定の研究テーマに沿った適切な先行技術情報を提供し、研究・開発活動を後方から支援した。</li> <li>6. 特許出願戦略に従って、発明を営業秘密として管理するか否か/出願するか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発明支援業務に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法、独占禁止法)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発明支援に関する実務(例:審査基準、営業秘密、ポートフォリオ、創造技法)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している(例:他社明細書の造語による上位概念クレームも理解できる)。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 発明支援関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端技術・学術文献・学会動向、他社特許)の基本的な事項を理解することができる(例:担当分野においては発明者と対等に議論ができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語の情報(外国語データベースを含む)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:発明部門)から円滑に情報収集ができる(例:発明者の意図を引き出せる)。</li> <li>2. 関係者(例:発明部門)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:発明部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 創造支援(2. 2. 3) B.発明支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自律的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特定の研究・開発テーマについて、特許出願戦略(例:特定分野における特許群の形成方針、ノウハウ保護戦略)の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 特許出願戦略に従って、技術部門に密着して必要な発明の発掘(創出を含む)の企画／実施(発明者の確定作業も含む)／評価を成功裡に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 特許出願戦略に従って、事業が複雑な発明発掘(創出を含む)／抽出会議(例:コア技術の明確化と周辺技術の顕在化)を行った。</li> <li>4. 特許出願戦略に対する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>5. 研究・開発部門に対して特定の研究テーマに沿った適切な先行技術情報を提供し、研究・開発活動を後方から支援した。</li> <li>6. 特許出願戦略に従って、発明を営業秘密として管理するか否か／出願するか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:立案した特許出願戦略が採用され実行された、全社的に重要なプロジェクトで創造支援し、その特許群により競合他社の模倣防止やライセンス等の成果を挙げた。研究源流段階のテーマの重要性を発見し、その特許群により後に競合他社の模倣防止やライセンス等の成果を挙げた。技術動向をウォッチしそれに見合うようなクレームを形成し自社の事業成長に貢献した。)[必須]</li> <li>2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品(サービス)／特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発明支援業務に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法、独占禁止法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発明支援に関する実務(例:審査基準、営業秘密、ポートフォリオ、創造技法)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している(例:他社明細書の造語による上位概念クレームも理解できる)。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 発明支援関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端技術・学術文献・学会動向、他社特許)の専門的な事項を理解することができる(例:担当分野においては発明者と対等に議論ができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語の情報(外国語データベースを含む)を概ね(例:60～70%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:発明部門)から円滑に情報収集ができる(例:発明者の意図を引き出せる)。</li> <li>2. 関係者(例:発明部門)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:発明部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:発明部門)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:発明部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		<p>知財スキル標準 ver.1.0</p>

## 創造支援(2. 2. 3) B.発明支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特定の研究・開発テーマについて、特許出願戦略(例:特定分野における特許群の形成方針、ノウハウ保護戦略)の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 特許出願戦略に従って、技術部門に密着して必要な発明の発掘(創出を含む)の企画／実施(発明者の確定作業も含む)／評価を成功裡に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 特許出願戦略に従って、事業が複雑な発明発掘(創出を含む)／抽出会議(例:コア技術の明確化と周辺技術の顕在化)を行った。</li> <li>4. 特許出願戦略に対する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>5. 研究・開発部門に対して特定の研究テーマに沿った適切な先行技術情報を提供し、研究・開発活動を後方から支援した。</li> <li>6. 特許出願戦略に従って、発明を営業秘密として管理するか否か／出願するか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:立案した特許出願戦略が採用され実行された、全社的に重要なプロジェクトで創造支援し、その特許群により競合他社の模倣防止やライセンス等の成果を挙げた。研究源流段階のテーマの重要性を発見し、その特許群により後に競合他社の模倣防止やライセンス等の成果を挙げた。技術動向をウォッチしそれに見合うようなクレームを形成し自社の事業成長に貢献した。)[必須]</li> <li>2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品(サービス)／特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発明支援業務に必要な知的財産関連法律(例:国内外の特許法、独占禁止法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発明支援に関する実務(例:審査基準、営業秘密、ポートフォリオ、創造技法)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる(例:他社明細書の造語による上位概念クレームも理解できる)。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 発明支援関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最先端技術・学術文献・学会動向、他社特許)の専門的な事項を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる(例:担当分野においては発明者と対等に議論ができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語の情報(外国語データベースを含む)を正しく(例:80%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:発明部門)から円滑に情報収集ができる(例:発明者の意図を引き出せる)。</li> <li>2. 関係者(例:発明部門)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:発明部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:発明部門)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:発明部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		<p>知財スキル標準 ver.1.0</p>

## 創造支援(2. 2. 3) B.発明支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特定の研究・開発テーマについて、特許出願戦略(例: 特定の分野における特許群の形成方針、ノウハウ保護戦略)の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 特許出願戦略に従って、技術部門に密着して必要な発明の発掘(創出を含む)の企画／実施(発明者の確定作業も含む)／評価を成功裡に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 特許出願戦略に従って、事業が複雑な発明発掘(創出を含む)／抽出会議(例: コア技術の明確化と周辺技術の顕在化)を行った。</li> <li>4. 特許出願戦略に対する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>5. 研究・開発部門に対して特定の研究テーマに沿った適切な先行技術情報を提供し、研究・開発活動を後方から支援した。</li> <li>6. 特許出願戦略に従って、発明を営業秘密として管理するか否か／出願するか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例: 立案した特許出願戦略が採用され実行された、全社的に重要なプロジェクトで創造支援し、その特許群により競合他社の模倣防止やライセンス等の成果を挙げた、研究源流段階のテーマの重要性を発見し、その特許群により後に競合他社の模倣防止やライセンス等の成果を挙げた、技術動向をウォッチしそれに見合うようなクレームを形成し自社の事業成長に貢献した)。(必須)</li> <li>2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品(サービス)／特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例: レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。(必須)</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例: 大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発明支援業務に必要な知的財産関連法律(例: 国内外の特許法、独占禁止法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例: 専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例: 専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発明支援に関する実務(例: 審査基準、営業秘密、ポートフォリオ、創造技法)の高度に専門的な事項(例: 実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例: 専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例: 他社明細書の造語による上位概念クレームも理解できる)。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 発明支援関連業務に必要な技術(例: 担当技術分野の最先端技術・学術文献・学会動向、他社特許)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例: 担当分野においては発明者と対等に議論ができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語の情報(外国語データベースを含む)を正しくかつ迅速に(例: 90%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例: 発明部門)から円滑に情報収集ができる(例: 発明者の意図を引き出せる)。</li> <li>2. 関係者(例: 発明部門)の説明(例: 調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例: 発明部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例: 専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例: 発明部門)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例: 発明部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

## 創造支援(2. 2. 3) C.コンテンツ創造支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ開発戦略に従って、制作部門(制作者)と協働して高品質なコンテンツの企画/制作を行った。</li> <li>2. コンテンツ開発戦略に対する現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>3. コンテンツ制作部門(制作者)からの問合せに対して、適確な回答/助言(例: マルチ展開の方法)を行った。</li> <li>4. コンテンツ開発戦略に従って、特定のコンテンツを利用するか否かの適切な判定を行った。</li> <li>5. 著作権管理事業者が公表しているデータベース等を利用して、権利処理が必要なコンテンツ(例: 二次的著作物)の抽出を行った(反復性を要する)。</li> <li>6. 著作権管理事業者の管理していない著作権及び肖像権・パブリシティ権について、権利処理(例: 使用許諾)が必要な範囲を適切に判断した(例: 許諾先となる芸能プロダクションの特定)。</li> <li>7. 権利譲受対価・ライセンス対価の算定を行い、他者へ適切な説明(例: 算定が原価レベルであるかしきい値であるか等)を行った。</li> <li>8. 権利譲受対価・ライセンス対価の評価についての企画/基準作成/評価を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ創造支援業務に必要な知的財産関連法律(例: 著作権、肖像権、パブリシティ権)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例: 入門書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ創造支援に関する実務(例: 権利者団体との交渉窓口、著作権管理事業者が公表しているデータベース、対価算定)の初歩的な事項(例: 特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例: 英語)の情報を最低限の範囲で(例: 50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例: 制作現場)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例: 制作現場)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例: 制作現場)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例: 専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを自立的に、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ開発戦略に従って、制作部門(制作者)と協働して高品質なコンテンツの企画/制作を行った。</li> <li>2. コンテンツ開発戦略に対する現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>3. コンテンツ制作部門(制作者)からの問合せに対して、適確な回答/助言(例: マルチ展開の方法)を行った。</li> <li>4. コンテンツ開発戦略に従って、特定のコンテンツを利用するか否かの適切な判定を行った。</li> <li>5. 著作権管理事業者が公表しているデータベース等を利用して、権利処理が必要なコンテンツ(例: 二次的著作物)の抽出を行った(反復性を要する)。</li> <li>6. 著作権管理事業者の管理していない著作権及び肖像権・パブリシティ権について、権利処理(例: 使用許諾)が必要な範囲を適切に判断した(例: 許諾先となる芸能プロダクションの特定)。</li> <li>7. 権利譲受対価・ライセンス対価の算定を行い、他者へ適切な説明(例: 算定が原価レベルであるかしきい値であるか等)を行った。</li> <li>8. 権利譲受対価・ライセンス対価の評価についての企画/基準作成/評価を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例: レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>

知財スキル標準ver.1.0

## 創造支援(2. 2. 3) C.コンテンツ創造支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを自立的に、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ開発戦略に従って、制作部門(制作者)と協働して高品質なコンテンツの企画/制作を行った。</li> <li>2. コンテンツ開発戦略に対する現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>3. コンテンツ制作部門(制作者)からの問合せに対して、適確な回答/助言(例: マルチ展開の方法)を行った。</li> <li>4. コンテンツ開発戦略に従って、特定のコンテンツを利用するか否かの適切な判定を行った。</li> <li>5. 著作権管理事業者が公表しているデータベース等を利用して、権利処理が必要なコンテンツ(例: 二次的著作物)の抽出を行った(反復性を要する)。</li> <li>6. 著作権管理事業者の管理していない著作権及び肖像権・パブリシティ権について、権利処理(例: 使用許諾)が必要な範囲を適切に判断した(例: 許諾先となる芸能プロダクションの特定)。</li> <li>7. 権利譲受対価・ライセンス対価の算定を行い、他者へ適切な説明(例: 算定が原価レベルであるかしきい値であるか等)を行った。</li> <li>8. 権利譲受対価・ライセンス対価の評価についての企画/基準作成/評価を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例: レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <p>1. コンテンツ創造支援業務に必要な知的財産関連法律(例: 著作権、肖像権、パブリシティ権)・法改正情報・判例の基本的な事項(例: 基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自立的に解決できる。</p> <p><b>③実務</b></p> <p>1. コンテンツ創造支援に関する実務(例: 権利者団体との交渉窓口、著作権管理事業者が公表しているデータベース、対価算定)の基本的な事項(例: 重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自立的に解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例: 英語)の情報を最低限の範囲で(例: 50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例: 制作現場)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例: 制作現場)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例: 制作現場)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例: 専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを自立的に、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ開発戦略に従って、制作部門(制作者)と協働して高品質なコンテンツの企画/制作を行った。</li> <li>2. コンテンツ開発戦略に対する現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>3. コンテンツ制作部門(制作者)からの問合せに対して、適確な回答/助言(例: マルチ展開の方法)を行った。</li> <li>4. コンテンツ開発戦略に従って、特定のコンテンツを利用するか否かの適切な判定を行った。</li> <li>5. 著作権管理事業者が公表しているデータベース等を利用して、権利処理が必要なコンテンツ(例: 二次的著作物)の抽出を行った(反復性を要する)。</li> <li>6. 著作権管理事業者の管理していない著作権及び肖像権・パブリシティ権について、権利処理(例: 使用許諾)が必要な範囲を適切に判断した(例: 許諾先となる芸能プロダクションの特定)。</li> <li>7. 権利譲受対価・ライセンス対価の算定を行い、他者へ適切な説明(例: 算定が原価レベルであるかしきい値であるか等)を行った。</li> <li>8. 権利譲受対価・ライセンス対価の評価についての企画/基準作成/評価を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例: レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>

知財スキル標準ver.1.0

## 創造支援(2. 2. 3) C.コンテンツ創造支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ開発戦略に従って、制作部門(制作者)と協働して高品質なコンテンツの企画／制作を行った。</li> <li>2. コンテンツ開発戦略に対する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. コンテンツ制作部門(制作者)からの問合せに対して、適確な回答／助言(例:マルチ展開の方法)を行った。</li> <li>4. コンテンツ開発戦略に従って、特定のコンテンツを利用するか否かの適切な判定を行った。</li> <li>5. 著作権管理事業者が公表しているデータベース等を利用して、権利処理が必要なコンテンツ(例:二次的著作物の抽出を行った(反復性を要する))。</li> <li>6. 著作権管理事業者の管理していない著作権及び肖像権・パブリシティ権について、権利処理(例:使用許諾)が必要な範囲を適切に判断した(例:許諾先となる芸能プロダクションの特定)。</li> <li>7. 権利譲受対価・ライセンス対価の算定を行い、他者へ適切な説明(例:算定が原価レベルであるかきい値であるか等)を行った。</li> <li>8. 権利譲受対価・ライセンス対価の評価についての企画／基準作成／評価を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:権利調査を事前に行うことにより、自社コンテンツ制作の効率化に貢献できた、権利調査によって著作物の利用の範囲を広げることができた)。<small>[必須]</small></li> <li>2. 成果が最終的には株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力コンテンツについて行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ創造支援業務に必要な知的財産関連法律(例:著作権、肖像権、パブリシティ権)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ創造支援に関する実務(例:権利者団体との交渉窓口、著作権管理事業者が公表しているデータベース、対価算定)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:制作現場)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:制作現場)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:制作現場)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:制作現場)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:制作現場)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		知財スキル標準 ver.1.0

## 創造支援(2. 2. 3) C.コンテンツ創造支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ開発戦略に従って、制作部門(制作者)と協働して高品質なコンテンツの企画／制作を行った。</li> <li>2. コンテンツ開発戦略に対する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. コンテンツ制作部門(制作者)からの問合せに対して、適確な回答／助言(例:マルチ展開の方法)を行った。</li> <li>4. コンテンツ開発戦略に従って、特定のコンテンツを利用するか否かの適切な判定を行った。</li> <li>5. 著作権管理事業者が公表しているデータベース等を利用して、権利処理が必要なコンテンツ(例:二次的著作物の抽出を行った(反復性を要する))。</li> <li>6. 著作権管理事業者の管理していない著作権及び肖像権・パブリシティ権について、権利処理(例:使用許諾)が必要な範囲を適切に判断した(例:許諾先となる芸能プロダクションの特定)。</li> <li>7. 権利譲受対価・ライセンス対価の算定を行い、他者へ適切な説明(例:算定が原価レベルであるかきい値であるか等)を行った。</li> <li>8. 権利譲受対価・ライセンス対価の評価についての企画／基準作成／評価を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:権利調査を事前に行うことにより、自社コンテンツ制作の効率化に貢献できた、権利調査によって著作物の利用の範囲を広げることができた)。<small>[必須]</small></li> <li>2. 成果が最終的には株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力コンテンツについて行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<small>[必須]</small></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ創造支援業務に必要な知的財産関連法律(例:著作権、肖像権、パブリシティ権)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ創造支援に関する実務(例:権利者団体との交渉窓口、著作権管理事業者が公表しているデータベース、対価算定)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:制作現場)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:制作現場)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:制作現場)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:制作現場)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:制作現場)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		知財スキル標準 ver.1.0

## 創造支援(2. 2. 3) C.コンテンツ創造支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ開発戦略に従って、制作部門(制作者)と協働して高品質なコンテンツの企画／制作を行った。</li> <li>2. コンテンツ開発戦略に対する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. コンテンツ制作部門(制作者)からの問合せに対して、適確な回答／助言(例: マルチ展開の方法)を行った。</li> <li>4. コンテンツ開発戦略に従って、特定のコンテンツを利用するか否かの適切な判定を行った。</li> <li>5. 著作権管理事業者が公表しているデータベース等を利用して、権利処理が必要なコンテンツ(例: 二次的著作物の抽出を行った(反復性を要する))。</li> <li>6. 著作権管理事業者の管理していない著作権及び肖像権・パブリシティ権について、権利処理(例: 使用許諾が必要な範囲を適切に判断した(例: 許諾先となる芸能プロダクションの特定))。</li> <li>7. 権利譲受対価・ライセンス対価の算定を行い、他者へ適切な説明(例: 算定が原価レベルであるかしきい値であるか等)を行った。</li> <li>8. 権利譲受対価・ライセンス対価の評価についての企画／基準作成／評価を成功裡に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例: 権利調査を事前に行うことにより、自社コンテンツ制作の効率化に貢献できた、権利調査によって著作物の利用の範囲を広げることができた)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力コンテンツについて行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例: レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例: 大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ創造支援業務に必要な知的財産関連法律(例: 著作権、肖像権、パブリシティ権)・法改正情報・判例の専門的な事項(例: 専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例: 専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ創造支援に関する実務(例: 権利者団体との交渉窓口、著作権管理事業者が公表しているデータベース、対価算定)の高度に専門的な事項(例: 実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例: 専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例: 英語)の情報を正しくかつ迅速に(例: 90%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例: 制作現場)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例: 制作現場)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例: 制作現場)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例: 専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例: 制作現場)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例: 制作現場)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

## 創造支援(2. 2. 3) D.デザイン創造支援

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特定のテーマについて、意匠出願戦略(例:特定の分野における意匠群の形成方針)の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 意匠出願戦略に従って、デザイン開発部門に密着してデザイン発掘を企画/実施(創作者の確定作業も含む)/評価を成功裡に行った。</li> <li>3. 意匠出願戦略に対する現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>4. デザイン開発部門に対して特定のテーマに沿った適切な先行意匠情報を提供し、デザイン開発活動を後方から支援した。</li> <li>5. 意匠出願戦略に従って、出願をするか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。</li> <li>6. 公知例等の先行資料調査のために対象デザインの調査内容及び範囲を把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。</li> <li>7. クリアランスのために対象製品等の調査内容及び範囲を把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。</li> <li>8. 競合他社の新着公報(登録公報等)を監視した(反復性を要する)。</li> <li>9. 自社及び他社の意匠情報を収集し、作成内容及び範囲を把握し、適切な作成ツールを利用して加工し、期限内にデザインマップを作成した(反復性を要する)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デザイン創造支援業務に必要な知的財産関連法律(例:意匠権等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デザイン創造支援に関する実務(例:審査基準、意匠データベース、デザインマップ、自社/他社製品の過去のデザイン)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:開発部門)から円滑に情報収集ができる(例:創作者の意図を引き出せる)。</li> <li>2. 関係者(例:開発部門)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:開発部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 創造支援(2. 2. 3) D.デザイン創造支援

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特定のテーマについて、意匠出願戦略(例:特定の分野における意匠群の形成方針)の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 意匠出願戦略に従って、デザイン開発部門に密着してデザイン発掘を企画/実施(創作者の確定作業も含む)/評価を成功裡に行った。</li> <li>3. 意匠出願戦略に対する現状分析/改善を成功裡に行った。</li> <li>4. デザイン開発部門に対して特定のテーマに沿った適切な先行意匠情報を提供し、デザイン開発活動を後方から支援した。</li> <li>5. 意匠出願戦略に従って、出願をするか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。</li> <li>6. 公知例等の先行資料調査のために対象デザインの調査内容及び範囲を把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。</li> <li>7. クリアランスのために対象製品等の調査内容及び範囲を把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。</li> <li>8. 競合他社の新着公報(登録公報等)を監視した(反復性を要する)。</li> <li>9. 自社及び他社の意匠情報を収集し、作成内容及び範囲を把握し、適切な作成ツールを利用して加工し、期限内にデザインマップを作成した(反復性を要する)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デザイン創造支援業務に必要な知的財産関連法律(例:意匠権等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デザイン創造支援に関する実務(例:審査基準、意匠データベース、デザインマップ、自社/他社製品の過去のデザイン)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:開発部門)から円滑に情報収集ができる(例:創作者の意図を引き出せる)。</li> <li>2. 関係者(例:開発部門)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:開発部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 創造支援(2. 2. 3) D.デザイン創造支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自律的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上) 1. 特定のテーマについて、意匠出願戦略(例:特定分野における意匠群の形成方針)の立案を成功裡に行った。 2. 意匠出願戦略に従って、デザイン開発部門に密着してデザイン発掘を企画／実施(創作者の確定作業も含む)／評価を成功裡に行った。 3. 意匠出願戦略に対する現状分析／改善を成功裡に行った。 4. デザイン開発部門に対して特定のテーマに沿った適切な先行意匠情報を提供し、デザイン開発活動を後方から支援した。 5. 意匠出願戦略に従って、出願をするか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。 6. 公知例等の先行資料調査のために対象デザインの調査内容及び範囲を把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。 7. クリアランスのために対象製品等の調査内容及び範囲を把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。 8. 競合他社の新着公報(登録公報等)を監視した(反復性を要する)。 9. 自社及び他社の意匠情報を収集し、作成内容及び範囲を把握し、適切な作成ツールを利用して加工し、期限内にデザインマップを作成した(反復性を要する)。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 効果が実際に確認された(例:立案した意匠出願戦略が採用され実行された、全社的に重要なプロジェクトで創造支援し、そのデザイン群により競合他社の模倣防止やライセンス等の成果を挙げた。開発源流段階のコンセプトの重要性を発見し、その意匠群により後に競合他社の模倣防止やライセンス等の成果を挙げた。デザイン動向のウォッチからそれに見合うデザインマップを形成し自社の事業成長に貢献した)。(必須) 2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。 3. 主力製品／特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。 6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 7. 社外委員会にメンバーとして参加した。 8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。 2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. デザイン創造支援業務に必要な知的財産関連法律(例:意匠権等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>③実務</b> 1. デザイン創造支援に関する実務(例:審査基準、意匠データベース、デザインマップ、自社／他社製品の過去のデザイン)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:開発部門)から円滑に情報収集ができる(例:創作者の意図を引き出せる)。 2. 関係者(例:開発部門)の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:開発部門)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。 5. 関係者(例:開発部門)を納得させることができる。 6. 関係者(例:開発部門)から信頼される。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

## 創造支援(2. 2. 3) D.デザイン創造支援

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上) 1. 特定のテーマについて、意匠出願戦略(例:特定分野における意匠群の形成方針)の立案を成功裡に行った。 2. 意匠出願戦略に従って、デザイン開発部門に密着してデザイン発掘を企画／実施(創作者の確定作業も含む)／評価を成功裡に行った。 3. 意匠出願戦略に対する現状分析／改善を成功裡に行った。 4. デザイン開発部門に対して特定のテーマに沿った適切な先行意匠情報を提供し、デザイン開発活動を後方から支援した。 5. 意匠出願戦略に従って、出願をするか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。 6. 公知例等の先行資料調査のために対象デザインの調査内容及び範囲を把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。 7. クリアランスのために対象製品等の調査内容及び範囲を把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。 8. 競合他社の新着公報(登録公報等)を監視した(反復性を要する)。 9. 自社及び他社の意匠情報を収集し、作成内容及び範囲を把握し、適切な作成ツールを利用して加工し、期限内にデザインマップを作成した(反復性を要する)。</p> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 複数の効果が実際に確認された(例:立案した意匠出願戦略が採用され実行された、全社的に重要なプロジェクトで創造支援し、そのデザイン群により競合他社の模倣防止やライセンス等の成果を挙げた。開発源流段階のコンセプトの重要性を発見し、その意匠群により後に競合他社の模倣防止やライセンス等の成果を挙げた。デザイン動向のウォッチからそれに見合うデザインマップを形成し自社の事業成長に貢献した)。(必須) 2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。 3. 主力製品／特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。(必須) 2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。 3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会を主導した。 6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 7. 社外委員会に会社代表として参加した。 8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。 2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。 3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p><b>②法律</b> 1. デザイン創造支援業務に必要な知的財産関連法律(例:意匠権等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>③実務</b> 1. デザイン創造支援に関する実務(例:審査基準、意匠データベース、デザインマップ、自社／他社製品の過去のデザイン)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。 2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:開発部門)から円滑に情報収集ができる(例:創作者の意図を引き出せる)。 2. 関係者(例:開発部門)の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:開発部門)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。 5. 関係者(例:開発部門)を納得させることができる。 6. 関係者(例:開発部門)から信頼される。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

## 創造支援(2. 2. 3) D.デザイン創造支援

	業績評価指標		業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特定のテーマについて、意匠出願戦略(例:特定分野における意匠群の形成方針)の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 意匠出願戦略に従って、デザイン開発部門に密着してデザイン発掘を企画／実施(創作者の確定作業も含む)／評価を成功裡に行った。</li> <li>3. 意匠出願戦略に対する現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>4. デザイン開発部門に対して特定のテーマに沿った適切な先行意匠情報を提供し、デザイン開発活動を後方から支援した。</li> <li>5. 意匠出願戦略に従って、出願をするか否かの適切な判定を行った(反復性を要する)。</li> <li>6. 公知例等の先行資料調査のために対象デザインの調査内容及び範囲を把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。</li> <li>7. クリアランスのために対象製品等の調査内容及び範囲を把握し、適切な調査手法を採用し、適切な調査判断をして、結果を期限内にまとめて報告した(反復性を要する)。</li> <li>8. 競合他社の新着公報(登録公報等)を監視した(反復性を要する)。</li> <li>9. 自社及び他社の意匠情報を収集し、作成内容及び範囲を把握し、適切な作成ツールを利用して加工し、期限内にデザインマップを作成した(反復性を要する)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:立案した意匠出願戦略が採用され実行された、全社的に重要なプロジェクトで創造支援し、そのデザイン群により競合他社の模倣防止やライセンス等の成果を挙げた、開発源段階のコンセプトの重要性を発見し、その意匠群により後に競合他社の模倣防止やライセンス等の成果を挙げた、デザイン動向のウォッチからそれに見合うデザインマップを形成し自社の事業成長に貢献した)。(必須)</li> <li>2. 成果が最終的には経営層に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。(必須)</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デザイン創造支援業務に必要な知的財産関連法律(例:意匠権等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デザイン創造支援に関する実務(例:審査基準、意匠データベース、デザインマップ、自社／他社製品の過去のデザイン)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:開発部門)から円滑に情報収集ができる(例:創作者の意図を引き出せる)。</li> <li>2. 関係者(例:開発部門)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:開発部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:開発部門)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:開発部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>		

知財スキル標準ver.1.0

## 委託・共同研究(2. 2. 4) A.研究・開発委託

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル 1	
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事業戦略・研究開発戦略に沿って、研究/開発/制作に関して委託契約の条件(例:委託先既保有技術の確認、委託成果の取り扱い)の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>委託先との債務不履行/契約条項の解釈をめぐるトラブル(例:進捗が思わしくない)について、委託先と調整を行い、解決に導いた(例:実現可能なスケジュールに修正)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>研究・開発委託業務に必要な法律・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>研究・開発委託に関する実務(例:研究・開発関連の契約書)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 研究・開発委託関連業務に必要な技術(例:委託テーマの技術内容)の初歩的な事項を理解することができる(例:先行技術と自己の発明の共通点・相違点を明確化できる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国機関の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:委託先)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:委託先)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:委託先)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 委託・共同研究(2. 2. 4) A.研究・開発委託

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル 2	
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事業戦略・研究開発戦略に沿って、研究/開発/制作に関して委託契約の条件(例:委託先既保有技術の確認、委託成果の取り扱い)の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>委託先との債務不履行/契約条項の解釈をめぐるトラブル(例:進捗が思わしくない)について、委託先と調整を行い、解決に導いた(例:実現可能なスケジュールに修正)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</li> <li>担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>研究・開発委託業務に必要な法律・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>研究・開発委託に関する実務(例:研究・開発関連の契約書)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 研究・開発委託関連業務に必要な技術(例:委託テーマの技術内容)の基本的な事項を理解することができる(例:先行技術と自己の発明の共通点・相違点を明確化できる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国機関の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思(例:委託内容、進捗管理、成果の確認、評価結果)を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:委託先)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:委託先)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:委託先)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0



## 委託・共同研究(2. 2. 4) A.研究・開発委託

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">レベル</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5</p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究・開発委託業務に必要な法律・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究・開発委託に関する実務(例:研究・開発関連の契約書)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p>研究・開発委託関連業務に必要な技術(例:委託テーマの技術内容)の専門的又は広範かつ統合的な事項を理解することができる(例:先行技術と自己の発明の共通点・相違点を明確化できる)。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p>対象案件が外国機関の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思(例:委託内容、進捗管理、成果の確認、評価結果)を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:委託先)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:委託先)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:委託先)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:委託先)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b></p> <p>複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b></p> <p>総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b></p> <p>以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業戦略・研究開発戦略に沿って、研究／開発／制作に関して委託契約の条件(例:委託先既保有技術の確認、委託成果の取り扱い)の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>2. 委託先との債務不履行／契約条項の解釈をめぐるトラブル(例:進捗が思わしくない)について、委託先と調整を行い、解決に導いた(例:実現可能なスケジュールに修正)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p>以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:トラブルをwin-winの観点で解決した)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b></p> <p>以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>

知財スキル標準ver.1.0

委託・共同研究(2. 2. 4) B.共同研究

		業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	以下の条件の実績と経験を有する。	以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)	
	<p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事業戦略・研究開発戦略に沿って、共同研究契約の条件(例:相手先既保有技術の確認、研究成果の取り扱い)の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>共同研究の相手先との債務不履行/契約条項の解釈をめぐるトラブル(例:進捗が思わしくない)について、相手先と調整し、解決に導いた(例:実現可能なスケジュールに修正)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>共同研究業務に必要な法律・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>共同研究に関する実務(例:共同研究契約書)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 共同研究関連業務に必要な技術(例:共同研究テーマの技術内容)の初歩的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国機関の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:共同研究先)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:共同研究先)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:共同研究先)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

委託・共同研究(2. 2. 4) B.共同研究

		業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	以下の条件の実績と経験を有する。	以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)	
	<p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事業戦略・研究開発戦略に沿って、共同研究契約の条件(例:相手先既保有技術の確認、研究成果の取り扱い)の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>共同研究の相手先との債務不履行/契約条項の解釈をめぐるトラブル(例:進捗が思わしくない)について、相手先と調整し、解決に導いた(例:実現可能なスケジュールに修正)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>共同研究業務に必要な法律・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>共同研究に関する実務(例:共同研究契約書)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 共同研究関連業務に必要な技術(例:共同研究テーマの技術内容)の基本的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国機関の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思(例:委託内容、進捗管理、成果の確認、評価結果)を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:共同研究先)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:共同研究先)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:共同研究先)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

委託・共同研究(2. 2. 4) B.共同研究

業績評価指標		業務遂行能力評価指標	
レベル3	以下の条件の実績と経験を有する。 <b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応	以下の条件の能力を有する。(⑤は任意) <b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。 2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。	
	<b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上) 1. 事業戦略・研究開発戦略に沿って、共同研究契約の条件(例:相手先既保有技術の確認、研究成果の取り扱い)の交渉を行い、合意に至った。 2. 共同研究の相手先との債務不履行／契約条項の解釈をめぐるトラブル(例:進捗が思わしくない)について、相手先と調整し、解決に導いた(例:実現可能なスケジュールに修正)。	<b>②法律</b> 1. 共同研究業務に必要な法律・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。	
	<b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 効果が実際に確認された(例:トラブルをwin-winの観点で解決した)。 <b>[必須]</b> 2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。 3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。	<b>③実務</b> 1. 共同研究に関する実務(例:共同研究契約書)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。	
	<b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。 6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 7. 社外委員会にメンバーとして参加した。 8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。	<b>④技術</b> 共同研究関連業務に必要な技術(例:共同研究テーマの技術内容)の専門的な事項を理解することができる。	
	<b>⑤その他</b>	<b>⑤語学</b> 対象案件が外国機関の場合において、外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思(例:委託内容、進捗管理、成果の確認、評価結果)を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。	
		<b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:共同研究先)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:共同研究先)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:共同研究先)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。 5. 関係者(例:共同研究先)を納得させることができる。	
		<b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。	

知財スキル標準ver.1.0

委託・共同研究(2. 2. 4) B.共同研究

業績評価指標		業務遂行能力評価指標	
レベル4	以下の条件の実績と経験を有する。 <b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応	以下の条件の能力を有する。(⑤は任意) <b>①事業</b> 1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。 2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。 3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。	
	<b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上) 1. 事業戦略・研究開発戦略に沿って、共同研究契約の条件(例:相手先既保有技術の確認、研究成果の取り扱い)の交渉を行い、合意に至った。 2. 共同研究の相手先との債務不履行／契約条項の解釈をめぐるトラブル(例:進捗が思わしくない)について、相手先と調整し、解決に導いた(例:実現可能なスケジュールに修正)。	<b>②法律</b> 1. 共同研究業務に必要な法律・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。	
	<b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 複数の効果が実際に確認された(例:トラブルをwin-winの観点で解決した)。 <b>[必須]</b> 2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。 3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。	<b>③実務</b> 1. 共同研究に関する実務(例:共同研究契約書)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。 2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。	
	<b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。 <b>[必須]</b> 2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。 3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会を主導した。 6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 7. 社外委員会に会社代表として参加した。 8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。	<b>④技術</b> 共同研究関連業務に必要な技術(例:共同研究テーマの技術内容)の専門的な事項を理解することができる。	
	<b>⑤その他</b>	<b>⑤語学</b> 対象案件が外国機関の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思(例:委託内容、進捗管理、成果の確認、評価結果)を正しく(例:80%程度)伝達することができる。	
		<b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:共同研究先)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:共同研究先)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:共同研究先)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。 5. 関係者(例:共同研究先)を納得させることができる。	
		<b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。	

知財スキル標準ver.1.0

## 委託・共同研究(2. 2. 4) B.共同研究

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事業戦略・研究開発戦略に沿って、共同研究契約の条件(例:相手先既保有技術の確認、研究成果の取り扱い)の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>共同研究の相手先との債務不履行／契約条項の解釈をめぐるトラブル(例:進捗が思わしくない)について、相手先と調整し、解決に導いた(例:実現可能なスケジュールに修正)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:トラブルをwin-winの観点で解決した)。(必須)</li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。(必須)</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>共同研究業務に必要な法律・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>共同研究に関する実務(例:共同研究契約書)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 共同研究関連業務に必要な技術(例:共同研究テーマの技術内容)の専門的又は広範かつ統合的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国機関の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思(例:委託内容、進捗管理、成果の確認、評価結果)を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:共同研究先)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:共同研究先)の説明(例:調査のポイント)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:共同研究先)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:共同研究先)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## ブランド保護(2. 2. 5) A.商標権利化

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>商標出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に沿った商標出願書類を起案/作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>特許庁からの要求に対し、ブランド戦略・商標出願戦略に沿った対応書類(意見書/手続補正書/手続補完書)の起案/作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に沿った分割(変更)出願の書類の起案/作成を適切に行った。</li> <li>各種制度(例:早期審査制度)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って対応が困難な拒絶査定不服審判請求を追求した。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って対応が困難な審決取消訴訟を遂行した。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って事案が複雑な外国出願書類を起案/作成し、権利を取得した(反復性を要する)。</li> <li>事案が複雑な案件について審査官と面接し、ブランド戦略・商標出願戦略に沿った主張を行い納得を得た。</li> <li>上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>商標権利化業務に必要な法律(例:国内外の知的財産法・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している)。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>商標権利化に関する実務(例:先行商標調査手法、審査基準、出願書類作成方法、中間処理、審判手続)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国商標の場合において、外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:ネーミング部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:ネーミング部門、審査官)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:ネーミング部門、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		<p>レベル1</p>

知財スキル標準 ver.1.0

## ブランド保護(2. 2. 5) A.商標権利化

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>商標出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に沿った商標出願書類を起案/作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>特許庁からの要求に対し、ブランド戦略・商標出願戦略に沿った対応書類(意見書/手続補正書/手続補完書)の起案/作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に沿った分割(変更)出願の書類の起案/作成を適切に行った。</li> <li>各種制度(例:早期審査制度)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って対応が困難な拒絶査定不服審判請求を追求した。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って対応が困難な審決取消訴訟を遂行した。</li> <li>ブランド戦略・商標出願戦略に従って事案が複雑な外国出願書類を起案/作成し、権利を取得した(反復性を要する)。</li> <li>事案が複雑な案件について審査官と面接し、ブランド戦略・商標出願戦略に沿った主張を行い納得を得た。</li> <li>上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</li> <li>担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>商標権利化業務に必要な法律(例:国内外の知的財産法・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している)。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>商標権利化に関する実務(例:先行商標調査手法、審査基準、出願書類作成方法、中間処理、審判手続)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国商標の場合において、外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:ネーミング部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:ネーミング部門、審査官)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:ネーミング部門、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		<p>レベル2</p>

知財スキル標準 ver.1.0

## ブランド保護(2. 2. 5) A.商標権利化

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 商標出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. ブランド戦略・商標出願戦略に沿った商標出願書類を起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 特許庁からの要求に対し、ブランド戦略・商標出願戦略に沿った対応書類(意見書／手続補正書／手続補完書)の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>4. ブランド戦略・商標出願戦略に沿った分割(変更)出願の書類の起案／作成を適切に行った。</li> <li>5. 各種制度(例:早期審査制度)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>6. ブランド戦略・商標出願戦略に従って対応が困難な拒絶査定不服審判請求を追求した。</li> <li>7. ブランド戦略・商標出願戦略に従って対応が困難な審決取消訴訟を遂行した。</li> <li>8. ブランド戦略・商標出願戦略に従って事案が複雑な外国出願書類を起案／作成し、権利を取得した(反復性を要する)。</li> <li>9. 事案が複雑な案件について審査官と面接し、ブランド戦略・商標出願戦略に沿った主張を行い納得を得た。</li> <li>10. 上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:困難な案件の権利化に成功した、意見書／不服審判請求の成功率が高い(例:60%以上))。[必須]</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品(サービス)/重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 商標権利化業務に必要な法律(例:国内外の知的財産法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 商標権利化に関する実務(例:先行商標調査手法、審査基準、出願書類作成方法、中間処理、審判手続)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している(例:類否判断ができる)。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国商標の場合において、外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:ネーミング部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:ネーミング部門、審査官)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:ネーミング部門、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:ネーミング部門、審査官)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:ネーミング部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
	知財スキル標準ver.1.0	

## ブランド保護(2. 2. 5) A.商標権利化

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 商標出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. ブランド戦略・商標出願戦略に沿った商標出願書類を起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 特許庁からの要求に対し、ブランド戦略・商標出願戦略に沿った対応書類(意見書／手続補正書／手続補完書)の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>4. ブランド戦略・商標出願戦略に沿った分割(変更)出願の書類の起案／作成を適切に行った。</li> <li>5. 各種制度(例:早期審査制度)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>6. ブランド戦略・商標出願戦略に従って対応が困難な拒絶査定不服審判請求を追求した。</li> <li>7. ブランド戦略・商標出願戦略に従って対応が困難な審決取消訴訟を遂行した。</li> <li>8. ブランド戦略・商標出願戦略に従って事案が複雑な外国出願書類を起案／作成し、権利を取得した(反復性を要する)。</li> <li>9. 事案が複雑な案件について審査官と面接し、ブランド戦略・商標出願戦略に沿った主張を行い納得を得た。</li> <li>10. 上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:困難な案件の権利化に成功した、意見書／不服審判請求の成功率が高い(例:60%以上))。[必須]</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品(サービス)/重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 商標権利化業務に必要な法律(例:国内外の知的財産法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 商標権利化に関する実務(例:先行商標調査手法、審査基準、出願書類作成方法、中間処理、審判手続)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる(例:類否判断ができる)。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国商標の場合において、外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:ネーミング部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:ネーミング部門、審査官)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:ネーミング部門、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:ネーミング部門、審査官)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:ネーミング部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
	知財スキル標準ver.1.0	

## ブランド保護(2. 2. 5) A.商標権利化

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 商標出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. ブランド戦略・商標出願戦略に沿った商標出願書類を起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 特許庁からの要求に対し、ブランド戦略・商標出願戦略に沿った対応書類(意見書／手続補正書／手続補完書)の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>4. ブランド戦略・商標出願戦略に沿った分割(変更)出願の書類の起案／作成を適切に行った。</li> <li>5. 各種制度(例:早期審査制度)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>6. ブランド戦略・商標出願戦略に従って対応が困難な拒絶査定不服審判請求を履行した。</li> <li>7. ブランド戦略・商標出願戦略に従って対応が困難な審決取消訴訟を履行した。</li> <li>8. ブランド戦略・商標出願戦略に従って事業が複雑な外国出願書類を起案／作成し、権利を取得した(反復性を要する)。</li> <li>9. 事業が複雑な案件について審査官と面接し、ブランド戦略・商標出願戦略に沿った主張を行い納得を得た。</li> <li>10. 上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:困難な案件の権利化に成功した、意見書／不服審判請求の成功率が高い(例:60%以上))。〔必須〕</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品(サービス)／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 商標権利化業務に必要な法律(例:国内外の知的財産法)・法改正情報・判例の高度に専門的な事項(例:専門書／専門雑誌／学会論文レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 商標権利化に関する実務(例:先行商標調査手法、審査基準、出願書類作成方法、中間処理、審判手続)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例:類否判断ができる)。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国商標の場合において、外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:ネーミング部門)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:ネーミング部門、審査官)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:ネーミング部門、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:ネーミング部門、審査官)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:ネーミング部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		知財スキル標準ver.1.0

## ブランド保護(2. 2. 5) B.事務

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で反復して実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え確実に出願(書面出願/電子出願)事務を行った。</li> <li>2. 各種書類をフォーマットに従って期限内に確実に提出した。</li> <li>3. 更新管理及び手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包袋の請求/管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理を行った。</li> <li>6. 名義変更/権利移転の事務処理を確実に実行した。</li> <li>7. 代理人変更(受任、特任届)の事務処理を確実に実行した。</li> <li>8. 共願に関する更新料等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>9. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 商標事務に必要な法律(例:商標法における手続に関する規定、施行令、登録令、施行規則、様式)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 商標事務に関する実務(例:方式審査便覧、事務手続)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国商標の場合において、外国語(例:英語)の情報(例:海外代理人からのレター、外国語データベース)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる(例:コレボンができる)。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:商標担当者)の説明を正しく理解することができる。 2. 関係者(例:商標担当者、特許事務所)と連携し、協働できる。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## ブランド保護(2. 2. 5) B.事務

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回、反復して実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え確実に出願(書面出願/電子出願)事務を行った。</li> <li>2. 各種書類をフォーマットに従って期限内に確実に提出した。</li> <li>3. 更新管理及び手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包袋の請求/管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理を行った。</li> <li>6. 名義変更/権利移転の事務処理を確実に実行した。</li> <li>7. 代理人変更(受任、特任届)の事務処理を確実に実行した。</li> <li>8. 共願に関する更新料等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>9. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 商標事務に必要な法律(例:商標法における手続に関する規定、施行令、登録令、施行規則、様式)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 商標事務に関する実務(例:方式審査便覧、事務手続)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国商標の場合において、外国語(例:英語)の情報(例:海外代理人からのレター、外国語データベース)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる(例:コレボンができる)。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:商標担当者)の説明を正しく理解することができる。 2. 関係者(例:商標担当者、特許事務所)と連携し、協働できる。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0



## ブランド保護(2. 2. 5) B.事務

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策を複数回、反復して実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え確実に出願(書面出願／電子出願)事務を行った。</li> <li>2. 各種書類をフォーマットに従って期限内に確実に提出した。</li> <li>3. 更新管理及び手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包装の請求／管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理を行った。</li> <li>6. 名義変更／権利移転の事務処理を確実に実行した。</li> <li>7. 代理人変更(受任、特任届)の事務処理を確実に実行した。</li> <li>8. 共願に関する更新料等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>9. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:重大な事務処理ミスが発生させなかった)。[必須]</li> <li>2. 担当した事務処理の数が会社全体の当該事務処理総数の一定比率(例:30%)以上であった。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 商標事務に必要な法律(例:商標法における手続に関する規定、施行令、登録令、施行規則、様式)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 商標事務に関する実務(例:方式審査便覧、事務手続)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国商標の場合において、外国語(例:英語)の情報(例:海外代理人からのレター、外国語データベース)を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる(例:コレボンができる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:商標担当者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>2. 関係者(例:商標担当者、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者(例:商標担当者)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) A.国内特許権利化

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>自社の特許戦略(例:標準化戦略)に沿った明細書の起案/作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った審査請求の判断を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った意見書・補正書の起案/作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った分割(変更)出願の明細書の起案/作成を適切に行った。</li> <li>各種制度(例:国内優先権制度/関連出願連携審査)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>自社の特許戦略に従って、対応が困難な拒絶査定不服審判請求を遂行した。</li> <li>自社の特許戦略に従って、対応が困難な審決取消訴訟を遂行した。</li> <li>事案が複雑な案件について審査官と面接し、自社の特許戦略に沿った主張を行い納得を得た。</li> <li>自社の特許戦略に従って、早期権利化(例:早期審査請求、面接の活用)を行った。</li> <li>上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、戦略に基づいて権利化の要否や方針を判断できる。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許権利化業務に必要な知的財産関連法律(例:特許法の新規性・進歩性・法定期限、出願、権利化に関する法令等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許権利化に関する実務(例:審査基準、中間処理、審判手続、審査官の特徴、特許庁の方針)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 国内特許権利化関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最新技術、他社特許)の初歩的な事項を理解することができる(例:担当分野においては発明者と対等に議論ができる。担当部門の主な商品に採用されている技術の動作・原理を説明できる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:発明者)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者、審査官)の説明(例:発明のポイント、審査官の見解)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:発明部門、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</li> <li>適切な日本語で発明(考案)の内容を適確に表現することができる。</li> </ol>

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) A.国内特許権利化

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>自社の特許戦略(例:標準化戦略)に沿った明細書の起案/作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った審査請求の判断を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った意見書・補正書の起案/作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った分割(変更)出願の明細書の起案/作成を適切に行った。</li> <li>各種制度(例:国内優先権制度/関連出願連携審査)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>自社の特許戦略に従って、対応が困難な拒絶査定不服審判請求を遂行した。</li> <li>自社の特許戦略に従って、対応が困難な審決取消訴訟を遂行した。</li> <li>事案が複雑な案件について審査官と面接し、自社の特許戦略に沿った主張を行い納得を得た。</li> <li>自社の特許戦略に従って、早期権利化(例:早期審査請求、面接の活用)を行った。</li> <li>上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、戦略に基づいて権利化の要否や方針を判断できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許権利化業務に必要な知的財産関連法律(例:特許法の新規性・進歩性・法定期限、出願、権利化に関する法令等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許権利化に関する実務(例:審査基準、中間処理、審判手続、審査官の特徴、特許庁の方針)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 国内特許権利化関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最新技術、他社特許)の基本的な事項を理解することができる(例:担当分野においては発明者と対等に議論ができる。担当部門の主な商品に採用されている技術の動作・原理を説明できる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:発明者)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者、審査官)の説明(例:発明のポイント、審査官の見解)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:発明部門、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</li> <li>適切な日本語で発明(考案)の内容を適確に表現することができる。</li> </ol>

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) A.国内特許権利化

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自律的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>自社の特許戦略(例:標準化戦略)に沿った明細書の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った審査請求の判断を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った意見書・補正書の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った分割(変更)出願の明細書の起案／作成を適切に行った。</li> <li>各種制度(例:国内優先権制度/関連出願連携審査)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>自社の特許戦略に従って、対応が困難な拒絶査定不服審判請求を遂行した。</li> <li>自社の特許戦略に従って、対応が困難な審決取消訴訟を遂行した。</li> <li>事業が複雑な案件について審査官と面接し、自社の特許戦略に沿った主張を行い納得を得た。</li> <li>自社の特許戦略に従って、早期権利化(例:早期審査請求、面接の活用)を行った。</li> <li>上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果が実際に確認された(例:明細書の品質が平均的に高い、困難な案件の権利化に成功した、意見書/不服審判請求の成功率が高い、戦略上重要テーマのコア発明について独占性の高い特許を取得した、少なくとも3テーマ/年以上につき、権利化戦略の立案と特許網を形成する特許(実用新案)明細書群を作成した、少なくとも1テーマ/年以上につき、戦略上必要な特許請求の範囲群の構想策定とそれらにより特許を取得するための意見書/補正書の作成/審判請求を行った)。<b>[必須]</b></li> <li>成果が最終的には経営層/株主に参照されるに至った。</li> <li>主力製品/重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った(例:知的財産戦略に沿って、特許網を構成する明細書群を作成した/特許請求の範囲群の構想策定を行った)。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル2~3)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、戦略に基づいて権利化の要否や方針を判断でき、他者に説明することができる。</li> <li>担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許権利化業務に必要な知的財産関連法律(例:特許法の新規性・進歩性・法定期限、出願、権利化に関する法令等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書/専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許権利化に関する実務(例:審査基準、中間処理、審判手続、審査官の特徴、特許庁の方針)の専門的な事項(例:実務全体の60~70%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 国内特許権利化関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最新技術、他社特許)の専門的な事項を理解することができる(例:担当分野においては発明者と対等に議論ができる。担当部門の主な商品に採用されている技術の動作・原理を説明できる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60~70%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:発明者)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者、審査官)の説明(例:発明のポイント、審査官の見解)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:発明部門、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:発明者、審査官)を納得させることができる。</li> <li>関係者(例:発明者)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</li> <li>適切な日本語で発明(考案)の内容を適確に表現することができる。</li> </ol>	
	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>自社の特許戦略(例:標準化戦略)に沿った明細書の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った審査請求の判断を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った意見書・補正書の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った分割(変更)出願の明細書の起案／作成を適切に行った。</li> <li>各種制度(例:国内優先権制度/関連出願連携審査)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>自社の特許戦略に従って、対応が困難な拒絶査定不服審判請求を遂行した。</li> <li>自社の特許戦略に従って、対応が困難な審決取消訴訟を遂行した。</li> <li>事業が複雑な案件について審査官と面接し、自社の特許戦略に沿った主張を行い納得を得た。</li> <li>自社の特許戦略に従って、早期権利化(例:早期審査請求、面接の活用)を行った。</li> <li>上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の効果が実際に確認された(例:明細書の品質が平均的に高い、困難な案件の権利化に成功した、意見書/不服審判請求の成功率が高い、戦略上重要テーマのコア発明について独占性の高い特許を取得した、少なくとも3テーマ/年以上につき、権利化戦略の立案と特許網を形成する特許(実用新案)明細書群を作成した、少なくとも1テーマ/年以上につき、戦略上必要な特許請求の範囲群の構想策定とそれらにより特許を取得するための意見書/補正書の作成/審判請求を行った)。<b>[必須]</b></li> <li>成果が最終的には経営層/株主に参照されるに至った。</li> <li>主力製品/重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った(例:知的財産戦略に沿って、特許網を構成する明細書群を作成した/特許請求の範囲群の構想策定を行った)。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル3~4)に対する育成指導/助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、戦略に基づいて権利化の要否や方針を判断でき、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許権利化業務に必要な知的財産関連法律(例:特許法の新規性・進歩性・法定期限、出願、権利化に関する法令等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書/専門雑誌レベル)を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許権利化に関する実務(例:審査基準、中間処理、審判手続、審査官の特徴、特許庁の方針)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 国内特許権利化関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最新技術、他社特許)の専門的な事項を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる(例:担当分野においては発明者と対等に議論ができる。担当部門の主な商品に採用されている技術の動作・原理を説明できる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:発明者)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者、審査官)の説明(例:発明のポイント、審査官の見解)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:発明部門、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:発明者、審査官)を納得させることができる。</li> <li>関係者(例:発明者)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</li> <li>適切な日本語で発明(考案)の内容を適確に表現することができる。</li> </ol>

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) A.国内特許権利化

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>自社の特許戦略(例:標準化戦略)に沿った明細書の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った審査請求の判断を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った意見書・補正書の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った分割(変更)出願の明細書の起案／作成を適切に行った。</li> <li>各種制度(例:国内優先権制度/関連出願連携審査)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>自社の特許戦略に従って、対応が困難な拒絶査定不服審判請求を遂行した。</li> <li>自社の特許戦略に従って、対応が困難な審決取消訴訟を遂行した。</li> <li>事業が複雑な案件について審査官と面接し、自社の特許戦略に沿った主張を行い納得を得た。</li> <li>自社の特許戦略に従って、早期権利化(例:早期審査請求、面接の活用)を行った。</li> <li>上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の効果が実際に確認された(例:明細書の品質が平均的に高い、困難な案件の権利化に成功した、意見書/不服審判請求の成功率が高い、戦略上重要テーマのコア発明について独占性の高い特許を取得した、少なくとも3テーマ/年以上につき、権利化戦略の立案と特許網を形成する特許(実用新案)明細書群を作成した、少なくとも1テーマ/年以上につき、戦略上必要な特許請求の範囲群の構想策定とそれらにより特許を取得するための意見書/補正書の作成/審判請求を行った)。<b>[必須]</b></li> <li>成果が最終的には経営層/株主に参照されるに至った。</li> <li>主力製品/重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った(例:知的財産戦略に沿って、特許網を構成する明細書群を作成した/特許請求の範囲群の構想策定を行った)。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル3~4)に対する育成指導/助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、戦略に基づいて権利化の要否や方針を判断でき、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許権利化業務に必要な知的財産関連法律(例:特許法の新規性・進歩性・法定期限、出願、権利化に関する法令等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書/専門雑誌レベル)を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許権利化に関する実務(例:審査基準、中間処理、審判手続、審査官の特徴、特許庁の方針)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 国内特許権利化関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最新技術、他社特許)の専門的な事項を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる(例:担当分野においては発明者と対等に議論ができる。担当部門の主な商品に採用されている技術の動作・原理を説明できる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:発明者)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者、審査官)の説明(例:発明のポイント、審査官の見解)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:発明部門、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:発明者、審査官)を納得させることができる。</li> <li>関係者(例:発明者)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</li> <li>適切な日本語で発明(考案)の内容を適確に表現することができる。</li> </ol>	
	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>自社の特許戦略(例:標準化戦略)に沿った明細書の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った審査請求の判断を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った意見書・補正書の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>自社の特許戦略に沿った分割(変更)出願の明細書の起案／作成を適切に行った。</li> <li>各種制度(例:国内優先権制度/関連出願連携審査)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>自社の特許戦略に従って、対応が困難な拒絶査定不服審判請求を遂行した。</li> <li>自社の特許戦略に従って、対応が困難な審決取消訴訟を遂行した。</li> <li>事業が複雑な案件について審査官と面接し、自社の特許戦略に沿った主張を行い納得を得た。</li> <li>自社の特許戦略に従って、早期権利化(例:早期審査請求、面接の活用)を行った。</li> <li>上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の効果が実際に確認された(例:明細書の品質が平均的に高い、困難な案件の権利化に成功した、意見書/不服審判請求の成功率が高い、戦略上重要テーマのコア発明について独占性の高い特許を取得した、少なくとも3テーマ/年以上につき、権利化戦略の立案と特許網を形成する特許(実用新案)明細書群を作成した、少なくとも1テーマ/年以上につき、戦略上必要な特許請求の範囲群の構想策定とそれらにより特許を取得するための意見書/補正書の作成/審判請求を行った)。<b>[必須]</b></li> <li>成果が最終的には経営層/株主に参照されるに至った。</li> <li>主力製品/重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った(例:知的財産戦略に沿って、特許網を構成する明細書群を作成した/特許請求の範囲群の構想策定を行った)。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル3~4)に対する育成指導/助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、戦略に基づいて権利化の要否や方針を判断でき、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許権利化業務に必要な知的財産関連法律(例:特許法の新規性・進歩性・法定期限、出願、権利化に関する法令等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書/専門雑誌レベル)を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内特許権利化に関する実務(例:審査基準、中間処理、審判手続、審査官の特徴、特許庁の方針)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 国内特許権利化関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最新技術、他社特許)の専門的な事項を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる(例:担当分野においては発明者と対等に議論ができる。担当部門の主な商品に採用されている技術の動作・原理を説明できる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:発明者)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者、審査官)の説明(例:発明のポイント、審査官の見解)を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:発明部門、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:発明者、審査官)を納得させることができる。</li> <li>関係者(例:発明者)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</li> <li>適切な日本語で発明(考案)の内容を適確に表現することができる。</li> </ol>

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) A.国内特許権利化

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内特許出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の特許戦略(例:標準化戦略)に沿った明細書の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 自社の特許戦略に沿った審査請求の判断を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>4. 自社の特許戦略に沿った意見書・補正書の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>5. 自社の特許戦略に沿った分割(変更)出願の明細書の起案／作成を適切に行った。</li> <li>6. 各種制度(例:国内優先権制度／関連出願連携審査)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>7. 自社の特許戦略に従って、対応が困難な拒絶査定不服審判請求を遂行した。</li> <li>8. 自社の特許戦略に従って、対応が困難な審決取消訴訟を遂行した。</li> <li>9. 事案が複雑な案件について審査官と面接し、自社の特許戦略に沿った主張を行い納得を得た。</li> <li>10. 自社の特許戦略に従って、早期権利化(例:早期審査請求、面接の活用)を行った。</li> <li>11. 上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:明細書の品質が平均的に高い、困難な案件の権利化に成功した、意見書／不服審判請求の成功率が高い、戦略上重要テーマのコア発明について独占性の高い特許を取得した、少なくとも3テーマ／年以上につき、権利化戦略の立案と特許網を形成する特許(実用新案)明細書群を作成した、少なくとも1テーマ／年以上につき、戦略上必要な特許請求の範囲群の構想策定とそれらにより特許を取得するための意見書／補正書の作成／審判請求を行った)。<small>[必須]</small></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った(例:知的財産戦略に沿って、特許網を構成する明細書群を作成した／特許請求の範囲群の構想策定を行った)。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<small>[必須]</small></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、戦略に基づいて権利化の要否や方針を判断でき、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内特許権利化業務に必要な知的財産関連法律(例:特許法の新規性・進歩性・法定期限、出願、権利化に関する法令等)・法改正情報・判例の高度に専門的な事項(例:専門書／専門雑誌／学会論文レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内特許権利化に関する実務(例:審査基準、中間処理、審判手続、審査官の特徴、特許庁の方針)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 国内特許権利化関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最新技術、他社特許)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる(例:担当分野においては発明者と対等に議論ができる。担当部門の主な商品に採用されている技術の動作・原理を説明できる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解することができる。</p>	
		<p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:発明者)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:発明者、審査官)の説明(例:発明のポイント、審査官の見解)を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:発明部門、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:発明者、審査官)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:発明者)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</li> <li>2. 適切な日本語で発明(考案)の内容を適確に表現することができる。</li> </ol>

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) B.外国特許権利化

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の特許戦略(例:標準化戦略)に沿った明細書(例:英文明細書)の起案/作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 自社の特許戦略に沿った意見書・補正書の起案/作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>4. 自社の特許戦略に沿った分割(変更)出願の明細書の起案/作成を適切に行った。</li> <li>5. 各種制度(例:パリ優先権制度/PCT出願制度/関連出願連携審査)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>6. 自社の特許戦略に従って、対応が困難な拒絶に対する不服申立手続を追求した。</li> <li>7. 自社の特許戦略に従って、対応が困難な権利化の為に訴訟を遂行した。</li> <li>8. 自社の特許戦略に従って、早期権利化を行った。</li> <li>9. 上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許権利化業務に必要な知的財産関連法律(例:米国特許法、欧州特許法)・法改正情報・判例・条約(例:パリ条約、特許協力条約)の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許権利化に関する実務(例:各国審査基準、現地代理人、出願形式、審査官の特徴、特許庁の方針)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 外国特許権利化関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最新技術、他社特許)の初歩的な事項を理解することができる(例:担当分野においては発明者と対等に議論ができる、担当部門の主な商品に採用されている技術の動作・原理を説明できる、各国で主流となっている製品の仕様が異なる場合のその技術的な相違を理解できる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語等)の情報(例:英語の特許文献、外国語データベース)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる(例:明細書の翻訳ドラフトを作成できる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:発明者、海外代理人)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:発明者、海外代理人)の説明(例:発明のポイント、海外代理人の見解)を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:発明部門、海外代理人)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) B.外国特許権利化

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の特許戦略(例:標準化戦略)に沿った明細書(例:英文明細書)の起案/作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 自社の特許戦略に沿った意見書・補正書の起案/作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>4. 自社の特許戦略に沿った分割(変更)出願の明細書の起案/作成を適切に行った。</li> <li>5. 各種制度(例:パリ優先権制度/PCT出願制度/関連出願連携審査)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>6. 自社の特許戦略に従って、対応が困難な拒絶に対する不服申立手続を追求した。</li> <li>7. 自社の特許戦略に従って、対応が困難な権利化の為に訴訟を遂行した。</li> <li>8. 自社の特許戦略に従って、早期権利化を行った。</li> <li>9. 上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許権利化業務に必要な知的財産関連法律(例:米国特許法、欧州特許法)・法改正情報・判例・条約(例:パリ条約、特許協力条約)の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許権利化に関する実務(例:各国審査基準、現地代理人、出願形式、審査官の特徴、特許庁の方針)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 外国特許権利化関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最新技術、他社特許)の基本的な事項を理解することができる(例:担当分野においては発明者と対等に議論ができる、担当部門の主な商品に採用されている技術の動作・原理を説明できる、各国で主流となっている製品の仕様が異なる場合のその技術的な相違を理解できる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語等)の情報(例:英語の特許文献、外国語データベース)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる(例:明細書の翻訳ドラフトを作成できる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:発明者、海外代理人)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:発明者、海外代理人)の説明(例:発明のポイント、海外代理人の見解)を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:発明部門、海外代理人)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) B.外国特許権利化

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の特許戦略(例:標準化戦略)に沿った明細書(例:英文明細書)の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 自社の特許戦略に沿った意見書・補正書の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>4. 自社の特許戦略に沿った分割(変更)出願の明細書の起案／作成を適切に行った。</li> <li>5. 各種制度(例:パリ優先権制度/PCT出願制度/関連出願連携審査)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>6. 自社の特許戦略に従って、対応が困難な拒絶に対する不服申立手続を履行した。</li> <li>7. 自社の特許戦略に従って、対応が困難な権利化の為に訴訟を遂行した。</li> <li>8. 自社の特許戦略に従って、早期権利化を行った。</li> <li>9. 上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:明細書の品質が平均的に高い、困難な案件の権利化に成功した。意見書/不服申立ての成功率が高い(例:60%以上))。〔必須〕</li> <li>2. 成果が最終的には経営層/株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品/重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った(例:知的財産戦略に沿って、特許網を構成する明細書群を作成した/特許請求の範囲群の構想策定を行った)。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2~3)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許権利化業務に必要な知的財産関連法律(例:米国特許法、欧州特許法)・法改正情報・判例・条約(例:パリ条約、特許協力条約)の専門的な事項(例:専門書/専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許権利化に関する実務(例:各国審査基準、現地代理人、出願形式、審査官の特徴、特許庁の方針)の専門的な事項(例:実務全体の60~70%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 外国特許権利化関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最新技術、他社特許)の専門的な事項を理解することができる(例:担当分野においては発明者と対等に議論ができる。担当部門の主な商品に採用されている技術の動作・原理を説明できる。各国で主流となっている製品の仕様が異なる場合のその技術的な相違を理解できる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語等)の情報(例:英語の特許文献、外国語データベース)を概ね(例:60~70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60~70%程度)伝達することができる(例:明細書の翻訳ドラフトを作成できる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:発明者、海外代理人)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:発明者、海外代理人)の説明(例:発明のポイント、海外代理人の見解)を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:発明部門、海外代理人)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:発明者)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:発明者)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) B.外国特許権利化

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の特許戦略(例:標準化戦略)に沿った明細書(例:英文明細書)の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 自社の特許戦略に沿った意見書・補正書の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>4. 自社の特許戦略に沿った分割(変更)出願の明細書の起案／作成を適切に行った。</li> <li>5. 各種制度(例:パリ優先権制度/PCT出願制度/関連出願連携審査)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>6. 自社の特許戦略に従って、対応が困難な拒絶に対する不服申立手続を履行した。</li> <li>7. 自社の特許戦略に従って、対応が困難な権利化の為に訴訟を遂行した。</li> <li>8. 自社の特許戦略に従って、早期権利化を行った。</li> <li>9. 上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:明細書の品質が平均的に高い、困難な案件の権利化に成功した。意見書/不服申立ての成功率が高い(例:60%以上))。〔必須〕</li> <li>2. 成果が最終的には経営層/株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品/重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った(例:知的財産戦略に沿って、特許網を構成する明細書群を作成した/特許請求の範囲群の構想策定を行った)。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3~4)に対する育成指導/助言を行った。〔必須〕</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許権利化業務に必要な知的財産関連法律(例:米国特許法、欧州特許法)・法改正情報・判例・条約(例:パリ条約、特許協力条約)の専門的な事項(例:専門書/専門雑誌レベル)を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許権利化に関する実務(例:各国審査基準、現地代理人、出願形式、審査官の特徴、特許庁の方針)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 外国特許権利化関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最新技術、他社特許)の専門的な事項を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる(例:担当分野においては発明者と対等に議論ができる。担当部門の主な商品に採用されている技術の動作・原理を説明できる。各国で主流となっている製品の仕様が異なる場合のその技術的な相違を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語等)の情報(例:英語の特許文献、外国語データベース)を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる(例:明細書の翻訳ドラフトを作成できる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:発明者、海外代理人)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:発明者、海外代理人)の説明(例:発明のポイント、海外代理人の見解)を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:発明部門、海外代理人)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:発明者)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:発明者)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) B.外国特許権利化

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の特許戦略(例:標準化戦略)に沿った明細書(例:英文明細書)の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 自社の特許戦略に沿った意見書・補正書の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>4. 自社の特許戦略に沿った分割(変更)出願の明細書の起案／作成を適切に行った。</li> <li>5. 各種制度(例:パリ優先権制度/PCT出願制度/関連出願連携審査)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>6. 自社の特許戦略に従って、対応が困難な拒絶に対する不服申立手続を追求した。</li> <li>7. 自社の特許戦略に従って、対応が困難な権利化の為に訴訟を遂行した。</li> <li>8. 自社の特許戦略に従って、早期権利化を行った。</li> <li>9. 上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:明細書の品質が平均的に高い、困難な案件の権利化に成功した、意見書/不服申立ての成功率が高い(例:60%以上))。〔必須〕</li> <li>2. 成果が最終的には経営層/株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品/重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った(例:知的財産戦略に沿って、特許網を構成する明細書群を作成した/特許請求の範囲群の構想策定を行った)。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4~5)に対する育成指導/助言を行った。〔必須〕</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許権利化業務に必要な知的財産関連法律(例:米国特許法、欧州特許法)・法改正情報・判例・条約(例:パリ条約、特許協力条約)の高度に専門的な事項(例:専門書/専門雑誌/学会論文レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許権利化に関する実務(例:各国審査基準、現地代理人、出願形式、審査官の特徴、特許庁の方針)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 外国特許権利化関連業務に必要な技術(例:担当技術分野の最新技術、他社特許)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる(例:担当分野においては発明者と対等に議論ができる、担当部門の主な商品に採用されている技術の動作・原理を説明できる、各国で主流となっている製品の仕様が異なる場合のその技術的な相違を理解し、過去に類似のないケースにも応用/展開することができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語等)の情報(例:英語の特許文献)を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる(例:明細書の翻訳ドラフトを作成できる)。外国語の文献データベースによって調査できる。</p> <p><b>⑥人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:発明者、海外代理人)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:発明者、海外代理人)の説明(例:発明のポイント、海外代理人の見解)を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:発明部門、海外代理人)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:発明者)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:発明者)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

## 技術保護(2. 2. 6) C.国内事務

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で反復して実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え確実に出願(書面出願/電子出願)事務を行った。</li> <li>2. 各種書類をフォーマットに従って期限内に確実に提出した。</li> <li>3. 年金管理及び手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包袋の請求/管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 出願に関する資料整理を確実に実行した。</li> <li>6. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理を行った。</li> <li>7. 補償金の支払/ロイヤリティの入出金を確実に実行した。</li> <li>8. 名義変更/権利移転の事務処理を確実に実行した。</li> <li>9. 代理人変更(受任, 特任届)の事務処理を確実に実行した。</li> <li>10. 共願に関する年金等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>11. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例: マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内特許事務に必要な法律(例: 特許法における手続に関する規定, 施行令, 登録令, 施行規則, 様式)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例: 入門書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内特許事務に関する実務(例: 方式審査便覧, 事務手続)の初歩的な事項(例: 特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例: 英語)の情報を最低限の範囲で(例: 50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例: 特許技術者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>2. 関係者(例: 特許技術者, 特許事務所)と連携し、協働できる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) C.国内事務

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回、反復して実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え確実に出願(書面出願/電子出願)事務を行った。</li> <li>2. 各種書類をフォーマットに従って期限内に確実に提出した。</li> <li>3. 年金管理及び手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包袋の請求/管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 出願に関する資料整理を確実に実行した。</li> <li>6. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理を行った。</li> <li>7. 補償金の支払/ロイヤリティの入出金を確実に実行した。</li> <li>8. 名義変更/権利移転の事務処理を確実に実行した。</li> <li>9. 代理人変更(受任, 特任届)の事務処理を確実に実行した。</li> <li>10. 共願に関する年金等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>11. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例: マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例: レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</li> <li>2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内特許事務に必要な法律(例: 特許法における手続に関する規定, 施行令, 登録令, 施行規則, 様式)・法改正情報・判例の基本的な事項(例: 基本書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内特許事務に関する実務(例: 方式審査便覧, 事務手続)の基本的な事項(例: 重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例: 英語)の情報を最低限の範囲で(例: 50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例: 特許技術者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>2. 関係者(例: 特許技術者, 特許事務所)と連携し、協働できる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) C.国内事務

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを自立的に反復して実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え確実に出願(書面出願／電子出願)事務を行った。</li> <li>2. 各種書類をフォーマットに従って期限内に確実に提出した。</li> <li>3. 年金管理及び手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包袋の請求／管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 出願に関する資料整理を確実に実行した。</li> <li>6. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理を行った。</li> <li>7. 補償金の支払／ロイヤリティの入出金を確実に実行した。</li> <li>8. 名義変更／権利移転の事務処理を確実に実行した。</li> <li>9. 代理人変更(受任、特任届)の事務処理を確実に実行した。</li> <li>10. 共願に関する年金等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>11. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b>                      以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:重大な事務処理ミスが発生させなかった)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 担当した事務処理の数が会社全体の当該事務処理総数の一定比率(例:30%)以上であった。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内特許事務に必要な法律(例:特許法における手続に関する規定、施行令、登録令、施行規則、様式)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内特許事務に関する実務(例:方式審査便覧、事務手続)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b>                      外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:特許技術者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>2. 関係者(例:特許技術者、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者(例:特許技術者)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) C.国内事務

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを主導的に、複数回、反復して実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え確実に出願(書面出願／電子出願)事務を行った。</li> <li>2. 各種書類をフォーマットに従って期限内に確実に提出した。</li> <li>3. 年金管理及び手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包袋の請求／管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 出願に関する資料整理を確実に実行した。</li> <li>6. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理を行った。</li> <li>7. 補償金の支払／ロイヤリティの入出金を確実に実行した。</li> <li>8. 名義変更／権利移転の事務処理を確実に実行した。</li> <li>9. 代理人変更(受任、特任届)の事務処理を確実に実行した。</li> <li>10. 共願に関する年金等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>11. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b>                      以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:重大な事務処理ミスが発生させなかった)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 担当した事務処理の数が会社全体の当該事務処理総数の一定比率(例:30%)以上であった。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内特許事務に必要な法律(例:特許法における手続に関する規定、施行令、登録令、施行規則、様式)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内特許事務に関する実務(例:方式審査便覧、事務手続)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b>                      外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:特許技術者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>2. 関係者(例:特許技術者、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者(例:特許技術者)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) C.国内事務

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策を複数回、反復して実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え確実に出願(書面出願／電子出願)事務を行った。</li> <li>2. 各種書類をフォーマットに従って期限内に確実に提出した。</li> <li>3. 年金管理及び手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包袋の請求／管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 出願に関する資料整理を確実に実行した。</li> <li>6. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理を行った。</li> <li>7. 補償金の支払／ロイヤリティの入出金を確実に実行した。</li> <li>8. 名義変更／権利移転の事務処理を確実に実行した。</li> <li>9. 代理人変更(受任, 特任届)の事務処理を確実に実行した。</li> <li>10. 共願に関する年金等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>11. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例: マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例: 重大な事務処理ミスが発生させなかった)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 担当した事務処理の数が会社全体の当該事務処理総数の一定比率(例: 30%)以上であった。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例: レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例: 大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内特許事務に必要な法律(例: 特許法における手続に関する規定, 施行令, 登録令, 施行規則, 様式)・法改正情報・判例の専門的な事項(例: 専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例: 専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内特許事務に関する実務(例: 方式審査便覧, 事務手続)の高度に専門的な事項(例: 実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例: 専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例: 英語)の情報を正しくかつ迅速に理解(例: 90%程度)することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例: 特許技術者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>2. 関係者(例: 特許技術者, 特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者(例: 特許技術者)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) D.外国事務

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で反復して実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え外国代理人に対して確実に出願事務処理を行った。</li> <li>2. 各種書類(翻訳文/優先権証明書等)を代理人の依頼に応じて確実に提出した。</li> <li>3. 年金管理/手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包袋の請求/管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 出願に関する資料整理を確実に実行した。</li> <li>6. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理(例: オフィスアクションへの応答)を行った。</li> <li>7. 補償金の支払/ロイヤリティの入出金を確実に実行した。</li> <li>8. 名義変更/権利移転の手続処理を確実に実行した。</li> <li>9. 代理人変更(受任, 特任届)の手続処理を確実に実行した。</li> <li>10. 共願に関する年金等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>11. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例: マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許事務に必要な法律(例: 特許権取得, 維持等の手続きに関する外国の関係法, 条約, 実施規則)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例: 入門書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許事務に関する実務(例: 外国特許審査便覧, 必要書類(宣誓書等), 出願料, 代理人手数料)の初歩的な事項(例: 特に重要なもののみ, 実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例: 英語)の情報(例: 海外代理人からのレター)を最低限の範囲で(例: 50%程度)理解することができる(例: コレボンができる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例: 海外代理人)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>2. 関係者(例: 海外代理人)と連携し、協働できる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準 ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) D.外国事務

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回、反復して実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え外国代理人に対して確実に出願事務処理を行った。</li> <li>2. 各種書類(翻訳文/優先権証明書等)を代理人の依頼に応じて確実に提出した。</li> <li>3. 年金管理/手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包袋の請求/管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 出願に関する資料整理を確実に実行した。</li> <li>6. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理(例: オフィスアクションへの応答)を行った。</li> <li>7. 補償金の支払/ロイヤリティの入出金を確実に実行した。</li> <li>8. 名義変更/権利移転の手続処理を確実に実行した。</li> <li>9. 代理人変更(受任, 特任届)の手続処理を確実に実行した。</li> <li>10. 共願に関する年金等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>11. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例: マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例: レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</li> <li>2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許事務に必要な法律(例: 特許権取得, 維持等の手続きに関する外国の関係法, 条約, 実施規則)・法改正情報・判例の基本的な事項(例: 基本書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許事務に関する実務(例: 外国特許審査便覧, 必要書類(宣誓書等), 出願料, 代理人手数料)の基本的な事項(例: 重要なもののみ, 実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例: 英語)の情報(例: 海外代理人からのレター)を最低限の範囲で(例: 50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例: 50%程度)伝達することができる(例: コレボンができる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例: 海外代理人)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>2. 関係者(例: 海外代理人)と連携し、協働できる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準 ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) D.外国事務

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル 3	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを自立的に反復して実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え外国代理人に対して確実に出願事務処理を行った。</li> <li>2. 各種書類(翻訳文／優先権証明書等)を代理人の依頼に応じて確実に提出した。</li> <li>3. 年金管理／手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包袋の請求／管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 出願に関する資料整理を確実に実行した。</li> <li>6. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理(例: オフィスアクションへの応答)を行った。</li> <li>7. 補償金の支払／ロイヤリティの入出金を確実に実行した。</li> <li>8. 名義変更／権利移転の事務処理を確実に実行した。</li> <li>9. 代理人変更(受任, 特任届)の事務処理を確実に実行した。</li> <li>10. 共願に関する年金等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>11. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例: マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b>                      以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例: 当該事務所経由で交渉した結果、ライセンス収入／有利な条件での和解／ロイヤリティ支払額の低減に結びついた)。[必須]</li> <li>2. 担当した事務処理の数が会社全体の当該事務処理総数の一定比率(例: 30%)以上であった。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例: レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例: 大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b>                      1. 外国特許事務に必要な法律(例: 特許権取得, 維持等の手続きに関する外国の関係法, 条約, 実施規則)・法改正情報・判例の専門的な事項(例: 専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>③実務</b>                      1. 外国特許事務に関する実務(例: 外国特許審査便覧, 必要書類(宣誓書等), 出願料, 代理人手数料)の専門的な事項(例: 実務全体の60～70%程度)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b>                      外国語(例: 英語)の情報(例: 海外代理人からのレター)を概ね(例: 60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例: 60～70%程度)伝達することができる(例: コレボンができる)。</p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者(例: 海外代理人)の説明を正しく理解することができる。</p> <p>2. 関係者(例: 海外代理人)と連携し、協働できる。</p> <p>3. 関係者(例: 海外代理人)から信頼される。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) D.外国事務

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル 4	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを主導的に、複数回、反復して実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え外国代理人に対して確実に出願事務処理を行った。</li> <li>2. 各種書類(翻訳文／優先権証明書等)を代理人の依頼に応じて確実に提出した。</li> <li>3. 年金管理／手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包袋の請求／管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 出願に関する資料整理を確実に実行した。</li> <li>6. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理(例: オフィスアクションへの応答)を行った。</li> <li>7. 補償金の支払／ロイヤリティの入出金を確実に実行した。</li> <li>8. 名義変更／権利移転の事務処理を確実に実行した。</li> <li>9. 代理人変更(受任, 特任届)の事務処理を確実に実行した。</li> <li>10. 共願に関する年金等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>11. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例: マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b>                      以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例: 当該事務所経由で交渉した結果、ライセンス収入／有利な条件での和解／ロイヤリティ支払額の低減に結びついた)。[必須]</li> <li>2. 担当事業分野全体の規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例: レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例: 大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p><b>②法律</b>                      1. 外国特許事務に必要な法律(例: 特許権取得, 維持等の手続きに関する外国の関係法, 条約, 実施規則)・法改正情報・判例の専門的な事項(例: 専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>③実務</b>                      1. 外国特許事務に関する実務(例: 外国特許審査便覧, 必要書類(宣誓書等), 出願料, 代理人手数料)の専門的な事項(例: 実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b>                      外国語(例: 英語)の情報(例: 海外代理人からのレター)を正しく(例: 80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例: 80%程度)伝達することができる(例: コレボンができる)。</p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者(例: 海外代理人)の説明を正しく理解することができる。</p> <p>2. 関係者(例: 海外代理人)と連携し、協働できる。</p> <p>3. 関係者(例: 海外代理人)から信頼される。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) D.外国事務

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策を複数回、反復して実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え外国代理人に対して確実に出願事務処理を行った。</li> <li>2. 各種書類(翻訳文／優先権証明書等)を代理人の依頼に応じて確実に提出した。</li> <li>3. 年金管理／手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包袋の請求／管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 出願に関する資料整理を確実に実行した。</li> <li>6. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理(例:オフィスアクションへの応答)を行った。</li> <li>7. 補償金の支払／ロイヤリティの入出金を確実に実行した。</li> <li>8. 名義変更／権利移転の事務処理を確実に実行した。</li> <li>9. 代理人変更(受任, 特任届)の事務処理を確実に実行した。</li> <li>10. 共願に関する年金等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>11. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:当該事務所経由で交渉した結果、ライセンス収入／有利な条件での和解／ロイヤリティ支払額の低減に結びついた)。<small>[必須]</small></li> <li>2. 全社的規模で行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<small>[必須]</small></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許事務に必要な法律(例:特許権取得, 維持等の手続きに関する外国の関係法, 条約, 実施規則)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国特許事務に関する実務(例:外国特許審査便覧, 必要書類(宣誓書等), 出願料, 代理人手数料)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例:英語)の情報(例:海外代理人からのレター)を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる(例:コレボンができる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:海外代理人)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>2. 関係者(例:海外代理人)と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者(例:海外代理人)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) E.品種登録申請

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で反復して実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社戦略に従って品種登録申請書類の起案/作成を行い、権利を取得した。</li> <li>2. 申請書類を揃え確実に申請事務を遂行した。</li> <li>3. 年金管理及び手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 自社戦略に従って農水省からの要求に対し、対応書類 (例:意見書/手続補正書)の起案/作成/提出を行い、権利を取得した。</li> <li>5. 自社戦略に従って事案が複雑な拒絶に対する不服申立を行った。</li> <li>6. 自社戦略に従って外国申請(例:欧州植物新品種保護委員会への申請)を適切に行った。</li> <li>7. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 品種登録申請業務に必要な知的財産関連法律(例:種苗法等)・法改正情報・判例・条約(例:植物新品種保護国際条約)の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 品種登録申請に関する実務(例:品種登録申請手続、種苗法における手続に関する規定等)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 品種登録申請に必要な技術(例:自社製品の植物の科・属、他社品種)の初歩的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) E.品種登録申請

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回、反復して実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社戦略に従って品種登録申請書類の起案/作成を行い、権利を取得した。</li> <li>2. 申請書類を揃え確実に申請事務を遂行した。</li> <li>3. 年金管理及び手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 自社戦略に従って農水省からの要求に対し、対応書類 (例:意見書/手続補正書)の起案/作成/提出を行い、権利を取得した。</li> <li>5. 自社戦略に従って事案が複雑な拒絶に対する不服申立を行った。</li> <li>6. 自社戦略に従って外国申請(例:欧州植物新品種保護委員会への申請)を適切に行った。</li> <li>7. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 品種登録申請業務に必要な知的財産関連法律(例:種苗法等)・法改正情報・判例・条約(例:植物新品種保護国際条約)の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 品種登録申請に関する実務(例:品種登録申請手続、種苗法における手続に関する規定等)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 品種登録申請に必要な技術(例:自社製品の植物の科・属、他社品種)の基本的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる(例:申請書類の作成ができる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) E.品種登録申請

業績評価指標		業務遂行能力評価指標	
3	以下の条件の実績と経験を有する。 <b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応	以下の条件の能力を有する。(⑤は任意) <b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。 2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。 <b>②法律</b> 1. 品種登録申請業務に必要な知的財産関連法律(例:種苗法等)・法改正情報・判例・条約(例:植物新品種保護国際条約)の専門的な事項(例:専門書/専門雑誌レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。 <b>③実務</b> 1. 品種登録申請に関する実務(例:品種登録申請手続、種苗法における手続に関する規定等)の専門的な事項(例:実務全体の60~70%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。 <b>④技術</b> 品種登録申請に必要な技術(例:自社製品の植物の科・属、他社品種)の専門的な事項を理解することができる。 <b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合、外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60~70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60~70%程度)伝達することができる(例:申請書類の作成ができる)。 <b>⑥対人</b> 1. 関係者から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。 5. 関係者を納得させることができる。 6. 関係者から信頼される。 <b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。	以下の条件の能力を有する。(⑤は任意) <b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。 2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。 <b>②法律</b> 1. 品種登録申請業務に必要な知的財産関連法律(例:種苗法等)・法改正情報・判例・条約(例:植物新品種保護国際条約)の専門的な事項(例:専門書/専門雑誌レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。 <b>③実務</b> 1. 品種登録申請に関する実務(例:品種登録申請手続、種苗法における手続に関する規定等)の専門的な事項(例:実務全体の60~70%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。 <b>④技術</b> 品種登録申請に必要な技術(例:自社製品の植物の科・属、他社品種)の専門的な事項を理解することができる。 <b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合、外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60~70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60~70%程度)伝達することができる(例:申請書類の作成ができる)。 <b>⑥対人</b> 1. 関係者から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。 5. 関係者を納得させることができる。 6. 関係者から信頼される。 <b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。
	<b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に反復して実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度30%以上) 1. 自社戦略に従って品種登録申請書類の起案/作成を行い、権利を取得した。 2. 申請書類を揃え確実に申請事務を遂行した。 3. 年金管理及び手数料の納付等を確実に実行した。 4. 自社戦略に従って農水省からの要求に対し、対応書類(例:意見書/手続補正書)の起案/作成/提出を行い、権利を取得した。 5. 自社戦略に従って事業が複雑な拒絶に対する不服申立を行った。 6. 自社戦略に従って外国申請(例:欧州植物新品種保護委員会への申請)を適切に行った。 7. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。		
	<b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績/経験を有する。 1. 効果が実際に確認された(例:困難な案件の権利化に成功した、意見書の成功率が高い(例:60%以上)、重大な事務処理ミスが発生させなかった、商品の公開や販売の時期から適切なタイミングで出願した)。 2. 結果が最終的には経営層/株主に参照されるに至った。 3. 主力商品/重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。 4. 担当した事務処理の数が会社全体の当該事務処理総数の一定比率(例:30%)以上であった。		
	<b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績/経験を有する。 1. 後輩(例:レベル2~3)に対する育成指導/助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。 6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 7. 社外委員会にメンバーとして参加した。 8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。 <b>⑤その他</b>		

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) E.品種登録申請

業績評価指標		業務遂行能力評価指標	
4	以下の条件の実績と経験を有する。 <b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応	以下の条件の能力を有する。(⑤は任意) <b>①事業</b> 1. 自己の所掌業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。 2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。 3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。 <b>②法律</b> 1. 品種登録申請業務に必要な知的財産関連法律(例:種苗法等)・法改正情報・判例・条約(例:植物新品種保護国際条約)の専門的な事項(例:専門書/専門雑誌レベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用/展開することができる。 2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。 <b>③実務</b> 1. 品種登録申請に関する実務(例:品種登録申請手続、種苗法における手続に関する規定等)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用/展開することができる。 2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。 <b>④技術</b> 品種登録申請に必要な技術(例:自社製品の植物の科・属、他社品種)の専門的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用/展開することができる。 <b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合、外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を伝達することができる(例:申請書類の作成ができる)。 <b>⑥対人</b> 1. 関係者から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。 5. 関係者を納得させることができる。 6. 関係者から信頼される。 <b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。	以下の条件の能力を有する。(⑤は任意) <b>①事業</b> 1. 自己の所掌業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。 2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。 3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。 <b>②法律</b> 1. 品種登録申請業務に必要な知的財産関連法律(例:種苗法等)・法改正情報・判例・条約(例:植物新品種保護国際条約)の専門的な事項(例:専門書/専門雑誌レベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用/展開することができる。 2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。 <b>③実務</b> 1. 品種登録申請に関する実務(例:品種登録申請手続、種苗法における手続に関する規定等)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用/展開することができる。 2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。 <b>④技術</b> 品種登録申請に必要な技術(例:自社製品の植物の科・属、他社品種)の専門的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用/展開することができる。 <b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合、外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を伝達することができる(例:申請書類の作成ができる)。 <b>⑥対人</b> 1. 関係者から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。 5. 関係者を納得させることができる。 6. 関係者から信頼される。 <b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。
	<b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回、反復して実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度40%以上) 1. 自社戦略に従って品種登録申請書類の起案/作成を行い、権利を取得した。 2. 申請書類を揃え確実に申請事務を遂行した。 3. 年金管理及び手数料の納付等を確実に実行した。 4. 自社戦略に従って農水省からの要求に対し、対応書類(例:意見書/手続補正書)の起案/作成/提出を行い、権利を取得した。 5. 自社戦略に従って事業が複雑な拒絶に対する不服申立を行った。 6. 自社戦略に従って外国申請(例:欧州植物新品種保護委員会への申請)を適切に行った。 7. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。		
	<b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績/経験を有する。 1. 複数の効果が実際に確認された(例:困難な案件の権利化に成功した、意見書の成功率が高い(例:60%以上)、重大な事務処理ミスが発生させなかった、商品の公開や販売の時期から適切なタイミングで出願した)。 2. 結果が最終的には経営層/株主に参照されるに至った。 3. 主力商品/重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。 4. 担当した事務処理の数が会社全体の当該事務処理総数の一定比率(例:30%)以上であった。		
	<b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績/経験を有する。 1. 後輩(例:レベル3~4)に対する育成指導/助言を行った。〔必須〕 2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会を主導した。 6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 7. 社外委員会に会社代表として参加した。 8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。 <b>⑤その他</b>		

知財スキル標準ver.1.0

## 技術保護(2. 2. 6) E.品種登録申請

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策を複数回、反復して実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社戦略に従って品種登録申請書類の起案／作成を行い、権利を取得した。</li> <li>2. 申請書類を揃え確実に申請事務を遂行した。</li> <li>3. 年金管理及び手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 自社戦略に従って農水省からの要求に対し、対応書類 (例:意見書／手続補正書)の起案／作成／提出を行い、権利を取得した。</li> <li>5. 自社戦略に従って事案が複雑な拒絶に対する不服申立を行った。</li> <li>6. 自社戦略に従って外国申請(例:欧州植物新品種保護委員会への申請)を適切に行った。</li> <li>7. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:困難な案件の権利化に成功した、意見書の成功率が高い(例:60%以上)、重大な事務処理ミスが発生させなかった、商品の公開や販売の時期から適切なタイミングで出願した)。</li> <li>2. 結果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力商品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> <li>4. 担当した事務処理の数が会社全体の当該事務処理総数の一定比率(例:30%)以上であった。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 品種登録申請業務に必要な知的財産関連法律(例:種苗法等)・法改正情報・判例・条約(例:植物新品種保護国際条約)の高度に専門的な事項(例:専門書／専門雑誌／学会論文レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 品種登録申請に関する実務(例:品種登録申請手続、種苗法における手続に関する規定等)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 品種登録申請に必要な技術(例:自社製品の植物の科・属、他社品種)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合、外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる(例:申請書類の作成ができる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## コンテンツ保護(2. 2. 7) A.申請

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社のコンテンツ開発戦略に従って公的機関(例:文化庁、SOFTIC)への著作権登録申請を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>2. 自社のコンテンツ開発戦略に従って著作権管理事業者(例:JASRAC)への管理申請を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 諸外国(例:米国)での自社コンテンツの保護申請を適切に行った。</li> <li>4. 著作権以外の権利(例:商標権)での著作物の保護の可能性を検討し、適切に実行した(例:アニメのタイトルの商標登録申請等)。</li> <li>5. 上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 登録申請業務に必要な知的財産関連法律(例:著作権法等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 著作権申請に関する実務(例:著作権管理事業の信託約款、国内外の著作権登録手続)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## コンテンツ保護(2. 2. 7) A.申請

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社のコンテンツ開発戦略に従って公的機関(例:文化庁、SOFTIC)への著作権登録申請を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>2. 自社のコンテンツ開発戦略に従って著作権管理事業者(例:JASRAC)への管理申請を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 諸外国(例:米国)での自社コンテンツの保護申請を適切に行った。</li> <li>4. 著作権以外の権利(例:商標権)での著作物の保護の可能性を検討し、適切に実行した(例:アニメのタイトルの商標登録申請等)。</li> <li>5. 上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 登録申請業務に必要な知的財産関連法律(例:著作権法等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 著作権申請に関する実務(例:著作権管理事業の信託約款、国内外の著作権登録手続)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## コンテンツ保護(2. 2. 7) A.申請

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件についての実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社のコンテンツ開発戦略に従って公的機関(例:文化庁、SOFTIC)への著作権登録申請を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>2. 自社のコンテンツ開発戦略に従って著作権管理事業者(例:JASRAC)への管理申請を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 諸外国(例:米国)での自社コンテンツの保護申請を適切に行った。</li> <li>4. 著作権以外の権利(例:商標権)での著作物の保護の可能性を検討し、適切に実行した(例:アニメのタイトルの商標登録申請等)。</li> <li>5. 上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:重大な事務処理ミスが発生させなかった)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 主力商品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 登録申請業務に必要な知的財産関連法律(例:著作権法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 著作権申請に関する実務(例:著作権管理事業の信託約款、国内外の著作権登録手続)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合において、外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## コンテンツ保護(2. 2. 7) A.申請

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件についての実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社のコンテンツ開発戦略に従って公的機関(例:文化庁、SOFTIC)への著作権登録申請を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>2. 自社のコンテンツ開発戦略に従って著作権管理事業者(例:JASRAC)への管理申請を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 諸外国(例:米国)での自社コンテンツの保護申請を適切に行った。</li> <li>4. 著作権以外の権利(例:商標権)での著作物の保護の可能性を検討し、適切に実行した(例:アニメのタイトルの商標登録申請等)。</li> <li>5. 上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:重大な事務処理ミスが発生させなかった)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 主力商品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 登録申請業務に必要な知的財産関連法律(例:著作権法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 著作権申請に関する実務(例:著作権管理事業の信託約款、国内外の著作権登録手続)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## コンテンツ保護(2. 2. 7) A.申請

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自社のコンテンツ開発戦略に従って公的機関(例:文化庁、SOFTIC)への著作権登録申請を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>2. 自社のコンテンツ開発戦略に従って著作権管理事業者(例:JASRAC)への管理申請を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 諸外国(例:米国)での自社コンテンツの保護申請を適切に行った。</li> <li>4. 著作権以外の権利(例:商標権)での著作物の保護の可能性を検討し、適切に実行した(例:アニメのタイトルの商標登録申請等)。</li> <li>5. 上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:重大な事務処理ミスが発生させなかった)。[必須]</li> <li>2. 主力商品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 登録申請業務に必要な知的財産関連法律(例:著作権法等)・法改正情報・判例の高度に専門的な事項(例:専門書／専門雑誌／学会論文レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 著作権申請に関する実務(例:著作権管理事業の信託約款、国内外の著作権登録手続)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
	<p>レベル</p> <p>5</p>	<p>知財スキル標準ver.1.0</p>

## コンテンツ保護(2. 2. 7) B.事務

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で反復して実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>権利処理のための契約事務(例:必要書類の作成)を確実に実行した(契約担当者と連携して作成する場合を含む)。</li> <li>公的機関(例:文化庁, SOFTIC)への著作権登録申請・著作権管理事業者への申請書類を揃え確実に申請事務を行った。</li> <li>手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>ロイヤリティ(例:音楽著作権使用料, 実演家印税, 原盤印税等)の支払を確実に実行した(例:対価の分配を行った)。</li> <li>著作権登録申請に関する資料整理を確実に実行した。</li> <li>上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンテンツ保護事務に必要な法律・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンテンツ保護事務に関する実務(例:著作権管理事業者への申請書式, ロイヤリティ対価の分配, 手数料納付)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合、外国語(例:英語)の情報(例:海外代理人からのレター)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる(例:コレポんができる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:著作権管理団体, 文化庁)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:コンテンツ開発部門, ディレクター, 法務部門)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## コンテンツ保護(2. 2. 7) B.事務

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回、反復して実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>権利処理のための契約事務(例:必要書類の作成)を確実に実行した(契約担当者と連携して作成する場合を含む)。</li> <li>公的機関(例:文化庁, SOFTIC)への著作権登録申請・著作権管理事業者への申請書類を揃え確実に申請事務を行った。</li> <li>手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>ロイヤリティ(例:音楽著作権使用料, 実演家印税, 原盤印税等)の支払を確実に実行した(例:対価の分配を行った)。</li> <li>著作権登録申請に関する資料整理を確実に実行した。</li> <li>上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンテンツ保護事務に必要な法律・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンテンツ保護事務に関する実務(例:著作権管理事業者への申請書式, ロイヤリティ対価の分配, 手数料納付)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合、外国語(例:英語)の情報(例:海外代理人からのレター)を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる(例:コレポんができる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:著作権管理団体, 文化庁)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:コンテンツ開発部門, ディレクター, 法務部門)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## コンテンツ保護(2. 2. 7) B.事務

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件についての実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)担当として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に反復して実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>権利処理のための契約事務(例:必要書類の作成)を確実に実行した(契約担当者と連携して作成する場合を含む)。</li> <li>公的機関(例:文化庁、SOFTIC)への著作権登録申請・著作権管理事業者への申請書類を揃え確実に申請事務を行った。</li> <li>手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>ロイヤリティ(例:音楽著作権使用料、実演家印税、原盤印税等)の支払を確実に実行した(例:対価の分配を行った)。</li> <li>著作権登録申請に関する資料整理を確実に実行した。</li> <li>上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果が実際に確認された(例:重大な事務処理ミスが発生させなかった)。<b>[必須]</b></li> <li>担当した事務処理の数が会社全体の当該事務処理総数の一定比率(例:30%)以上であった。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンテンツ保護事務に必要な法律・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンテンツ保護事務に関する実務(例:著作権管理事業者への申請書式、ロイヤリティ対価の分配、手数料納付)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合、外国語(例:英語)の情報(例:海外代理人からのレター)を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる(例:コレポンができる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:著作権管理団体、文化庁)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:コンテンツ開発部門、ディレクター、法務部門)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者を納得させることができる。</li> <li>関係者から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## コンテンツ保護(2. 2. 7) B.事務

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件についての実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼担当として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回、反復して実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>権利処理のための契約事務(例:必要書類の作成)を確実に実行した(契約担当者と連携して作成する場合を含む)。</li> <li>公的機関(例:文化庁、SOFTIC)への著作権登録申請・著作権管理事業者への申請書類を揃え確実に申請事務を行った。</li> <li>手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>ロイヤリティ(例:音楽著作権使用料、実演家印税、原盤印税等)の支払を確実に実行した(例:対価の分配を行った)。</li> <li>著作権登録申請に関する資料整理を確実に実行した。</li> <li>上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の効果が実際に確認された(例:重大な事務処理ミスが発生させなかった)。<b>[必須]</b></li> <li>担当した事務処理の数が会社全体の当該事務処理総数の一定比率(例:30%)以上であった。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンテンツ保護事務に必要な法律・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンテンツ保護事務に関する実務(例:著作権管理事業者への申請書式、ロイヤリティ対価の分配、手数料納付)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合、外国語(例:英語)の情報(例:海外代理人からのレター)を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる(例:コレポンができる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:著作権管理団体、文化庁)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:コンテンツ開発部門、ディレクター、法務部門)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者を納得させることができる。</li> <li>関係者から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## コンテンツ保護(2. 2. 7) B.事務

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策を複数回、反復して実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 権利処理のための契約事務(例:必要書類の作成)を確実に実行した(契約担当者と連携して作成する場合を含む)。</li> <li>2. 公的機関(例:文化庁, SOFTIC)への著作権登録申請・著作権管理事業者への申請書類を揃え確実に申請事務を行った。</li> <li>3. 手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. ロイヤリティ(例:音楽著作権使用料, 実演家印税, 原盤印税等)の支払を確実に実行した(例:対価の分配を行った)。</li> <li>5. 著作権登録申請に関する資料整理を確実に実行した。</li> <li>6. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:重大な事務処理ミスが発生させなかった)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 担当した事務処理の数が会社全体の当該事務処理総数の一定比率(例:30%)以上であった。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ保護事務に必要な法律・法改正情報・判例の高度に専門的な事項(例:専門書／専門雑誌／学会論文レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ保護事務に関する実務(例:著作権管理事業者への申請書式, ロイヤリティ対価の分配, 手数料納付)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国申請の場合、外国語(例:英語)の情報(例:海外代理人からのレター)を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる(例:コレボンができる)。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:著作権管理団体, 文化庁)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:コンテンツ開発部門, ディレクター, 法務部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## デザイン保護(2. 2. 8) A.意匠権利化

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	
46	
47	
48	
49	
50	
51	
52	
53	
54	
55	
56	
57	
58	
59	
60	
61	
62	
63	
64	
65	
66	
67	
68	
69	
70	
71	
72	
73	
74	
75	
76	
77	
78	
79	
80	
81	
82	
83	
84	
85	
86	
87	
88	
89	
90	
91	
92	
93	
94	
95	
96	
97	
98	
99	
100	
101	
102	
103	
104	
105	
106	
107	
108	
109	
110	
111	
112	
113	
114	
115	
116	
117	
118	
119	
120	
121	
122	
123	
124	
125	
126	
127	
128	
129	
130	
131	
132	
133	
134	
135	
136	
137	
138	
139	
140	
141	
142	
143	
144	
145	
146	
147	
148	
149	
150	
151	
152	
153	
154	
155	
156	
157	
158	
159	
160	
161	
162	
163	
164	
165	
166	
167	
168	
169	
170	
171	
172	
173	
174	
175	
176	
177	
178	
179	
180	
181	
182	
183	
184	
185	
186	
187	
188	
189	
190	
191	
192	
193	
194	
195	
196	
197	
198	
199	
200	
201	
202	
203	
204	
205	
206	
207	
208	
209	
210	
211	
212	
213	
214	
215	
216	
217	
218	
219	
220	
221	
222	
223	
224	
225	
226	
227	
228	
229	
230	
231	
232	
233	
234	
235	
236	
237	
238	
239	
240	
241	
242	
243	
244	
245	
246	
247	
248	
249	
250	
251	
252	
253	
254	
255	
256	
257	
258	
259	
260	
261	
262	
263	
264	
265	
266	
267	
268	
269	
270	
271	
272	
273	
274	
275	
276	
277	
278	
279	
280	
281	
282	
283	
284	
285	
286	
287	
288	
289	
290	
291	
292	
2	

## デザイン保護(2.2.8) A.意匠権利化

業績評価指標		業務遂行能力評価指標	
レベル 3	以下の条件の実績と経験を有する。 <b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応	以下の条件の能力を有する。(⑤は任意) <b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。 2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。	
	<b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上) 1. 意匠出願戦略の立案を成功裡に行った。 2. 自社のデザイン戦略に沿った出願書類の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。 3. 自社のデザイン戦略に沿った意見書・補正書の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。 4. 自社のデザイン戦略に沿った分割(変更)出願の書類の起案／作成を適切に行った。 5. 各種制度(例:部分意匠制度、関連意匠制度)の戦略的活用を適切に行った。 6. 自社のデザイン戦略に従って対応が困難な拒絶査定不服審判請求を履行した。 7. 自社のデザイン戦略に従って対応が困難な審決取消訴訟を遂行した。 8. 事案が複雑な案件について審査官と面接し、自社のデザイン戦略に沿った主張を行い納得を得た。 9. 自社のデザイン戦略に従って早期権利化(例:早期審査申請、面接の活用)を行った。 10. 上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。	<b>②法律</b> 1. 意匠権利化業務に必要な知的財産関連法律(例:意匠法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。	
	<b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 効果が実際に確認された(例:出願書類の品質が平均的に高い、困難な案件の権利化に成功した、意見書／不服審判請求の成功率が高い(例:60%以上))。〔必須〕 2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。 3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った(例:知的財産戦略に沿ってデザイン網を構成する意匠を作成した、知的財産戦略にそってデザイン群の構想策定を行った)。	<b>③実務</b> 1. 意匠権利化に関する実務(例:先行意匠調査手法、審査基準、出願書類作成方法、中間処理、審判手続)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している(例:類否判断ができる)。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。	
	<b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。 6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 7. 社外委員会にメンバーとして参加した。 8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。	<b>④技術</b>	
<b>⑤その他</b>	<b>⑤語学</b> 対象案件が外国意匠の場合において、外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。	<b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:創作者)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:創作者、審査官)の説明(例:創作のポイント、審査官の見解)を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:デザイン開発部門、特許事務所)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。 5. 関係者(例:創作者、審査官)を納得させることができる。 6. 関係者(例:創作者)から信頼される。	
		<b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。	

知財スキル標準ver.1.0

## デザイン保護(2.2.8) A.意匠権利化

業績評価指標		業務遂行能力評価指標	
レベル 4	以下の条件の実績と経験を有する。 <b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応	以下の条件の能力を有する。(⑤は任意) <b>①事業</b> 1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。 2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。 3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。	
	<b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上) 1. 意匠出願戦略の立案を成功裡に行った。 2. 自社のデザイン戦略に沿った出願書類の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。 3. 自社のデザイン戦略に沿った意見書・補正書の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。 4. 自社のデザイン戦略に沿った分割(変更)出願の書類の起案／作成を適切に行った。 5. 各種制度(例:部分意匠制度、関連意匠制度)の戦略的活用を適切に行った。 6. 自社のデザイン戦略に従って対応が困難な拒絶査定不服審判請求を履行した。 7. 自社のデザイン戦略に従って対応が困難な審決取消訴訟を遂行した。 8. 事案が複雑な案件について審査官と面接し、自社のデザイン戦略に沿った主張を行い納得を得た。 9. 自社のデザイン戦略に従って早期権利化(例:早期審査申請、面接の活用)を行った。 10. 上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。	<b>②法律</b> 1. 意匠権利化業務に必要な知的財産関連法律(例:意匠法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。 2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。	
	<b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 複数の効果が実際に確認された(例:出願書類の品質が平均的に高い、困難な案件の権利化に成功した、意見書／不服審判請求の成功率が高い(例:60%以上))。〔必須〕 2. 主力製品(将来のものを含む)について行った。重要な特定のテーマについて行った(例:知的財産戦略に沿ってデザイン網を構成する意匠を作成した、知的財産戦略にそってデザイン群の構想策定を行う)。	<b>③実務</b> 1. 意匠権利化に関する実務(例:先行意匠調査手法、審査基準、出願書類作成方法、中間処理、審判手続)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例:類否判断ができる)。 2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。	
	<b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。 1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕 2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。 3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会を主導した。 6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。 7. 社外委員会に会社代表として参加した。 8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。	<b>④技術</b>	
<b>⑤その他</b>	<b>⑤語学</b> 対象案件が外国意匠の場合において、外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。	<b>⑥対人</b> 1. 関係者(例:創作者)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例:創作者、審査官)の説明(例:創作のポイント、審査官の見解)を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:デザイン開発部門、特許事務所)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。 5. 関係者(例:創作者、審査官)を納得させることができる。 6. 関係者(例:創作者)から信頼される。	
		<b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。	

知財スキル標準ver.1.0

## デザイン保護(2. 2. 8) A.意匠権利化

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意匠出願戦略の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社のデザイン戦略に沿った出願書類の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>3. 自社のデザイン戦略に沿った意見書・補正書の起案／作成を適切に行った(反復性を要する)。</li> <li>4. 自社のデザイン戦略に沿った分割(変更)出願の書類の起案／作成を適切に行った。</li> <li>5. 各種制度(例:部分意匠制度、関連意匠制度)の戦略的活用を適切に行った。</li> <li>6. 自社のデザイン戦略に従って対応が困難な拒絶査定不服審判請求を遂行した。</li> <li>7. 自社のデザイン戦略に従って対応が困難な審決取消訴訟を遂行した。</li> <li>8. 事案が複雑な案件について審査官と面接し、自社のデザイン戦略に沿った主張を行い納得を得た。</li> <li>9. 自社のデザイン戦略に従って早期権利化(例:早期審査申請、面接の活用)を行った。</li> <li>10. 上記について、適切な弁理士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:出願書類の品質が平均的に高い、困難な案件の権利化に成功した、意見書／不服審判請求の成功率が高い(例:60%以上))。[必須]</li> <li>2. 主力製品(将来のものを含む)について行った。重要な特定のテーマについて行った(例:知的財産戦略に沿ってデザイン網を構成する意匠を作成した。知的財産戦略にそってデザイン群の構築策定を行)。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意匠権利化業務に必要な知的財産関連法律(例:意匠法等)・法改正情報・判例の高度に専門的な事項(例:専門書／専門雑誌／学会論文レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意匠権利化に関する実務(例:先行意匠調査手法、審査基準、出願書類作成方法、中間処理、審判手続)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例:類否判断ができる)。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国意匠の場合において、外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:創作者)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:創作者、審査官)の説明(例:創作のポイント、審査官の見解)を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:デザイン開発部門、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:創作者、審査官)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:創作者)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

## デザイン保護(2. 2. 8) B.事務

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で反復して実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え確実に出願(書面出願/電子出願)事務を行った。</li> <li>2. 各種書類をフォーマットに従って期限内に確実に提出した。</li> <li>3. 年金管理及び手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包袋の請求/管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理を行った。</li> <li>6. 名義変更/権利移転の事務処理を確実に実行した。</li> <li>7. 代理人変更(受任, 特任届)の事務処理を確実に実行した。</li> <li>8. 共願に関する年金等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>9. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例: マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 意匠事務に必要な法律(例: 意匠法における手続に関する規定, 施行令, 登録令, 施行規則, 様式)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例: 入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 意匠事務に関する実務(例: 方式審査便覧, 事務手続)の初歩的な事項(例: 特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国商標の場合において、外国語(例: 英語)の情報(外国語データベースを含む)を最低限の範囲で(例: 50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例: 意匠担当者)の説明を正しく理解することができる。 2. 関係者(例: 意匠担当者, 特許事務所)と連携し、協働できる。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## デザイン保護(2. 2. 8) B.事務

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回、反復して実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え確実に出願(書面出願/電子出願)事務を行った。</li> <li>2. 各種書類をフォーマットに従って期限内に確実に提出した。</li> <li>3. 年金管理及び手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包袋の請求/管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理を行った。</li> <li>6. 名義変更/権利移転の事務処理を確実に実行した。</li> <li>7. 代理人変更(受任, 特任届)の事務処理を確実に実行した。</li> <li>8. 共願に関する年金等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>9. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例: マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先輩(例: レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 意匠事務に必要な法律(例: 意匠法における手続に関する規定, 施行令, 登録令, 施行規則, 様式)・法改正情報・判例の基本的な事項(例: 基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 意匠事務に関する実務(例: 方式審査便覧, 事務手続)の基本的な事項(例: 重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国商標の場合において、外国語(例: 英語)の情報(外国語データベースを含む)を最低限の範囲で(例: 50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例: 50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例: 意匠担当者)の説明を正しく理解することができる。 2. 関係者(例: 意匠担当者, 特許事務所)と連携し、協働できる。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## デザイン保護(2.2.8) B.事務

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に反復して実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え確実に出願(書面出願／電子出願)事務を行った。</li> <li>2. 各種書類をフォーマットに従って期限内に確実に提出した。</li> <li>3. 年金管理及び手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包装の請求／管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理を行った。</li> <li>6. 名義変更／権利移転の事務処理を確実に実行した。</li> <li>7. 代理人変更(受任、特任届)の事務処理を確実に実行した。</li> <li>8. 共願に関する年金等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>9. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:重大な事務処理ミスが発生させなかった)。<small>[必須]</small></li> <li>2. 担当した事務処理の数が会社全体の当該事務処理総数の一定比率(例:30%)以上であった。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意匠事務に必要な法律(例:意匠法における手続に関する規定、施行令、登録令、施行規則、様式)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意匠事務に関する実務(例:方式審査便覧、事務手続)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国商標の場合において、外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:意匠担当者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>2. 関係者(例:意匠担当者、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者(例:意匠担当者)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## デザイン保護(2.2.8) B.事務

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回、反復して実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え確実に出願(書面出願／電子出願)事務を行った。</li> <li>2. 各種書類をフォーマットに従って期限内に確実に提出した。</li> <li>3. 年金管理及び手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包装の請求／管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理を行った。</li> <li>6. 名義変更／権利移転の事務処理を確実に実行した。</li> <li>7. 代理人変更(受任、特任届)の事務処理を確実に実行した。</li> <li>8. 共願に関する年金等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>9. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:重大な事務処理ミスが発生させなかった)。<small>[必須]</small></li> <li>2. 担当した事務処理の数が会社全体の当該事務処理総数の一定比率(例:30%)以上であった。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<small>[必須]</small></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意匠事務に必要な法律(例:意匠法における手続に関する規定、施行令、登録令、施行規則、様式)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意匠事務に関する実務(例:方式審査便覧、事務手続)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国商標の場合において、外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:意匠担当者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>2. 関係者(例:意匠担当者、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者(例:意匠担当者)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## デザイン保護(2.2.8) B.事務

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策を複数回、反復して実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出願書類を揃え確実に出願(書面出願／電子出願)事務を行った。</li> <li>2. 各種書類をフォーマットに従って期限内に確実に提出した。</li> <li>3. 年金管理及び手数料の納付等を確実に実行した。</li> <li>4. 包袋の請求／管理等の事務処理を確実に実行した。</li> <li>5. 事務所と適切な連携を取って確実に事務処理を行った。</li> <li>6. 名義変更／権利移転の事務処理を確実に実行した。</li> <li>7. 代理人変更(受任、特任届)の事務処理を確実に実行した。</li> <li>8. 共願に関する年金等の請求手続を確実に実行した。</li> <li>9. 上記について現状を分析し、適切に改善した(例:マニュアルの改訂)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいずれかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:重大な事務処理ミスが発生させなかった)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 担当した事務処理の数が会社全体の当該事務処理総数の一定比率(例:30%)以上であった。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意匠事務に必要な法律(例:意匠法における手続に関する規定、施行令、登録令、施行規則、様式)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意匠事務に関する実務(例:方式審査便覧、事務手続)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国商標の場合において、外国語(例:英語)の情報(外国語データベースを含む)を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:意匠担当者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>2. 関係者(例:意匠担当者、特許事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>3. 関係者(例:意匠担当者)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
	<p>5</p>	<p>知財スキル標準 ver.1.0</p>

## 契約(2.2.9) A.交渉

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル1	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事業戦略・知的財産戦略に従って、知的財産権のライセンスに関して複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>事業戦略・知的財産戦略に従って、知的財産権の譲渡・譲受に関して複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>事業戦略・知的財産戦略に従って、技術移転に関する複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>契約先との債務不履行/契約条項の解釈をめぐるトラブル(例: 監査を拒む等)について、契約先と調整を行い、解決に導いた。</li> <li>ライセンス先との交渉の場を設定(例: 訴訟提起して交渉テーブルに着かせる等)した。</li> <li>契約の延長/解消/自動延長の解消等に関して複雑な事案の交渉を行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 契約交渉業務に必要な法律(例: 特許法、民法等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例: 入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 契約交渉に関する実務(例: ADR、交渉術、市場におけるポジション、ビジネストレンド)の初歩的な事項(例: 特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b> 契約交渉関連業務に必要な技術(例: 担当案件の技術内容)の初歩的な事項を理解している。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例: 英語)の情報を最低限の範囲で(例: 50%程度)理解し、外国語において自己の意思を伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例: 相手方)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例: 相手方)の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例: 特許事務所、法律事務所)と連携し、協働できる。 4. 関係者(例: 事業部門)に分かりやすく説明できる(例: 製品の対応関係、事業への影響、権利行使のリスク、交渉状況、最適な条件)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 契約(2.2.9) A.交渉

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル2	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事業戦略・知的財産戦略に従って、知的財産権のライセンスに関して複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>事業戦略・知的財産戦略に従って、知的財産権の譲渡・譲受に関して複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>事業戦略・知的財産戦略に従って、技術移転に関する複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>契約先との債務不履行/契約条項の解釈をめぐるトラブル(例: 監査を拒む等)について、契約先と調整を行い、解決に導いた。</li> <li>ライセンス先との交渉の場を設定(例: 訴訟提起して交渉テーブルに着かせる等)した。</li> <li>契約の延長/解消/自動延長の解消等に関して複雑な事案の交渉を行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>先輩(例: レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 契約交渉業務に必要な法律(例: 特許法、民法等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例: 基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 契約交渉に関する実務(例: ADR、交渉術、市場におけるポジション、ビジネストレンド)の基本的な事項(例: 重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>④技術</b> 契約交渉関連業務に必要な技術(例: 担当案件の技術内容)の基本的な事項を理解している。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例: 英語)の情報を最低限の範囲で(例: 50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例: 50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者(例: 相手方)から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者(例: 相手方)の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例: 特許事務所、法律事務所)と連携し、協働できる。 4. 関係者(例: 事業部門)に分かりやすく説明できる(例: 製品の対応関係、事業への影響、権利行使のリスク、交渉状況、最適な条件)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 契約(2.2.9) A.交渉

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル 3	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自律的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業戦略・知的財産戦略に従って、知的財産権のライセンスに関して複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>2. 事業戦略・知的財産戦略に従って、知的財産権の譲渡・譲受に関して複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>3. 事業戦略・知的財産戦略に従って、技術移転に関する複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>4. 契約先との債務不履行／契約条項の解釈をめぐるトラブル(例:監査を拒む等)について、契約先と調整を行い、解決に導いた。</li> <li>5. ライセンス先との交渉の場を設定(例:訴訟提起して交渉テーブルに着かせる等)した。</li> <li>6. 契約の延長／解消／自動延長の解消等に関して複雑な事案の交渉を行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:金額ベースで1000万円以上の交渉を成功させた、交渉を成功させることで事業への影響を未然に防いだ、知的財産権のみならず人的サービスも提供する場合の交渉を成功させた)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 契約交渉業務に必要な法律(例:特許法、民法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 契約交渉に関する実務(例:ADR、交渉術、市場におけるポジション、ビジネストrend)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 契約交渉関連業務に必要な技術(例:担当案件の技術内容)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:相手方)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:相手方)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:特許事務所、法律事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者(例:事業部門)に分かりやすく説明できる(例:製品の対応関係、事業への影響、権利行使のリスク、交渉状況、最適な条件)。</li> <li>5. 関係者(例:相手方)を納得させることができる(例:不用意な発言をしない、ポーカーフエースを続けることができる、臨機応変に対応できる)。</li> <li>6. 関係者(例:事業部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 契約(2.2.9) A.交渉

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル 4	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業戦略・知的財産戦略に従って、知的財産権のライセンスに関して複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>2. 事業戦略・知的財産戦略に従って、知的財産権の譲渡・譲受に関して複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>3. 事業戦略・知的財産戦略に従って、技術移転に関する複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>4. 契約先との債務不履行／契約条項の解釈をめぐるトラブル(例:監査を拒む等)について、契約先と調整を行い、解決に導いた。</li> <li>5. ライセンス先との交渉の場を設定(例:訴訟提起して交渉テーブルに着かせる等)した。</li> <li>6. 契約の延長／解消／自動延長の解消等に関して複雑な事案の交渉を行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:金額ベースで1000万円以上の交渉を成功させた、交渉を成功させることで事業への影響を未然に防いだ、知的財産権のみならず人的サービスも提供する場合の交渉を成功させた)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。(例:権利行使適格性のあるクレームの記載方法を自社研究開発部門にフィードバックした)。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 契約交渉業務に必要な法律(例:特許法、民法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 契約交渉に関する実務(例:ADR、交渉術、市場におけるポジション、ビジネストrend)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 契約交渉関連業務に必要な技術(例:担当案件の技術内容)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:相手方)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:相手方)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:特許事務所、法律事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者(例:事業部門)に分かりやすく説明できる(例:製品の対応関係、事業への影響、権利行使のリスク、交渉状況、最適な条件)。</li> <li>5. 関係者(例:相手方)を納得させることができる(例:不用意な発言をしない、ポーカーフエースを続けることができる、臨機応変に対応できる)。</li> <li>6. 関係者(例:事業部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 契約(2.2.9) A.交渉

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業戦略・知的財産戦略に従って、知的財産権のライセンスに関して複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>2. 事業戦略・知的財産戦略に従って、知的財産権の譲渡・譲受に関して複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>3. 事業戦略・知的財産戦略に従って、技術移転に関する複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>4. 契約先との債務不履行／契約条項の解釈をめぐるトラブル(例:監査を拒む等)について、契約先と調整を行い、解決に導いた。</li> <li>5. ライセンス先との交渉の場を設定(例:訴訟提起して交渉テーブルに着かせる等)した。</li> <li>6. 契約の延長／解消／自動延長の解消等に関して複雑な事案の交渉を行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:金額ベースで1000万円以上の交渉を成功させた、交渉を成功させることで事業への影響を未然に防いだ、知的財産権のみならず人的サービスも提供する場合の交渉を成功させた)。(必須)</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 契約交渉業務に必要な法律(例:特許法、民法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 契約交渉に関する実務(例:ADR、交渉術、市場におけるポジション、ビジネストレンド)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 契約交渉関連業務に必要な技術(例:担当案件の技術内容)の専門的又は広範かつ統合的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:相手方)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:相手方)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:特許事務所、法律事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者(例:事業部門)に分かりやすく説明できる(例:製品の対応関係、事業への影響、権利行使のリスク、交渉状況、最適な条件)。</li> <li>5. 関係者(例:相手方)を納得させることができる(例:不用意な発言をしない、ボーカークフェースを続けることができる、臨機応変に対応できる)。</li> <li>6. 関係者(例:事業部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 契約(2.2.9) B.権利処理

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンテンツ開発戦略に沿って、著作権・著作隣接権(著作者人格権を含む)の権利処理(例:専属実演家契約、音源の貸出し、キャラクターの使用)に関する複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>肖像権・パブリシティ権の権利処理に関して複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>契約先との債務不履行/契約条項の解釈をめぐるトラブル(例:ロイヤリティの支払い等)について、契約先と調整を行い、解決に導いた。</li> <li>ライセンス先との交渉の場を設定(例:訴訟提起して交渉テーブルに着かせる等)した。</li> <li>契約の延長/解消/自動延長の解消等に関して複雑な事案の交渉を行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>権利処理業務に必要な法律(例:著作権、著作者隣接権、肖像権、パブリシティ権等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>権利処理契約に関する実務(例:ADR、交渉術、権利団体とその交渉窓口、マネジメント事務所、専属実演家契約)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:相手方)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:相手方)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:相手方、法務部)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者(例:他部門)に分かりやすく説明できる(例:専門用語をわかりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 契約(2.2.9) B.権利処理

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンテンツ開発戦略に沿って、著作権・著作隣接権(著作者人格権を含む)の権利処理(例:専属実演家契約、音源の貸出し、キャラクターの使用)に関する複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>肖像権・パブリシティ権の権利処理に関して複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>契約先との債務不履行/契約条項の解釈をめぐるトラブル(例:ロイヤリティの支払い等)について、契約先と調整を行い、解決に導いた。</li> <li>ライセンス先との交渉の場を設定(例:訴訟提起して交渉テーブルに着かせる等)した。</li> <li>契約の延長/解消/自動延長の解消等に関して複雑な事案の交渉を行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>先輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</li> <li>担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>権利処理業務に必要な法律(例:著作権、著作者隣接権、肖像権、パブリシティ権等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>権利処理契約に関する実務(例:ADR、交渉術、権利団体とその交渉窓口、マネジメント事務所、専属実演家契約)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:相手方)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:相手方)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:相手方、法務部)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者(例:他部門)に分かりやすく説明できる(例:専門用語をわかりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 契約(2.2.9) B.権利処理

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自律的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ開発戦略に沿って、著作権・著作隣接権(著作者人格権を含む)の権利処理(例:専属実演家契約、音源の貸出し、キャラクターの使用)に関する複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>2. 肖像権・パブリシティ権の権利処理に関して複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>3. 契約先との債務不履行／契約条項の解釈をめぐるトラブル(例:ロイヤリティの支払い等)について、契約先と調整を行い、解決に導いた。</li> <li>4. ライセンス先との交渉の場を設定(例:訴訟提起して交渉テーブルに着かせる等)した。</li> <li>5. 契約の延長／解消／自動延長の解消等に関して複雑な事案の交渉を行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:金額ベースで100万円以上の交渉を成功させた、当事者が三者以上の複雑な権利処理を成功させた、事前に漏れなく権利処理を行うことで紛争無く事業をスムーズに展開した、期間設定を適切に行うことで、長期に渡り著作権ライセンス料を徴収できた)。[必須]</li> <li>2. 成果が最終的には株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力作品(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 権利処理業務に必要な法律(例:著作権、著作者隣接権、肖像権、パブリシティ権等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 権利処理契約に関する実務(例:ADR、交渉術、権利団体とその交渉窓口、マネジメント事務所、専属実演家契約)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:相手方)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:相手方)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:相手方、法務部)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者(例:他部門)に分かりやすく説明できる(例:専門用語をわかりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:相手方)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:コンテンツ開発部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 契約(2.2.9) B.権利処理

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ開発戦略に沿って、著作権・著作隣接権(著作者人格権を含む)の権利処理(例:専属実演家契約、音源の貸出し、キャラクターの使用)に関する複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>2. 肖像権・パブリシティ権の権利処理に関して複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>3. 契約先との債務不履行／契約条項の解釈をめぐるトラブル(例:ロイヤリティの支払い等)について、契約先と調整を行い、解決に導いた。</li> <li>4. ライセンス先との交渉の場を設定(例:訴訟提起して交渉テーブルに着かせる等)した。</li> <li>5. 契約の延長／解消／自動延長の解消等に関して複雑な事案の交渉を行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:金額ベースで100万円以上の交渉を成功させた、当事者が三者以上の複雑な権利処理を成功させた、事前に漏れなく権利処理を行うことで紛争無く事業をスムーズに展開した、期間設定を適切に行うことで、長期に渡り著作権ライセンス料を徴収できた)。[必須]</li> <li>2. 成果が最終的には株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力作品(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 権利処理業務に必要な法律(例:著作権、著作者隣接権、肖像権、パブリシティ権等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 権利処理契約に関する実務(例:ADR、交渉術、権利団体とその交渉窓口、マネジメント事務所、専属実演家契約)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:相手方)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:相手方)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:相手方、法務部)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者(例:他部門)に分かりやすく説明できる(例:専門用語をわかりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:相手方)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:コンテンツ開発部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## 契約(2.2.9) B.権利処理

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンテンツ開発戦略に沿って、著作権・著作隣接権(著作者人格権を含む)の権利処理(例:専属実演家契約、音源の貸出し、キャラクターの使用)に関する複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>2. 肖像権・パブリシティ権の権利処理に関して複雑な事案の交渉を行い、合意に至った。</li> <li>3. 契約先との債務不履行／契約条項の解釈をめぐるトラブル(例:ロイヤリティの支払い等)について、契約先と調整を行い、解決に導いた。</li> <li>4. ライセンス先との交渉の場を設定(例:訴訟提起して交渉テーブルに着かせる等)した。</li> <li>5. 契約の延長／解消／自動延長の解消等に関して複雑な事案の交渉を行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:金額ベースで100万円以上の交渉を成功させた、当事者が三者以上の複雑な権利処理を成功させた、事前に漏れなく権利処理を行うことで紛争無く事業をスムーズに展開した、期間設定を適切に行うことで、長期に渡り著作権ライセンス料を徴収できた)。〔必須〕</li> <li>2. 成果が最終的には株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力作品(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 権利処理業務に必要な法律(例:著作権、著作者隣接権、肖像権、パブリシティ権等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 権利処理契約に関する実務(例:ADR、交渉術、権利団体とその交渉窓口、マネジメント事務所、専属実演家契約)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:相手方)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:相手方)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:相手方、法務部)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者(例:他部門)に分かりやすく説明できる(例:専門用語をわかりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:相手方)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:コンテンツ開発部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0

## エンフォースメント(2. 2. 10) A.侵害判定

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社(国内)の製品(サービス)と自社権利についての情報収集を適切に行った。</li> <li>他社(外国)の製品(サービス)と自社権利についての情報収集を適切に行った。</li> <li>他社(国内)の製品(サービス)と自社権利についての侵害判定(例:対応関係の判断)を適切に行った。</li> <li>他社(外国)の製品(サービス)と自社権利についての侵害判定(例:対応関係の判断)を適切に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>侵害判定業務に必要な法律(例:知的財産関連法、直接侵害・間接侵害、禁反言、均等論等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>侵害判定に関する実務(例:権利と製品との対比分析によるクレームチャート)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 侵害判定関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の初歩的な事項を理解することができる(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:相手方、特許事務所、法律事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者(例:他部門)に分かりやすく説明できる(例:専門用語をわかりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準 ver.1.0

## エンフォースメント(2. 2. 10) A.侵害判定

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社(国内)の製品(サービス)と自社権利についての情報収集を適切に行った。</li> <li>他社(外国)の製品(サービス)と自社権利についての情報収集を適切に行った。</li> <li>他社(国内)の製品(サービス)と自社権利についての侵害判定(例:対応関係の判断)を適切に行った。</li> <li>他社(外国)の製品(サービス)と自社権利についての侵害判定(例:対応関係の判断)を適切に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>侵害判定業務に必要な法律(例:知的財産関連法、直接侵害・間接侵害、禁反言、均等論等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>侵害判定に関する実務(例:権利と製品との対比分析によるクレームチャート)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 侵害判定関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の基本的な事項を理解することができる(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を最低限の範囲で(例:50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例:50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:相手方、特許事務所、法律事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者(例:他部門)に分かりやすく説明できる(例:専門用語をわかりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準 ver.1.0

## エンフォースメント(2. 2. 10) A.侵害判定

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社(国内)の製品(サービス)と自社権利についての情報収集を適切に行った。</li> <li>他社(外国)の製品(サービス)と自社権利についての情報収集を適切に行った。</li> <li>他社(国内)の製品(サービス)と自社権利についての侵害判定(例:対応関係の判断)を適切に行った。</li> <li>他社(外国)の製品(サービス)と自社権利についての侵害判定(例:対応関係の判断)を適切に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果が実際に確認された(例:行った侵害判定が決め手となり損害賠償請求額を増額(権利行使時)/減額(非権利行使時)させた)。<b>[必須]</b></li> <li>成果が最終的には経営層/株主に参照されるに至った。</li> <li>主力製品/重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル2~3)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>侵害判定業務に必要な法律(例:知的財産関連法、直接侵害・間接侵害、禁反言、均等論等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書/専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>侵害判定に関する実務(例:権利と製品との対比分析によるクレームチャート)の専門的な事項(例:実務全体の60~70%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 侵害判定関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の専門的な事項を理解することが(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60~70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60~70%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:相手方、特許事務所、法律事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者(例:他部門)に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:相手方)を納得させることができる(例:製品の対応関係、事業への影響、権利行使のリスク)。</li> <li>関係者(例:事業部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		3

## エンフォースメント(2. 2. 10) A.侵害判定

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社(国内)の製品(サービス)と自社権利についての情報収集を適切に行った。</li> <li>他社(外国)の製品(サービス)と自社権利についての情報収集を適切に行った。</li> <li>他社(国内)の製品(サービス)と自社権利についての侵害判定(例:対応関係の判断)を適切に行った。</li> <li>他社(外国)の製品(サービス)と自社権利についての侵害判定(例:対応関係の判断)を適切に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の効果が実際に確認された(例:行った侵害判定が決め手となり損害賠償請求額を増額(権利行使時)/減額(非権利行使時)させた)。<b>[必須]</b></li> <li>成果が最終的には経営層/株主に参照されるに至った。</li> <li>主力製品/重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル3~4)に対する育成指導/助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>侵害判定業務に必要な法律(例:知的財産関連法、直接侵害・間接侵害、禁反言、均等論等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書/専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>侵害判定に関する実務(例:権利と製品との対比分析によるクレームチャート)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用/展開することができる。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 侵害判定関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の専門的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用/展開することができる(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:相手方、特許事務所、法律事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者(例:他部門)に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:相手方)を納得させることができる(例:製品の対応関係、事業への影響、権利行使のリスク)。</li> <li>関係者(例:事業部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		4

## エンフォースメント(2. 2. 10) A.侵害判定

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他社(国内)の製品(サービス)と自社権利についての情報収集を適切に行った。</li> <li>2. 他社(外国)の製品(サービス)と自社権利についての情報収集を適切に行った。</li> <li>3. 他社(国内)の製品(サービス)と自社権利についての侵害判定(例:対応関係の判断)を適切に行った。</li> <li>4. 他社(外国)の製品(サービス)と自社権利についての侵害判定(例:対応関係の判断)を適切に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:行った侵害判定が決め手となり損害賠償請求額を増額(権利行使時)／減額(非権利行使時)させた)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p>	
	<p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 侵害判定業務に必要な法律(例:知的財産関連法、直接侵害・間接侵害、禁反言、均等論等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 侵害判定に関する実務(例:権利と製品との対比分析によるクレームチャート)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 侵害判定関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:相手方、特許事務所、法律事務所)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者(例:他部門)に分かりやすく説明できる(例:専門用語をわかりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:相手方)を納得させることができる(例:製品の対応関係、事業への影響、権利行使のリスク)。</li> <li>6. 関係者(例:事業部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0



## エンフォースメント(2. 2. 10) B.侵害警告

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社(国内)の被疑侵害製品(サービス)に対する警告を行うための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>他社(外国)の被疑侵害製品(サービス)に対する警告を行うための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って侵害警告の利害得失を検討(例:自社・相手方の事業状況、自他の利害状況)、対応策(例:侵害警告の可否、警告後の対策等)を立案した。</li> <li>企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、他社(国内)の被疑侵害製品(サービス)に対する適切な侵害警告を行った。</li> <li>企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、他社(外国)の被疑侵害製品(サービス)に対する適切な侵害警告を行った。</li> <li>侵害警告に対する相手方からの回答に対して返答を行い、相手方の納得を得た。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>効果が実際に確認された(例:侵害警告に基づく損害賠償請求／ロイヤリティの請求額が当該担当製品年間売上の権利対象部分に相当する金額の一定額(例:3%)以上の収入を得た、当該担当製品年間売上の権利対象部分に相当する金額の一定額(例:3%)以上の損害賠償／ロイヤリティの請求額を低減させた、インターネットを通じた侵害コンテンツの提供を停止させた)。(必須)</li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>先輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>侵害警告業務に必要な法律(例:知的財産関連法、直接侵害・間接侵害、禁反言、均等論等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>侵害警告に関する実務(例:他社の被疑侵害への警告、証拠資料収集、関連部門との連携、回答方法、回答書の作成)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 侵害警告関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の専門的な事項を理解することが(例:相手方の主張の技術的意義の専門的な事項を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立て、自社の製品の技術に関する主張をすることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例:60～70%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:部門内)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:部門内)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:部門内)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:部門内)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		知財スキル標準 ver.1.0

## エンフォースメント(2. 2. 10) B.侵害警告

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>他社(国内)の被疑侵害製品(サービス)に対する警告を行うための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>他社(外国)の被疑侵害製品(サービス)に対する警告を行うための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って侵害警告の利害得失を検討(例:自社・相手方の事業状況、自他の利害状況)、対応策(例:侵害警告の可否、警告後の対策等)を立案した。</li> <li>企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、他社(国内)の被疑侵害製品(サービス)に対する適切な侵害警告を行った。</li> <li>企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、他社(外国)の被疑侵害製品(サービス)に対する適切な侵害警告を行った。</li> <li>侵害警告に対する相手方からの回答に対して返答を行い、相手方の納得を得た。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の効果が実際に確認された(例:侵害警告に基づく損害賠償請求／ロイヤリティの請求額が当該担当製品年間売上の権利対象部分に相当する金額の一定額(例:3%)以上の収入を得た、当該担当製品年間売上の権利対象部分に相当する金額の一定額(例:3%)以上の損害賠償／ロイヤリティの請求額を低減させた、インターネットを通じた侵害コンテンツの提供を停止させた)。(必須)</li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>先輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>侵害警告業務に必要な法律(例:知的財産関連法、直接侵害・間接侵害、禁反言、均等論等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>侵害警告に関する実務(例:他社の被疑侵害への警告、証拠資料収集、関連部門との連携、回答方法、回答書の作成)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立て、自社の製品の技術に関する主張をすることができる)。</li> <li>前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 侵害警告関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の専門的な事項を理解し、過去に類似のないケースにも応用／展開することができる(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立て、自社の製品の技術に関する主張をすることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例:80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者(例:部門内)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:部門内)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:部門内)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>関係者(例:部門内)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		知財スキル標準 ver.1.0

## エンフォースメント(2. 2. 10) B.侵害警告

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他社(国内)の被疑侵害製品(サービス)に対する警告を行うための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>2. 他社(外国)の被疑侵害製品(サービス)に対する警告を行うための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>3. 証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って侵害警告の利害得失を検討(例: 自社・相手方の事業状況、自他の利害状況)、対応策(例: 侵害警告の可否、警告後の対策等)を立案した。</li> <li>4. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、他社(国内)の被疑侵害製品(サービス)に対する適切な侵害警告を行った。</li> <li>5. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、他社(外国)の被疑侵害製品(サービス)に対する適切な侵害警告を行った。</li> <li>6. 侵害警告に対する相手方からの回答に対して返答を行い、相手方の納得を得た。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例: 侵害警告に基づく損害賠償請求／ロイヤリティの請求額が当該担当製品年間売上の権利対象部分に相当する金額の一定額(例: 3%)以上の収入を得た、当該担当製品年間売上の権利対象部分に相当する金額の一定額(例: 3%)以上の損害賠償／ロイヤリティの請求額を低減させた、インターネットを通じた侵害コンテンツの提供を停止させた)。〔必須〕</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例: レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例: 大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。(⑤は任意)</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 侵害警告業務に必要な法律(例: 知的財産関連法、直接侵害・間接侵害、禁反言、均等論等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例: 専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例: 専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 侵害警告に関する実務(例: 他社の被疑侵害への警告、証拠資料収集、関連部門との連携、回答方法、回答書の作成)の高度に専門的な事項(例: 実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例: 専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 侵害警告関連業務に必要な技術(例: 他社製品の技術)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例: 相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立て、自社の製品の技術に関する主張をすることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例: 英語)の情報を正しくかつ迅速に(例: 90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例: 90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例: 部門内)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例: 部門内)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例: 部門内)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例: 専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例: 部門内)を納得させることができる。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

## エンフォースメント(2. 2. 10) C.国内訴訟

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内訴訟を進行/対応するための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って国内訴訟提起の利害得失(例:自社・相手方の事業状況、自他の利害状況)を検討し、提起された国内訴訟(例:侵害訴訟、発明対価訴訟)への対応の検討/分析/評価を行った。</li> <li>企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、準備手続、公判準備等の訴訟全般を関係者(例:経営層、発明者)と連携して適切な進行/対応/支援/管理を行った。</li> <li>企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、国内訴訟に関するマスコミ対応を適切に行った。</li> <li>国内訴訟に関する経営層/株主に対する説明の情報整理/資料作成/対応を適切に行った。</li> <li>上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内訴訟業務に必要な法律(例:民法、民事訴訟法、知的財産法、不正競争防止法、独占禁止法、労働法等)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内訴訟に関する実務(例:提訴前準備、訴訟手続、準備手続、和解交渉手法、職務発明対価算定実務、証拠資料収集、証拠方法の選択)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している(例:先行技術、発明完成過程、製品における当該発明の貢献度を考慮した技術に関する議論ができる)。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 国内訴訟関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の初歩的な事項を理解することが(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:特許事務所、法律事務所、法務部門、対価請求訴訟の場合の人事総務部門)と連携し、協働できる(例:担当弁護士に自己の見解とその理由を明確に伝達できる)。</li> <li>関係者(例:事業部門)に分かりやすく説明できる(例:製品の対応関係、事業への影響、訴訟リスク)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内訴訟を進行/対応するための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って国内訴訟提起の利害得失(例:自社・相手方の事業状況、自他の利害状況)を検討し、提起された国内訴訟(例:侵害訴訟、発明対価訴訟)への対応の検討/分析/評価を行った。</li> <li>企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、準備手続、公判準備等の訴訟全般を関係者(例:経営層、発明者)と連携して適切な進行/対応/支援/管理を行った。</li> <li>企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、国内訴訟に関するマスコミ対応を適切に行った。</li> <li>国内訴訟に関する経営層/株主に対する説明の情報整理/資料作成/対応を適切に行った。</li> <li>上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内訴訟業務に必要な法律(例:民法、民事訴訟法、知的財産法、不正競争防止法、独占禁止法、労働法等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内訴訟に関する実務(例:提訴前準備、訴訟手続、準備手続、和解交渉手法、職務発明対価算定実務、証拠資料収集、証拠方法の選択)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している(例:先行技術、発明完成過程、製品における当該発明の貢献度を考慮した技術に関する議論ができる)。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 国内訴訟関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の基本的な事項を理解することが(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:特許事務所、法律事務所、法務部門、対価請求訴訟の場合の人事総務部門)と連携し、協働できる(例:担当弁護士に自己の見解とその理由を明確に伝達できる)。</li> <li>関係者(例:事業部門)に分かりやすく説明できる(例:製品の対応関係、事業への影響、訴訟リスク)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## エンフォースメント(2. 2. 10) C.国内訴訟

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内訴訟を進行/対応するための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って国内訴訟提起の利害得失(例:自社・相手方の事業状況、自他の利害状況)を検討し、提起された国内訴訟(例:侵害訴訟、発明対価訴訟)への対応の検討/分析/評価を行った。</li> <li>企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、準備手続、公判準備等の訴訟全般を関係者(例:経営層、発明者)と連携して適切な進行/対応/支援/管理を行った。</li> <li>企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、国内訴訟に関するマスコミ対応を適切に行った。</li> <li>国内訴訟に関する経営層/株主に対する説明の情報整理/資料作成/対応を適切に行った。</li> <li>上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内訴訟業務に必要な法律(例:民法、民事訴訟法、知的財産法、不正競争防止法、独占禁止法、労働法等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内訴訟に関する実務(例:提訴前準備、訴訟手続、準備手続、和解交渉手法、職務発明対価算定実務、証拠資料収集、証拠方法の選択)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している(例:先行技術、発明完成過程、製品における当該発明の貢献度を考慮した技術に関する議論ができる)。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 国内訴訟関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の基本的な事項を理解することが(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:特許事務所、法律事務所、法務部門、対価請求訴訟の場合の人事総務部門)と連携し、協働できる(例:担当弁護士に自己の見解とその理由を明確に伝達できる)。</li> <li>関係者(例:事業部門)に分かりやすく説明できる(例:製品の対応関係、事業への影響、訴訟リスク)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内訴訟を進行/対応するための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って国内訴訟提起の利害得失(例:自社・相手方の事業状況、自他の利害状況)を検討し、提起された国内訴訟(例:侵害訴訟、発明対価訴訟)への対応の検討/分析/評価を行った。</li> <li>企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、準備手続、公判準備等の訴訟全般を関係者(例:経営層、発明者)と連携して適切な進行/対応/支援/管理を行った。</li> <li>企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、国内訴訟に関するマスコミ対応を適切に行った。</li> <li>国内訴訟に関する経営層/株主に対する説明の情報整理/資料作成/対応を適切に行った。</li> <li>上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内訴訟業務に必要な法律(例:民法、民事訴訟法、知的財産法、不正競争防止法、独占禁止法、労働法等)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内訴訟に関する実務(例:提訴前準備、訴訟手続、準備手続、和解交渉手法、職務発明対価算定実務、証拠資料収集、証拠方法の選択)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している(例:先行技術、発明完成過程、製品における当該発明の貢献度を考慮した技術に関する議論ができる)。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 国内訴訟関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の基本的な事項を理解することが(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:特許事務所、法律事務所、法務部門、対価請求訴訟の場合の人事総務部門)と連携し、協働できる(例:担当弁護士に自己の見解とその理由を明確に伝達できる)。</li> <li>関係者(例:事業部門)に分かりやすく説明できる(例:製品の対応関係、事業への影響、訴訟リスク)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## エンフォースメント(2. 2. 10) C.国内訴訟

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内訴訟を進行／対応するための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>2. 証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って国内訴訟提起の利害得失(例:自社・相手方の事業状況、自他の利害状況)を検討し、提起された国内訴訟(例:侵害訴訟、発明対価訴訟)への対応の検討／分析／評価を行った。</li> <li>3. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、準備手続、公判準備等の訴訟全般を関係者(例:経営層、発明者)と連携して適切な進行／対応／支援／管理を行った。</li> <li>4. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、国内訴訟に関するマスコミ対応を適切に行った。</li> <li>5. 国内訴訟に関する経営層／株主に対する説明の情報整理／資料作成／対応を適切に行った。</li> <li>6. 上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:損害賠償請求訴訟／ロイヤリティ請求訴訟の場合に当該製品の売上の権利対象部分に相当する金額の一定額(例:3%)以上を得た、被損害賠償請求／被ロイヤリティ請求訴訟の場合に当該製品の売上の権利対象部分に相当する一定額(例:3%)以上を低減させた、不裁法訴訟／独禁法訴訟／確認訴訟案件について勝訴／有利な和解を得た、職務発明対価訴訟案件について、実績補償支払額を大幅に上回らない範囲内の判決／和解を得た。)[必須]</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内訴訟業務に必要な法律(例:民法、民事訴訟法、知的財産法、不正競争防止法、独占禁止法、労働法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内訴訟に関する実務(例:提訴前準備、訴訟手続、準備手続、和解交渉手法、職務発明対価算定実務、証拠資料収集、証拠方法の選択)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している(例:先行技術、発明完成過程、製品における当該発明の貢献度を考慮した技術に関する議論ができる)。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 国内訴訟関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の専門的な事項を理解することが(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:特許事務所、法律事務所、法務部門、対価請求訴訟の場合の人事総務部門)と連携し、協働できる(例:担当弁護士に自己の見解とその理由を明確に伝達できる)。</li> <li>4. 関係者(例:事業部門)に分かりやすく説明できる(例:製品の対応関係、事業への影響、訴訟リスク)。</li> <li>5. 関係者(例:相手方)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:事業部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

## エンフォースメント(2. 2. 10) C.国内訴訟

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内訴訟を進行／対応するための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>2. 証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って国内訴訟提起の利害得失(例:自社・相手方の事業状況、自他の利害状況)を検討し、提起された国内訴訟(例:侵害訴訟、発明対価訴訟)への対応の検討／分析／評価を行った。</li> <li>3. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、準備手続、公判準備等の訴訟全般を関係者(例:経営層、発明者)と連携して適切な進行／対応／支援／管理を行った。</li> <li>4. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、国内訴訟に関するマスコミ対応を適切に行った。</li> <li>5. 国内訴訟に関する経営層／株主に対する説明の情報整理／資料作成／対応を適切に行った。</li> <li>6. 上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:損害賠償請求訴訟／ロイヤリティ請求訴訟の場合に当該製品の売上の権利対象部分に相当する金額の一定額(例:3%)以上を得た、被損害賠償請求／被ロイヤリティ請求訴訟の場合に当該製品の売上の権利対象部分に相当する一定額(例:3%)以上を低減させた、不裁法訴訟／独禁法訴訟／確認訴訟案件について勝訴／有利な和解を得た、職務発明対価訴訟案件について、実績補償支払額を大幅に上回らない範囲内の判決／和解を得た。)[必須]</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内訴訟業務に必要な法律(例:民法、民事訴訟法、知的財産法、不正競争防止法、独占禁止法、労働法等)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内訴訟に関する実務(例:提訴前準備、訴訟手続、準備手続、和解交渉手法、職務発明対価算定実務、証拠資料収集、証拠方法の選択)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例:先行技術、発明完成過程、製品における当該発明の貢献度を考慮した技術に関する議論ができる)。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 国内訴訟関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の専門的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:特許事務所、法律事務所、法務部門、対価請求訴訟の場合の人事総務部門)と連携し、協働できる(例:担当弁護士に自己の見解とその理由を明確に伝達できる)。</li> <li>4. 関係者(例:事業部門)に分かりやすく説明できる(例:製品の対応関係、事業への影響、訴訟リスク)。</li> <li>5. 関係者(例:相手方)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例:事業部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

## エンフォースメント(2. 2. 10) C.国内訴訟

	業績評価指標		業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内訴訟を進行／対応するための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って国内訴訟提起の利害得失(例:自社・相手方の事業状況、自他の利害状況)を検討し、提起された国内訴訟(例:侵害訴訟、発明対価訴訟)への対応の検討／分析／評価を行った。</li> <li>企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、準備手続、公判準備等の訴訟全般を関係者(例:経営層、発明者)と連携して適切な進行／対応／支援／管理を行った。</li> <li>企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、国内訴訟に関するマスコム対応を適切に行った。</li> <li>国内訴訟に関する経営層／株主に対する説明の情報整理／資料作成／対応を適切に行った。</li> <li>上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:損害賠償請求訴訟／ロイヤリティ請求訴訟の場合に当該製品の売上の権利対象部分に相当する金額の一定額(例:3%)以上を得た。被損害賠償請求／被ロイヤリティ請求訴訟の場合に当該製品の売上の権利対象部分に相当する一定額(例:3%)以上を低減させた。不競法訴訟／独禁法訴訟／確認訴訟案件について勝訴／有利な和解を得た。職務発明対価訴訟案件について、実績補償支払額を大幅に上回らない範囲内の判決／和解を得た。〔必須〕</li> <li>成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕</li> <li>質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会を主導した。</li> <li>社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>社外委員会に主体的立場で参加した。</li> <li>担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内訴訟業務に必要な法律(例:民法、民事訴訟法、知的財産法、不正競争防止法、独占禁止法、労働法等)・法改正情報・判例の高度に専門的な事項(例:専門書／専門雑誌／学会論文レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国内訴訟に関する実務(例:提訴前準備、訴訟手続、準備手続、和解交渉手法、職務発明対価算定実務、証拠資料収集、証拠方法の選択)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例:先行技術、発明完成過程、製品における当該発明の貢献度を考慮した技術に関する議論ができる)。</li> <li>前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 国内訴訟関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例:相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者(例:発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:特許事務所、法律事務所、法務部門、対価請求訴訟の場合の人事総務部門)と連携し、協働できる(例:担当弁護士に自己の見解とその理由を明確に伝達できる)。</li> <li>関係者(例:事業部門)に分かりやすく説明できる(例:製品の対応関係、事業への影響、訴訟リスク)。</li> <li>関係者(例:相手方)を納得させることができる。</li> <li>関係者(例:事業部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>		

知財スキル標準ver.1.0

## エンフォースメント(2. 2. 10) D.外国訴訟

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国訴訟を進行/対応するための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>2. 証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って外国訴訟提起の利害得失(例: 自社/相手方の事業状況、自他の利害状況を検討し、提起された外国訴訟(例: 侵害訴訟)への対応の検討/分析/評価を行った。</li> <li>3. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、準備手続、公判準備等の訴訟手続を関係者(例: 現地弁護士)と連携して適切な進行/対応/支援/管理を行った。</li> <li>4. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、外国訴訟に関するマスコミ対応を適切に行った。</li> <li>5. 外国訴訟に関する株主総会における説明の情報整理/資料作成/対応を適切に行った。</li> <li>6. 上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国訴訟業務に必要な法律(例: 当該国の知的財産関連法、訴訟関連法、不正競争防止法、独占禁止法等)・制度・法改正情報・判例(例: マークマン判決)の初歩的な事項(例: 入門書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国訴訟に関する実務(例: 裁判制度、訴訟前準備、訴訟手続、公判手続、訴訟関連費用、和解交渉・M&amp;A・アライアンス等の戦略オプション)の初歩的な事項(例: 特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 外国訴訟関連業務に必要な技術(例: 他社製品の技術)の初歩的な事項を理解することが(例: 相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例: 英語)の情報を最低限の範囲で(例: 50%程度)理解することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例: 発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例: 海外代理人、相手方、法務部門、現地法人)と連携し、協働できる(例: 担当弁護士に自己の見解とその理由を明確に伝達できる)。</li> <li>4. 関係者(例: 他部門)に分かりやすく説明できる(例: 製品の対応関係、事業への影響、訴訟リスク)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		<p>レベル 1</p>

## エンフォースメント(2. 2. 10) D.外国訴訟

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国訴訟を進行/対応するための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>2. 証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って外国訴訟提起の利害得失(例: 自社/相手方の事業状況、自他の利害状況を検討し、提起された外国訴訟(例: 侵害訴訟)への対応の検討/分析/評価を行った。</li> <li>3. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、準備手続、公判準備等の訴訟手続を関係者(例: 現地弁護士)と連携して適切な進行/対応/支援/管理を行った。</li> <li>4. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、外国訴訟に関するマスコミ対応を適切に行った。</li> <li>5. 外国訴訟に関する株主総会における説明の情報整理/資料作成/対応を適切に行った。</li> <li>6. 上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例: レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国訴訟業務に必要な法律(例: 当該国の知的財産関連法、訴訟関連法、不正競争防止法、独占禁止法等)・制度・法改正情報・判例(例: マークマン判決)の基本的な事項(例: 基本書レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国訴訟に関する実務(例: 裁判制度、訴訟前準備、訴訟手続、公判手続、訴訟関連費用、和解交渉・M&amp;A・アライアンス等の戦略オプション)の基本的な事項(例: 重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 外国訴訟関連業務に必要な技術(例: 他社製品の技術)の基本的な事項を理解している(例: 相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例: 英語)の情報を最低限の範囲で(例: 50%程度)理解し、外国語において自己の意思を最低限の範囲で(例: 50%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例: 発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例: 海外代理人、相手方、法務部門、現地法人)と連携し、協働できる(例: 担当弁護士に自己の見解とその理由を明確に伝達できる)。</li> <li>4. 関係者(例: 他部門)に分かりやすく説明できる(例: 製品の対応関係、事業への影響、訴訟リスク)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		<p>レベル 2</p>

## エンフォースメント(2. 2. 10) D.外国訴訟

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国訴訟を進行／対応するための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>2. 証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って外国訴訟提起の利害得失(例: 自社／相手方の事業状況、自他の利害状況を検討し、提起された外国訴訟(例: 侵害訴訟)への対応の検討／分析／評価を行った。</li> <li>3. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、準備手続、公判準備等の訴訟手続を関係者(例: 現地弁護士)と連携して適切な進行／対応／支援／管理を行った。</li> <li>4. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、外国訴訟に関するマスコミ対応を適切に行った。</li> <li>5. 外国訴訟に関する株主総会における説明の情報整理／資料作成／対応を適切に行った。</li> <li>6. 上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例: 損害賠償請求訴訟／ロイヤリティ請求訴訟の場合に当該製品の売上の権利対象部分に相当する金額の一定額(例: 3%)以上を得た、被損害賠償請求／被ロイヤリティ請求訴訟の場合に当該製品の売上の権利対象部分に相当する一定額(例: 3%)以上を低減させた、ITC請求／不従法訴訟／独禁法訴訟等の訴訟案件について勝訴／有利な和解を得た)。(必須)</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例: レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例: 大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国訴訟業務に必要な法律(例: 当該国の知的財産関連法、訴訟関連法、不正競争防止法、独占禁止法等)・制度・法改正情報・判例(例: マークマン判決)の専門的な事項(例: 専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国訴訟に関する実務(例: 裁判制度、訴訟前準備、訴訟手続、公判手続、訴訟関連費用、和解交渉・M&amp;A・アライアンス等の戦略オプション)の専門的な事項(例: 実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 外国訴訟関連業務に必要な技術(例: 他社製品の技術)の専門的な事項を理解することが(例: 相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例: 英語)の情報を概ね(例: 60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を概ね(例: 60～70%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例: 発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例: 海外代理人、相手方、法務部門、現地法人)と連携し、協働できる(例: 担当弁護士に自己の見解とその理由を明確に伝達できる)。</li> <li>4. 関係者(例: 他部門)に分かりやすく説明できる(例: 製品の対応関係、事業への影響、訴訟リスク)。</li> <li>5. 関係者(例: 相手方)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例: 事業部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		知財スキル標準ver.1.0

## エンフォースメント(2. 2. 10) D.外国訴訟

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国訴訟を進行／対応するための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>2. 証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って外国訴訟提起の利害得失(例: 自社／相手方の事業状況、自他の利害状況を検討し、提起された外国訴訟(例: 侵害訴訟)への対応の検討／分析／評価を行った。</li> <li>3. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、準備手続、公判準備等の訴訟手続を関係者(例: 現地弁護士)と連携して適切な進行／対応／支援／管理を行った。</li> <li>4. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、外国訴訟に関するマスコミ対応を適切に行った。</li> <li>5. 外国訴訟に関する株主総会における説明の情報整理／資料作成／対応を適切に行った。</li> <li>6. 上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例: 損害賠償請求訴訟／ロイヤリティ請求訴訟の場合に当該製品の売上の権利対象部分に相当する金額の一定額(例: 3%)以上を得た、被損害賠償請求／被ロイヤリティ請求訴訟の場合に当該製品の売上の権利対象部分に相当する一定額(例: 3%)以上を低減させた、ITC請求／不従法訴訟／独禁法訴訟等の訴訟案件について勝訴／有利な和解を得た)。(必須)</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例: レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。(必須)</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分享のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例: 大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国訴訟業務に必要な法律(例: 当該国の知的財産関連法、訴訟関連法、不正競争防止法、独占禁止法等)・制度・法改正情報・判例(例: マークマン判決)の専門的な事項(例: 専門書／専門雑誌レベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国訴訟に関する実務(例: 裁判制度、訴訟前準備、訴訟手続、公判手続、訴訟関連費用、和解交渉・M&amp;A・アライアンス等の戦略オプション)の専門的な事項(例: 実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例: 相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 外国訴訟関連業務に必要な技術(例: 他社製品の技術)の専門的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例: 相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例: 英語)の情報を正しく(例: 80%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく(例: 80%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例: 発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例: 海外代理人、相手方、法務部門、現地法人)と連携し、協働できる(例: 担当弁護士に自己の見解とその理由を明確に伝達できる)。</li> <li>4. 関係者(例: 他部門)に分かりやすく説明できる(例: 製品の対応関係、事業への影響、訴訟リスク)。</li> <li>5. 関係者(例: 相手方)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例: 事業部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		知財スキル標準ver.1.0

## エンフォースメント(2. 2. 10) D.外国訴訟

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国訴訟を進行／対応するための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>2. 証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って外国訴訟提起の利害得失(例: 自社／相手方の事業状況、自他の利害状況)を検討し、提起された外国訴訟(例: 侵害訴訟)への対応の検討／分析／評価を行った。</li> <li>3. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、準備手続、公判準備等の訴訟手続を関係者(例: 現地弁護士)と連携して適切な進行／対応／支援／管理を行った。</li> <li>4. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、外国訴訟に関するマスコミ対応を適切に行った。</li> <li>5. 外国訴訟に関する株主総会における説明の情報整理／資料作成／対応を適切に行った。</li> <li>6. 上記について、適切な弁護士等を選定し、協働して実行した。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例: 損害賠償請求訴訟／ロイヤリティ請求訴訟の場合に当該製品の売上の権利対象部分に相当する金額の一定額(例: 3%)以上を得た、被損害賠償請求／被ロイヤリティ請求訴訟の場合に当該製品の売上の権利対象部分に相当する一定額(例: 3%)以上を低減させた、ITC請求／不競法訴訟／独禁法訴訟等の訴訟案件について勝訴／有利な和解を得た)。(必須)</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例: レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。〔必須〕</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例: 大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主体的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国訴訟業務に必要な法律(例: 当該国の知的財産関連法、訴訟関連法、不正競争防止法、独占禁止法等)・制度・法改正情報・判例(例: マークマン判決)の高度に専門的な事項(例: 専門書／専門雑誌／学会論文レベル)又は広範かつ統合的な事項(例: 専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国訴訟に関する実務(例: 裁判制度、訴訟前準備、訴訟手続、公判手続、訴訟関連費用、和解交渉・M&amp;A・アライアンス等の戦略オプション)の高度に専門的な事項(例: 実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例: 専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 外国訴訟関連業務に必要な技術(例: 他社製品の技術)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる(例: 相手方の主張の技術的意義を理解し、その主張を覆すためのロジックを組み立てることができる)。</p> <p><b>⑤語学</b> 外国語(例: 英語)の情報を正しくかつ迅速に(例: 90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例: 90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者(例: 発明者)の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例: 海外代理人、相手方、法務部門、現地法人)と連携し、協働できる(例: 担当弁護士に自己の見解とその理由を明確に伝達できる)。</li> <li>4. 関係者(例: 他部門)に分かりやすく説明できる(例: 製品の対応関係、事業への影響、訴訟リスク)。</li> <li>5. 関係者(例: 相手方)を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者(例: 事業部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準ver.1.0



## エンフォースメント(2. 2. 10) E 模倣品排除

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模倣品排除を実行するための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>2. 証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って模倣品排除を実行する利害得失について検討を行い、対応を分析／評価した。</li> <li>3. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、模倣品排除を関係者(例:関係行政機関、税関、現地弁護士)と連携して適切に追行／対応した。</li> <li>4. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、模倣品排除に関するマスコミ対応を適切に行った。</li> <li>5. 模倣品排除に関する株主総会における説明の情報整理／資料作成／対応を適切に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:担当製品に関する模倣品の輸出入を水際で止めた)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模倣品排除業務に必要な法律(例:関税率法、条約、当該国の知的財産法、不正競争防止法、訴訟関連法、輸出入差止制度、刑法等)・制度・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模倣品排除に関する実務(例:模倣品発見調査手法、模倣者追跡調査手法、税関等の行政機関との連携、民事・刑事訴訟手続、関連費用、和解交渉等)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 模倣品排除関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を概ね(例:60～70%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しく概ね(例:60～70%程度)伝達(例:80%程度)することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:海外代理人、税関等の行政機関)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:海外代理人、税関等の行政機関、相手方、法務部門、現地法人)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者(例:他部門、税関等の行政機関)に分かりやすく説明できる(例:専門用語をわかりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:相手方、税関等の行政機関)を納得させることができる(例:製品の対応関係、事業への影響、リスク)。</li> <li>6. 関係者(例:事業部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		知財スキル標準 ver.1.0

## エンフォースメント(2. 2. 10) E 模倣品排除

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模倣品排除を実行するための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>2. 証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って模倣品排除を実行する利害得失について検討を行い、対応を分析／評価した。</li> <li>3. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、模倣品排除を関係者(例:関係行政機関、税関、現地弁護士)と連携して適切に追行／対応した。</li> <li>4. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、模倣品排除に関するマスコミ対応を適切に行った。</li> <li>5. 模倣品排除に関する株主総会における説明の情報整理／資料作成／対応を適切に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:担当製品に関する模倣品の輸出入を水際で止めた)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模倣品排除業務に必要な法律(例:関税率法、条約、当該国の知的財産法、不正競争防止法、訴訟関連法、輸出入差止制度、刑法等)・制度・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模倣品排除に関する実務(例:模倣品発見調査手法、模倣者追跡調査手法、税関等の行政機関との連携、民事・刑事訴訟手続、関連費用、和解交渉等)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 模倣品排除関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の専門的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しく(例:80%程度)理解し、外国語において自己の意思を伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:海外代理人、税関等の行政機関)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:海外代理人、税関等の行政機関、相手方、法務部門、現地法人)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者(例:他部門、税関等の行政機関)に分かりやすく説明できる(例:専門用語をわかりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:相手方、税関等の行政機関)を納得させることができる(例:製品の対応関係、事業への影響、リスク)。</li> <li>6. 関係者(例:事業部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
		知財スキル標準 ver.1.0

## エンフォースメント(2. 2. 10) E模倣品排除

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模倣品排除を実行するための有力な証拠資料を収集した。</li> <li>2. 証拠資料に基づき、企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って模倣品排除を実行する利害得失について検討を行い、対応を分析／評価した。</li> <li>3. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、模倣品排除を関係者(例:関係行政機関、税関、現地弁護士)と連携して適切に追行／対応した。</li> <li>4. 企業戦略・事業戦略・知的財産戦略・販売戦略に沿って、模倣品排除に関するマスコミ対応を適切に行った。</li> <li>5. 模倣品排除に関する株主総会における説明の情報整理／資料作成／対応を適切に行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:担当製品に関する模倣品の輸出を水際で止めた)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけ(他社動向の把握を含む)を理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営・事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模倣品排除業務に必要な法律(例:関税率法、条約、当該国の知的財産法、不正競争防止法、訴訟関連法、輸出入差止制度、刑法等)・制度・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模倣品排除に関する実務(例:模倣品発見調査手法、模倣者追跡調査手法、税関等の行政機関との連携、民事・刑事訴追手続、関連費用、和解交渉等)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 模倣品排除関連業務に必要な技術(例:他社製品の技術)の高度に専門的又は広範かつ統合的な事項を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p><b>⑤語学</b> 対象案件が外国案件の場合において、外国語(例:英語)の情報を正しくかつ迅速に(例:90%程度)理解し、外国語において自己の意思を正しくかつ流暢に(例:90%程度)伝達することができる。</p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者(例:海外代理人、税関等の行政機関)から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:海外代理人、税関等の行政機関、相手方、法務部門、現地法人)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者(例:他部門、税関等の行政機関)に分かりやすく説明できる(例:専門用語をわかりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者(例:相手方、税関等の行政機関)を納得させることができる(例:製品の対応関係、事業への影響、リスク)。</li> <li>6. 関係者(例:事業部門)から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

## 価値評価(2. 2. 11) A.定量評価

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>知的財産権の主として定量面(例:経済的価値、ライセンス対価、実績補償金額、譲渡価格等)の評価方法に関する情報収集/企画の立案を成功裡に行った。</li> <li>自社の事業・規模に適した知的財産権の定量面の評価に関連するシステムの選定/導入/構築/評価を成功裡に行った。</li> <li>知的財産権の主として定量的価値(例:期待収益率等)を適切に算定/評価し、報告書作成を行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>定量評価業務に必要な法律(例:知的財産法、税法)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>定量評価に関する実務(例:各種評価手法、各種価値評価ツール)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 定量評価関連業務に必要な技術(例:担当案件の技術的意義)の初歩的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:関連部門)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 価値評価(2. 2. 11) A.定量評価

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>知的財産権の主として定量面(例:経済的価値、ライセンス対価、実績補償金額、譲渡価格等)の評価方法に関する情報収集/企画の立案を成功裡に行った。</li> <li>自社の事業・規模に適した知的財産権の定量面の評価に関連するシステムの選定/導入/構築/評価を成功裡に行った。</li> <li>知的財産権の主として定量的価値(例:期待収益率等)を適切に算定/評価し、報告書作成を行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。</li> <li>質問に対して適切な回答/助言を行った。</li> <li>自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>社内講師を担当した。</li> <li>社内委員会にメンバーとして参加した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>定量評価業務に必要な法律(例:知的財産法、税法)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>定量評価に関する実務(例:各種評価手法、各種価値評価ツール)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。</li> <li>前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 定量評価関連業務に必要な技術(例:担当案件の技術的意義)の基本的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>関係者(例:関連部門)と連携し、協働できる。</li> <li>関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 価値評価(2.2.11) A.定量評価

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的財産権の主として定量面(例:経済的価値、ライセンス対価、実績補償金額、譲渡価格等)の評価方法に関する情報収集／企画の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の事業・規模に適した知的財産権の定量面の評価に関連するシステムの選定／導入／構築／評価を成功裡に行った。</li> <li>3. 知的財産権の主として定量的価値(例:期待収益率等)を適切に算定／評価し、報告書作成を行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:M&amp;A/事業統合等に際して知的財産部分に関する価値評価の結果が事業に大きく貢献した)。<small>[必須]</small></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定量評価業務に必要な法律(例:知的財産法、税法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定量評価に関する実務(例:各種評価手法、各種価値評価ツール)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 定量評価関連業務に必要な技術(例:担当案件の技術的意義)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:関連部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準 ver.1.0

## 価値評価(2.2.11) A.定量評価

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的財産権の主として定量面(例:経済的価値、ライセンス対価、実績補償金額、譲渡価格等)の評価方法に関する情報収集／企画の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の事業・規模に適した知的財産権の定量面の評価に関連するシステムの選定／導入／構築／評価を成功裡に行った。</li> <li>3. 知的財産権の主として定量的価値(例:期待収益率等)を適切に算定／評価し、報告書作成を行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:M&amp;A/事業統合等に際して知的財産部分に関する価値評価の結果が事業に大きく貢献した)。<small>[必須]</small></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<small>[必須]</small></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定量評価業務に必要な法律(例:知的財産法、税法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定量評価に関する実務(例:各種評価手法、各種価値評価ツール)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 定量評価関連業務に必要な技術(例:担当案件の技術的意義)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:関連部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準 ver.1.0

## 価値評価(2.2.11) A.定量評価

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的財産権の主として定量面(例:経済的価値、ライセンス対価、実績補償金額、譲渡価格等)の評価方法に関する情報収集／企画の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の事業・規模に適した知的財産権の定量面の評価に関連するシステムの選定／導入／構築／評価を成功裡に行った。</li> <li>3. 知的財産権の主として定量的価値(例:期待収益率等)を適切に算定／評価し、報告書作成を行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:M&amp;A/事業統合等に際して知的財産部分に関する価値評価の結果が事業に大きく貢献した)。<small>[必須]</small></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<small>[必須]</small></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定量評価業務に必要な法律(例:知的財産法、税法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定量評価に関する実務(例:各種評価手法、各種価値評価ツール)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 定量評価関連業務に必要な技術(例:担当案件の技術的意義)の専門的又は広範かつ統合的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:関連部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準 ver.1.0

## 価値評価(2. 2. 11) B.定性評価

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上) 1. 知的財産権の主として定性面(例:技術評価、権利の有効性、ベンチマーク、知財価値の経年変化等)の評価方法に関する情報収集/企画の立案を成功裡に行った。 2. 自社の事業・規模に適した知的財産権の定性面の評価に関連するシステムの選定/導入/構築/評価を成功裡に行った。 3. 知的財産権の主として定性的価値(例:コアとなる基本特許、キャラクターのヒット性等)を適切に算定(例:期待収益率の算出等)/評価し、報告書作成を行った。</p> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。 1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 定性評価業務に必要な法律(例:知的財産法、税法)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 定性評価に関する実務(例:各種評価手法、各種価値評価ツール)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b> 定性評価関連業務に必要な技術(例:担当案件の技術的意義)の初歩的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:関連部門)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 価値評価(2. 2. 11) B.定性評価

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上) 1. 知的財産権の主として定性面(例:技術評価、権利の有効性、ベンチマーク、知財価値の経年変化等)の評価方法に関する情報収集/企画の立案を成功裡に行った。 2. 自社の事業・規模に適した知的財産権の定性面の評価に関連するシステムの選定/導入/構築/評価を成功裡に行った。 3. 知的財産権の主として定性的価値(例:コアとなる基本特許、キャラクターのヒット性等)を適切に算定(例:期待収益率の算出等)/評価し、報告書作成を行った。</p> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。 1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 定性評価業務に必要な法律(例:知的財産法、税法)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 定性評価に関する実務(例:各種評価手法、各種価値評価ツール)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>④技術</b> 定性評価関連業務に必要な技術(例:担当案件の技術的意義)の基本的な事項を理解している。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:関連部門)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 価値評価(2. 2. 11) B.定性評価

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル3	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      (部分的な)担当当事者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを自立的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <p>1. 知的財産権の主として定性面(例:技術評価、権利の有効性、ベンチマーク、知財価値の経年変化等)の評価方法に関する情報収集／企画の立案を成功裡に行った。</p> <p>2. 自社の事業・規模に適した知的財産権の定性面の評価に関連するシステムの選定／導入／構築／評価を成功裡に行った。</p> <p>3. 知的財産権の主として定性的価値(例:コアとなる基本特許、キャラクターのヒット性等)を適切に算定／評価し、報告書作成を行った。</p> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 効果が実際に確認された(例:知財価値のベンチマークを行い、自社の特許ポジションの評価ができた)。<b>[必須]</b></p> <p>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</p> <p>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</p> <p>4. 社内講師を担当した。</p> <p>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</p> <p>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</p> <p>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b>                      1. 定性評価業務に必要な法律(例:知的財産法、税法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>③実務</b>                      1. 定性評価に関する実務(例:各種評価手法、各種価値評価ツール)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</p> <p><b>④技術</b>                      定性評価関連業務に必要な技術(例:担当案件の技術的意義)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者(例:関連部門)と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p>5. 関係者を納得させることができる。</p> <p>6. 関係者から信頼される。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 価値評価(2. 2. 11) B.定性評価

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
レベル4	<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b>                      指導者兼主担当当事者として対応</p> <p><b>②複雑性</b>                      以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <p>1. 知的財産権の主として定性面(例:技術評価、権利の有効性、ベンチマーク、知財価値の経年変化等)の評価方法に関する情報収集／企画の立案を成功裡に行った。</p> <p>2. 自社の事業・規模に適した知的財産権の定性面の評価に関連するシステムの選定／導入／構築／評価を成功裡に行った。</p> <p>3. 知的財産権の主として定性的価値(例:コアとなる基本特許、キャラクターのヒット性等)を適切に算定(例:期待収益率の算出等)／評価し、報告書作成を行った。</p> <p><b>③重要性</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 複数の効果が実際に確認された(例:知財価値のベンチマークを行い、自社の特許ポジションの評価ができた)。<b>[必須]</b></p> <p>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</p> <p>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</p> <p><b>④社内外貢献</b>                      以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <p>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></p> <p>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</p> <p>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</p> <p>4. 社内講師を担当した。</p> <p>5. 社内委員会を主導した。</p> <p>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</p> <p>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</p> <p>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b>                      1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</p> <p>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</p> <p><b>②法律</b>                      1. 定性評価業務に必要な法律(例:知的財産法、税法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>③実務</b>                      1. 定性評価に関する実務(例:各種評価手法、各種価値評価ツール)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</p> <p>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</p> <p><b>④技術</b>                      定性評価関連業務に必要な技術(例:担当案件の技術的意義)の専門的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b>                      1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</p> <p>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</p> <p>3. 関係者(例:関連部門)と連携し、協働できる。</p> <p>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p>5. 関係者を納得させることができる。</p> <p>6. 関係者から信頼される。</p> <p><b>⑦その他</b>                      複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 価値評価(2.2.11) B.定性評価

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的財産権の主として定性面(例:技術評価、権利の有効性、ベンチマーク、知財価値の経年変化等)の評価方法に関する情報収集／企画の立案を成功裡に行った。</li> <li>2. 自社の事業・規模に適した知的財産権の定性面の評価に関連するシステムの選定／導入／構築／評価を成功裡に行った。</li> <li>3. 知的財産権の主として定性的価値(例:コアとなる基本特許、キャラクターのヒット性等)を適切に算定(例:期待収益率の算出等)／評価し、報告書作成を行った。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例:知財価値のベンチマークを行い、自社の特許ポジションの評価ができた)。<b>[必須]</b></li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。<b>[必須]</b></li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定性評価業務に必要な法律(例:知的財産法、税法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定性評価に関する実務(例:各種評価手法、各種価値評価ツール)の高度に専門的な事項(例:実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例:専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b> 定性評価関連業務に必要な技術(例:担当案件の技術的意義)の専門的又は広範かつ統合的な事項を理解することができる。</p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:関連部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	

知財スキル標準 ver.1.0

## 価値評価(2. 2. 11) C.棚卸

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 補助者/メンバーとして対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度10%以上) 1. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、保有する産業財産権の権利維持・放棄方針の企画を立案/方針の作成を成功裡に行った。 2. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、保有する産業財産権の権利維持・放棄方針の現状分析/改善を成功裡に行った。 3. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、保有する産業財産権の権利維持・放棄を適切に行った(少なくとも事業部門単位以上)。</p> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績/経験を有する。 1. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 2. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 棚卸業務に必要な法律(例:知的財産法、税法)・法改正情報・判例の初歩的な事項(例:入門書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 棚卸に関する実務(例:権利活用状況の把握、技術トレンド、ビジネストレンド)の初歩的な事項(例:特に重要なもののみ、実務全体の20~30%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:関連部門)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 価値評価(2. 2. 11) C.棚卸

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいずれかを上司の指導の下で(一部は自律的に)、複数回実行した実績/経験を有する。(結果への寄与度20%以上) 1. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、保有する産業財産権の権利維持・放棄方針の企画を立案/方針の作成を成功裡に行った。 2. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、保有する産業財産権の権利維持・放棄方針の現状分析/改善を成功裡に行った。 3. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、保有する産業財産権の権利維持・放棄を適切に行った(少なくとも事業部門単位以上)。</p> <p><b>③重要性</b></p> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいずれかに相当する実績と経験を有する。 1. 後輩(例:レベル1~2)に対する育成指導/助言を行った。 2. 質問に対して適切な回答/助言を行った。 3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。 4. 社内講師を担当した。 5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</p> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b> 1. 自己の業務の企業戦略/事業戦略等の中での位置づけを理解している。 2. 担当業務に関連する基本的な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</p> <p><b>②法律</b> 1. 棚卸業務に必要な法律(例:知的財産法、税法)・法改正情報・判例の基本的な事項(例:基本書レベル)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>③実務</b> 1. 棚卸に関する実務(例:権利活用状況の把握、技術トレンド、ビジネストレンド)の基本的な事項(例:重要なもののみ、実務全体の40~50%程度)を理解している。 2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、上司の指導の下でその課題を解決でき、一部は自律的に解決できる。</p> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b> 1. 関係者から円滑に情報収集ができる。 2. 関係者の説明を正しく理解することができる。 3. 関係者(例:関連部門)と連携し、協働できる。 4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</p> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準ver.1.0

## 価値評価(2. 2. 11) C.棚卸

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> (部分的な)主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを自律的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度30%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、保有する産業財産権の権利維持・放棄方針の企画を立案／方針の作成を成功裡に行った。</li> <li>2. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、保有する産業財産権の権利維持・放棄方針の現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、保有する産業財産権の権利維持・放棄を適切に行った(少なくとも事業部門単位以上)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果が実際に確認された(例:保有する知的財産権のバランスを考慮し適切に棚卸を実施することによって、コストを大幅に低減させた。)[必須]</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル2～3)に対する育成指導／助言を行った。</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務のマニュアル化を行った。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会にメンバーとして参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 担当業務に関連する主要な自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 棚卸業務に必要な法律(例:知的財産法、税法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 棚卸に関する実務(例:権利活用状況の把握、技術トレンド、ビジネストレンド)の専門的な事項(例:実務全体の60～70%程度)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題を発見し、解決することができる(他者との適切な連携を通じて解決できる場合を含む)。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:関連部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準 ver.1.0

## 価値評価(2. 2. 11) C.棚卸

業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 指導者兼主担当者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかを主導的に、複数回実行した実績／経験を有する。(結果への寄与度40%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、保有する産業財産権の権利維持・放棄方針の企画を立案／方針の作成を成功裡に行った。</li> <li>2. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、保有する産業財産権の権利維持・放棄方針の現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、保有する産業財産権の権利維持・放棄を適切に行った(少なくとも事業部門単位以上)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の効果が実際に確認された(例:保有する知的財産権のバランスを考慮し適切に棚卸を実施することによって、コストを大幅に低減させた。)[必須]</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例:レベル3～4)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 自己の担当業務分掌のマニュアル化を推進した。</li> <li>4. 社内講師を担当した。</li> <li>5. 社内委員会を主導した。</li> <li>6. 社外講習会(例:大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>7. 社外委員会に会社代表として参加した。</li> <li>8. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 棚卸業務に必要な法律(例:知的財産法、税法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例:専門書／専門雑誌レベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 棚卸に関する実務(例:権利活用状況の把握、技術トレンド、ビジネストレンド)の専門的な事項(例:実務全体の80%程度)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する業務上の課題の発見と解決を主導し、下位のレベル者に対して指導ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例:関連部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例:専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>

知財スキル標準 ver.1.0

## 価値評価(2. 2. 11) C.棚卸

	業績評価指標	業務遂行能力評価指標
<p>以下の条件の実績と経験を有する。</p> <p><b>①責任性</b> 総括責任者として対応</p> <p><b>②複雑性</b> 以下のいくつかに関する経営上の課題について、多角的な視点で様々な解決策の提案を複数回行った実績／経験を有する。(結果への寄与度50%以上)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、保有する産業財産権の権利維持・放棄方針の企画を立案／方針の作成を成功裡に行った。</li> <li>2. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、保有する産業財産権の権利維持・放棄方針の現状分析／改善を成功裡に行った。</li> <li>3. 事業戦略・知的財産戦略に沿って、保有する産業財産権の権利維持・放棄を適切に行った(少なくとも事業部門単位以上)。</li> </ol> <p><b>③重要性</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の経営に資する効果が実際に確認された(例: 保有する知的財産権のバランスを考慮し適切に棚卸を実施することによって、コストを大幅に低減させた。)。[必須]</li> <li>2. 成果が最終的には経営層／株主に参照されるに至った。</li> <li>3. 主力製品／重要な特定のテーマ(将来のものを含む)について行った。</li> </ol> <p><b>④社内外貢献</b> 以下のいくつかに相当する実績／経験を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後輩(例: レベル4～5)に対する育成指導／助言を行った。[必須]</li> <li>2. 質問に対して適切な回答／助言を行った。</li> <li>3. 社内講師を担当した。</li> <li>4. 社内委員会を主導した。</li> <li>5. 社外講習会(例: 大学・企業向けセミナー・企業間勉強会等)で講師を担当した。</li> <li>6. 社外委員会に主査的立場で参加した。</li> <li>7. 担当業務に関して業界全体のレベル向上に資する論文を執筆した。</li> </ol> <p><b>⑤その他</b></p>	<p>以下の条件の能力を有する。</p> <p><b>①事業</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の所掌業務の企業戦略／事業戦略等の中での位置づけを理解しており、他者に説明することができる。</li> <li>2. 所掌業務に関連する自社の方針(ポリシー)・社内手続を理解している。</li> <li>3. 所掌業務の経営／事業に与える影響(リスク)を自ら予測・分析し、客観的に説明できる。</li> <li>4. 所掌業務の経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>②法律</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 棚卸業務に必要な法律(例: 知的財産法、税法)・法改正情報・判例の専門的な事項(例: 専門書／専門雑誌レベル)又は広範かつ統合的な事項(例: 専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解している。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>③実務</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 棚卸に関する実務(例: 権利活用状況の把握、技術トレンド、ビジネストレンド)の高度に専門的な事項(例: 実務全体の90%程度)又は広範かつ統合的な事項(例: 専門性は必ずしも深くないが幅広い理解力があり全体を俯瞰することができるレベル)を理解し、過去に類例のないケースにも応用／展開することができる。</li> <li>2. 前記に関連する経営上の課題を発見し、あるいはその課題に対して多角的な視点で様々な解決策の提案ができる。</li> </ol> <p><b>④技術</b></p> <p><b>⑤語学</b></p> <p><b>⑥対人</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関係者から円滑に情報収集ができる。</li> <li>2. 関係者の説明を正しく理解することができる。</li> <li>3. 関係者(例: 関連部門)と連携し、協働できる。</li> <li>4. 関係者に分かりやすく説明できる(例: 専門用語を分かりやすく説明できる)。</li> <li>5. 関係者を納得させることができる。</li> <li>6. 関係者から信頼される。</li> </ol> <p><b>⑦その他</b> 複数の業務に適切な優先順位をつけて限られた時間を有効に活用して業務を遂行できる。</p>	
	<p>5</p> <p>レベル</p>	

知財スキル標準 ver.1.0